取扱説明書

ご使用の前に
よくお読みください。

CIVIC / CIVIC TYPE R

このたびはHonda車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この本は CIVIC ／CIVIC TYPE R の
取り扱いについて必要事項を説明しています。
安全で快適なドライブをお楽しみいただくために、
ご使用前に必ずお読みください。

●運転はルールを守り、マナーよく。 ・シートベルトを着用しましょう。 ・法定速度を守りましょう。 ・子供やお年寄りをいたわりましょう。 ・駐停車は、ルールに従いましょう。 ・迷惑運転はやめましょう。 ・自然環境保護に気をくばりましょう。	●お車に“ ⚠ 📖i ”の表示があるところは、ご使用前に本書の記載を確認してください。 ●取扱説明書は、メンテナンスノートと共に、いつもお車に保管してください。 ●お車をゆずられるときは、つぎに所有されるかたのためにこの取扱説明書およびメンテナンスノートを車につけておいてください。
●保証や点検整備に関することはメンテナンスノートに記載しておりますので、ご使用前に必ずお読みください。	●ご不明な点は、担当セールスマンにおたずねください。

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の読みかた

この本はドライバーの動作に沿って各部の取り扱いを説明しています。
また、装備、万一のときの応急処置、お車の手入れなど、必要な情報を説明しています。

「安全ドライブのための必読6ポイント」

重要ですので、しっかりお読みください。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

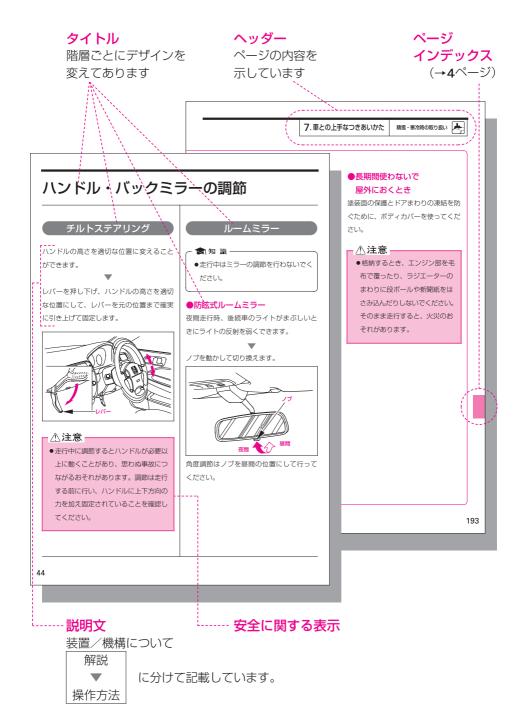
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

お車に関することや、その他のアドバイスは下記の表示を使って記載しています。

お車のために守っていただきたいこと
（車が故障・破損するのを防ぐためのアドバイス、異常事態の処置方法を記載しています）

知　識

知っておいていただきたいこと
知っておくと便利なこと

※このページはサンプルページですので、記載されている内容と実車は異なります。

本書の上手な使いかた

知りたい項目の説明がすぐ探せるように、いろいろな引きかたが用意されています。

タイトルから探すとき

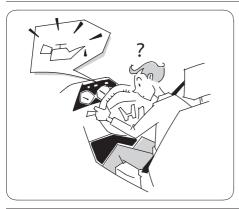
目次（P.6～P.7）

ページインデックス：
目次と対応しているので、目的のページが辞書を引くように探せます。

スイッチ類などの名称がわからないとき

ビジュアル目次（P.8～P.13）

名称から探すとき

さくいん（P.368～P.378）

メーター内にランプ(警告灯)が
点灯したとき

警告灯目次(P.14)

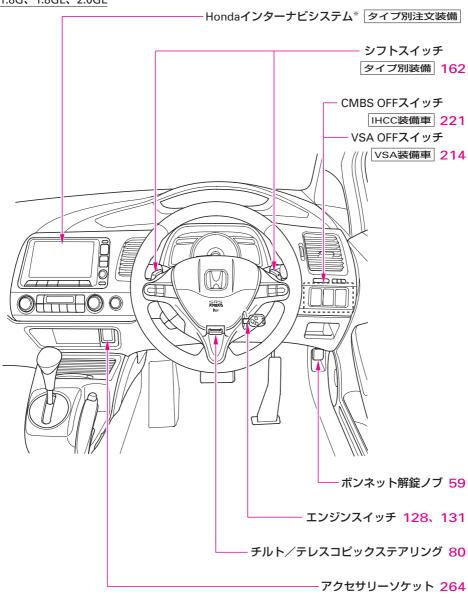
故障かな、と思ったときや
万一のとき

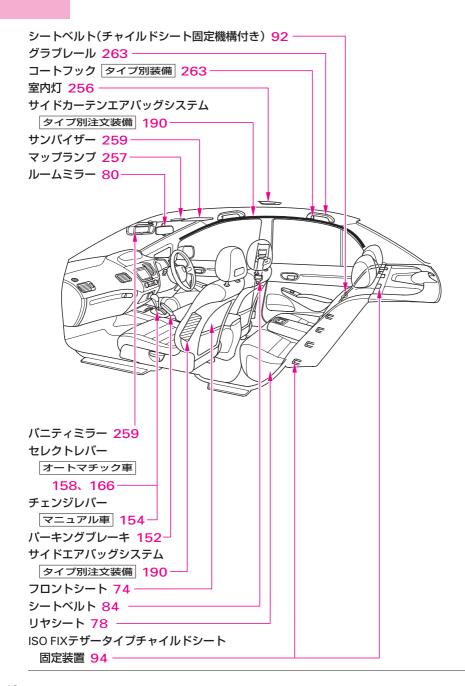
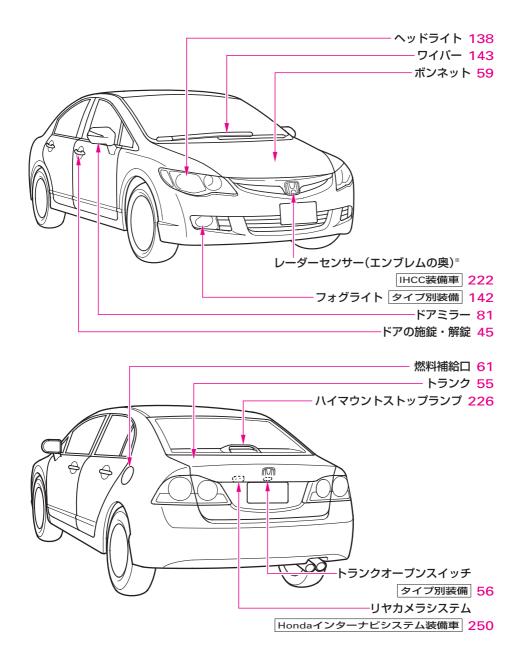
さくいん(赤色文字)
(P.368〜P.378)
「こんなことでお困りのとき」
(巻末)

目　次

ビジュアル目次

※１：別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書をご覧ください。
※２：別冊のIHCC取扱説明書をご覧ください。

1.8G、1.8GL、2.0GL

※：別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書をご覧ください。

ビジュアル目次

※：別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書をご覧ください。

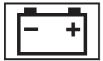
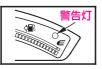
携帯電話接続端子
Hondaインターナビシステム装備車 264
SRSエアバッグシステム(助手席用) 182
SRSエアバッグシステム(運転席用) 182
パワーウィンドー
スイッチ 64
フューエル
リッド
オープナー 62
トランク
オープナー 56
ヒューズボックス 298
コンソールボックス 261
グローブボックス 261
発炎筒 266

ビジュアル目次

シートベルト（チャイルドシート固定機構付き） 92
グラブレール 263
コートフック タイプ別装備 263
室内灯 256
サイドカーテンエアバッグシステム
タイプ別注文装備 190
サンバイザー 259
マップランプ 257
ルームミラー 80
バニティミラー 259
セレクトレバー
オートマチック車
158、166
チェンジレバー
マニュアル車 154
パーキングブレーキ 152
サイドエアバッグシステム
タイプ別注文装備 190
フロントシート 74
シートベルト 84
リヤシート 78
ISO FIXテザータイプチャイルドシート
固定装置 94

※：別冊のIHCC取扱説明書をご覧ください。

警告灯目次

安全ドライブのための
必読6ポイント

ご使用の前に知っておいていただきたいこと、
守っていただきたいことをまとめてあります。

1 お出かけまえに…

点検をわすれずに。
＜メンテナンスノート参照＞

- 道路運送車両法により、法定定期点検と日常点検が義務づけられています。
  安全・快適にお使いいただくために、Hondaの点検要領に従って必ず点検してください。
  日常点検は車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検で、お客様自身で実施が可能な項目となっています。
- 普段と違う点に気づいたら、Honda販売店で点検を受けてください。
  （音、におい、ブレーキ液の不足、地面に油のあとが残っている時…）
- 走行中も車の状態に気を配り、いつもと違う音やにおい、運転感覚などを感じたら早めに点検しましょう。

シートベルトを正しく着用。
＜84ページ参照＞

- 運転する人はもちろん、同乗する人にも必ず着用させてください。
- シートに深く腰かけ、背もたれは必要以上に倒さないでください。
- 腰骨のできるだけ低い位置に着用してください。

- ベルトにねじれがないか確かめてください。

- ベルトがくび、あご、顔などに当たらないようにしてください。

- 一本のベルトを二人以上で使用しないでください。

燃料の入った容器やスプレー缶などはのせないで。

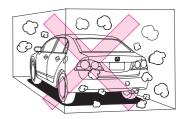
引火、爆発のおそれがあります。

運転の妨げになる物には注意を。

- **運転者の足もとに、物を置かないでください。**
- **フロアマットが、ペダルに引っかからないように注意してください。**
  ブレーキやアクセルのペダル操作が、確実にできないおそれがあります。

- **手荷物はシートの高さを越えないようにしましょう。**
  後方視界を妨げたり、急ブレーキのときなどに荷物がとび出すおそれがあります。

排気ガスには十分に気をつけて。

- **排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
- **車庫や屋内などの換気の悪いところでは、エンジンをかけたままにしないでください。**
  車内や屋内などに排気ガスが充満し一酸化炭素中毒のおそれがあります。

- **排気管に穴や亀裂があったり、排気音の異常に気づいたらHonda販売店で点検を受けてください。**
  車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

お子さまに思いやりを

お子さまは、うしろの席に。

●**助手席にのせるのは避けましょう。**

- 不意の動作が気になったり、スイッチ・レバー類のいたずらなど運転の妨げになるおそれがあります。また、事故が起きた場合、後席のほうが安全といわれています。
- インストルメントパネルに手をついたり、顔や胸を近づけた状態での乗車は、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受けるおそれがあり危険です。
- サイドエアバッグ装備車では、フロントドアに寄りかかった状態での乗車は、サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受けるおそれがあり危険です。
- お子さまを後席に乗せることができなく、やむをえず助手席に乗せるときは、一番大きなお子さまを乗せてください。

お子さまにもシートベルトを。

●**お子さまにも必ずシートベルトを着用させるか、チャイルドシート※をお使いください。**
お子さまを抱いていても、衝突したときなどに支えることができず危険です。

※：乳児用シート、幼児用シート、学童用シートをまとめた総称として「チャイルドシート」と呼んでいます。

● **お子さまのくびやあごにシートベルトがあたる場合や腰骨にかからない場合は、幼児用シートや学童用シートを使用してください。**

・シートベルトをそのまま使うと衝突のときに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
また、ひとりですわることのできない小さなお子さまは乳児用シートを使用してください。

・チャイルドシートは安全装備です。国土交通大臣が型式を指定または認定したマークが付いているもの、もしくはアメリカやヨーロッパなどの安全基準に合格しているものを必ず選んでください。

・シート形状などにより、チャイルドシートを正しく取り付けできない席があります。このようなときは、他の席で試してください。または、この車に合ったチャイルドシートを使用してください。

・この車には、ISO FIX テザータイプのチャイルドシートを固定するための固定専用バーとテザーアンカーが装備されています。
この車用に認可を取得したチャイルドシートのみ固定し、使用することができます。

ISO FIXテザータイプチャイルドシート固定装置　→94ページ

・Honda純正品のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。

《選択の目安》
詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ISO FIXタイプを除く

	体重(kg)	参考身長(cm)	参考年令
乳児用(ベビー)シート	～10	～75	～12か月
幼児用(チャイルド)シート	9～18	70～100	9か月～4才
学童用(ジュニア)シート	15～32	100～135	4才～10才

ISO FIXテザータイプ

	体重(kg)	参考身長(cm)	参考年令
乳児用(ベビー)シート	～9	～70	～9か月
幼児用(チャイルド)シート	9～18	70～100	9か月～4才

●チャイルドシートは確実に取り付けてください。

お子さまを乗せるときは、チャイルドシートが車に確実に取り付けられていることを確認してください。
また、お子さまの体をチャイルドシートにきちんと固定してください。

・ISO FIX対応以外のチャイルドシートは、シートベルトの種類やチャイルドシートの種類と取り付けの向きによっては、固定金具(ロッキングクリップ)が必要になることがあります。

シートベルトの種類 →86ページ
チャイルドシート固定機構付きシートベルト →92ページ

・ISO FIX テザータイプのチャイルドシートは、固定専用バーとテザーアンカーを用いて固定します。
テザーアンカーにテザーストラップを結合することにより、チャイルドシートを確実に固定することができます。
チャイルドシートを前向きに取り付けるときは、このバーとテザーアンカーを用いて固定します。
後ろ向きに取り付けるときは、テザーアンカーは使用しません。

・ISO FIX テザータイプのチャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

ISO FIXテザータイプチャイルドシート固定装置 →94ページ

・詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

●助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。

・SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け危険です。

・やむをえず幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。

●チャイルドシートを取り外したまま車内に放置しないでください。

ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。
お子さまを乗せないときでも確実に取り付けるか、家などに保管してください。

ドア、ウィンドー、シートの操作は必ず大人が。

- **手、足、顔などをはさまないよう、気をつけてください。**
- **走行する前にすべてのドアが完全に閉まっていることを確認してください。**

  ドアが完全に閉まっていないと走行中にドアが開き、思わぬ事故の原因となります。
- **チャイルドプルーフを使って後席ドアを車内から開かないようにしてください。**

  ＜53ページ参照＞

  走行中にドアを開けると、お子さまが車外に放り出されるおそれがあります。
- **パワーウィンドーのメインスイッチは、“OFF”にしておきましょう。**

  ＜64ページ参照＞
- **走行中、一時停止のときなど、窓から手や頭、物などを出さないよう、注意してください。**

  思わぬ障害物で事故のおそれがあります。

お子さまをシートベルトで遊ばせないで。

- **チャイルドシート固定機構付きシートベルトでは、ベルトをすべて引き出すと完全にベルトを戻すまでは引き出し方向には動きません。**

  ベルトを身体に巻きつけたりして遊んでいると、固定機構が作動してベルトがゆるまなくなり、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。

  万一ベルトをゆるめることができなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。

車から離れるときは、お子さまも一緒に連れて。

- **お子さまだけを車内に残さないでください。**
  - 炎天下の車内は、高温になり危険です。
  - お子さまのいたずらにより車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

3 正しい知識で最適運転

- **走行中ハンドルの中に手を入れて、スイッチを操作しないでください。**
  ハンドル操作の妨げになり大変危険です。
- **走行中はエンジンを止めないでください。**
  ・ブレーキ倍力装置が作用しないため、ブレーキの効きが悪くなります。
  ・パワーステアリングのパワー装置がはたらかなくなり、ハンドル操作が重くなります。
  ・マニュアルトランスミッション車は、エンジンスイッチを“0”にすると、キーが抜けることがあり、ハンドルがロックされ危険です。

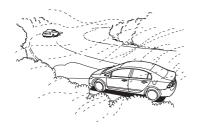
長い下り坂ではエンジンブレーキを。

- **ブレーキペダルを踏み続けて走行するとブレーキが過熱して、効きが悪くなることがあります。**
- **長い下り坂では、走行速度に合わせ、ギヤを一段ずつ落として、エンジンブレーキを併用してください。**
  ・オートマチック車（1.8G）は[D3]にして、エンジンブレーキを使用してください。[D3]のままで速度が出すぎるときは[2]または[1]にし、さらに強いエンジンブレーキを使用してください。
  ・オートマチック車（1.8ＧＬ、2.0ＧＬ）はシフトスイッチを引いてシーケンシャルモードにし、走行速度に合わせてギヤを一段ずつ落としてください。

シーケンシャルモード
→161ページ

エンジンブレーキ：
走行中アクセルペダルを戻したときにかかるブレーキ力のことで、低速ギヤほどよく効きます。

霧が出たときは。

● **霧が出たときは、視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレールや前の車の尾灯などをめやすにして、速度を落として運転してください。**

横風の強い日は。

● **横風を受け、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に下げて進路を立て直してください。**

トンネルの出口、橋・土手の上、山を削った切り通し、大型トラックを追い越したり、追い越されたりするときなどには、特に横風の影響を受けやすいので十分注意してください。

安全ドライブのための必読6ポイント

雨天時の走行には注意を。

- **雨天時やぬれた道路では、路面が滑りやすくなっておりタイヤのグリップ力が低下するため、通常より注意深い運転が必要です。**
  急加速、急ブレーキや急ハンドルを避け、スピードを落として安全運転に心がけてください。
- **わだちなどの水のたまりやすい場所では、ハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。**
  ハイドロプレーニング現象とは
  →350ページ
- **冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。**
  エンジンの破損や電装品の故障および車両故障につながるおそれがあります。

水たまりに入ったあとはブレーキの効き具合を確認。

- **水たまり走行後や洗車後は、低速で走行しながらブレーキペダルを軽く踏んで効き具合を確認してください。**
  ぬれたブレーキは効きが悪かったり、ぬれていない片側だけが効いてハンドルをとられることがあります。
- **ブレーキの効きが悪いときは、前後の車に十分注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。**

走行中異常があったら。

- **警告灯が点灯したら、ただちに安全な場所に停車し処置をしてください。**
  <116ページ参照>
  点灯したまま走行を続けると、思わぬ事故のもとになったり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- **走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）してもあわてずに、ハンドルをしっかり握り、徐々にブレーキをかけてスピードを落とし、安全な場所に停車してください。**
  急ブレーキや急ハンドルは車のコントロールを失うことがあり危険です。
- **床下に強い衝撃を受けたときは、ただちに車を止めて、ブレーキ液や燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。**
  ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

4 オートマチック車の注意ポイント

オートマチック車は、その特性や操作上の注意をよく理解することが大切です。
「オートマチック車の運転のしかた」もあわせてお読みください。
＜170ページ参照＞

オートマチック車の特性を正しく理解。

クリープ現象とは

- エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがPN以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出します。
  これをクリープ現象といいます。

キックダウンとは

- DまたはD3で走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り換わり、エンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。
  これをキックダウンといいます。

1 ブレーキは右足で。

● ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけましょう。
不慣れな左足では、適切なブレーキ操作ができません。

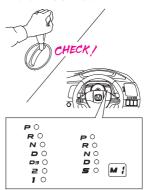
2 エンジンをかけるまえに。

● ペダルの踏みまちがいのないよう、右足でペダルの位置を確認しておきましょう。

3 エンジンをかけるとき。

● 安全のため、セレクトレバーは駆動輪が固定されるⓅでエンジンをかけましょう。

4 スタートするとき。

● 思いちがいを防ぐため、セレクトレバーの位置を目で確認しましょう。

● 発進時のセレクトレバーの操作は、右足でブレーキペダルをしっかり踏み、車が動かないようにして行いましょう。

● アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しないでください。
急発進して思わぬ事故のもとになります。

● エンジン始動直後は、自動的にエンジンの回転が上がり、クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルはしっかり踏んでいてください。
エアコン作動時も同じです。

● 坂道での発進は車が後退しないように必ずパーキングブレーキを併用し、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

5 走行しているとき。

- **走行中は、セレクトレバーをⓃにしないでください。**
エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故のもとになります。

- **上り坂で、速度を保とうとしてアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより、急にエンジン回転が上がり、思ったより速度が出てしまうことがあります。**
アクセルペダルは、慎重に操作してください。
また、すべりやすい路面やカーブでは、急激なアクセルペダル操作は避けてください。
- **下り坂では、エンジンブレーキも使いましょう。**
フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが過熱して、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

エンジンブレーキ →22ページ

6 停車しているとき。

- **車が動かないようにブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけましょう。**
- **停車中の空ぶかしは、やめましょう。**
万一、セレクトレバーがⓅⓃ以外のとき、思わぬ急発進のもとになります。

7 駐車するとき。

- **駐車するときは、パーキングブレーキをかけてセレクトレバーをⓅに入れ、エンジンを止めましょう。**
万一、セレクトレバーがⓅⓃ以外に入っていると、クリープ現象で車が動き出したり、乗り込むときに、誤ってアクセルペダルを踏み込んで急発進したりするおそれがあります。

ほかに気をつけたいこと。

● **セレクトレバーは正しい位置で使用してください。**
坂道などで、前進(D、D3、2、1またはD、S)の位置にしたまま惰性で後退したり、後退(R)の位置にしたまま前進したりすると、エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなり、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

● **後退したあとは、すぐRからNにもどす習慣をつけましょう。**
ちょっと後退したときなど、Rに入れたことを忘れてしまうことがあります。

● **前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。**
車が完全に止まらないうちにレバーを操作すると、トランスミッション破損のおそれがあります。

● **車が完全に止まらないうちに、Pに入れないでください。**
急停止して危険であるばかりでなく、トランスミッション破損のもとになります。

シフトロック装置の正しい理解を。

● **ブレーキペダルを踏んでいないと、Pからのセレクトレバー操作はできません。**
・エンジンスイッチが、“Ⅰ”または“0”のときには、ブレーキペダルを踏んでも、レバーは操作できません。
・セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。

● **P以外では、エンジンスイッチからキーは抜けません。**
P以外では、キーが“Ⅰ”から“0”に回りません。

● **Rに入れるとチャイムが鳴ります。**
・セレクトレバーがRのときにチャイムが鳴り、Rに入っていることを運転者に知らせます。
・車外の人には音が聞こえませんので、ご注意ください。

● **万一、Pからセレクトレバーが操作できないときは:**
・カバーを外し、
→173ページ
・キーをシフトロック解除穴に差し込み、
・キーを押しながら、セレクトレバーを操作します。

5 駐車や停車はしっかりと

可燃物には注意を。

- **枯草や紙、油、木材など燃えやすい物があるところには、駐停車しないでください。**
  排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植込みなどにも注意して。

- **植込みなどの近くに駐停車するときには、排気ガスが当たらないように、車の向きを決めましょう。**

仮眠するときはエンジンを止める。

● **エンジンを必ず止めてください。**
無意識にチェンジレバーやセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
また、無意識にアクセルペダルを踏み続けたりした場合、オーバーヒートなどを起こしたり、エンジンや排気管などの異常過熱による火災事故が発生するおそれがあります。
さらに風向や周囲の状況等によっては、車内に排気ガスが侵入し一酸化炭素中毒のおそれもあります。

車から離れるときには施錠を。

● **必ずパーキングブレーキをかけ、エンジンを止め、ドアを施錠してください。**
● **車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。**
● **お子さまも連れていきましょう。**

車の移動はエンジンをかけて。

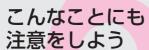
● **車を移動するときは、必ずエンジンをかけてください。**
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故を招くことがあります。

坂道での駐車は。

● **パーキングブレーキをかけ、チェンジレバーまたはセレクトレバーを下表の位置に入れてください。**

	マニュアル車	オートマチック車
上り坂	1	P
下り坂	R	
平地		

さらに、タイヤに輪止めをすると効果があります。

こんなことにも注意をしよう

タバコの吸いがらは火を消して。

- **タバコ、マッチなどは、確実に火を消してから灰皿に捨て、灰皿は必ず閉めてください。**
- **灰皿の中に吸いがらをため過ぎたり、燃えやすい物を入れたりしないでください。**

（灰皿は別売りです。）

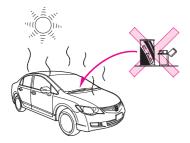
アクセサリーの取り付けには注意を。

- **運転視界の中にアクセサリーなどを取り付けないでください。**
  - 視界の妨げにより思わぬ事故のもとになります。
  - アクセサリーなどの揺れる動きが、車外の状況認識を遅らせることがあります。
- **ガラス面にアクセサリーなどを取り付けないでください。**
  - 吸盤がレンズのはたらきをして火災につながるおそれがあります。

飲み物などを電装品にこぼさないように注意して。

オーディオやスイッチなどの電装品に飲み物がかかると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあります。
万一、電装品に飲み物をこぼしたときは、Honda販売店にご相談ください。

車内にライターや炭酸飲料缶などを放置しないで。

炎天下での駐車などで車内温度が上昇すると、ライターなどの可燃物は自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

ラジエーターキャップに気をつけて。

● **ラジエーターキャップが熱いときは、外さないでください。**
蒸気や熱湯が吹き出し危険です。

ハンドルをいっぱいに回した状態をつづけない。

TYPE R

● **ハンドルをいっぱいに回した状態から、さらに回そうとする力をかけつづけないでください。**
パワーステアリングポンプがオイル潤滑不良をおこし、損傷することがあります。

動物を乗せるときは、動きまわらないように注意して。

運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあります。

携帯電話の使用は停車中に。

● **運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。**
・運転者が運転中にハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。
・運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

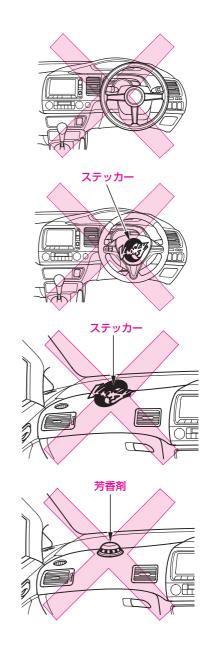
改造はしない。

● **Honda純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を、使用しないでください。**
・適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりすることがあります。
・Hondaが国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違反になることがあります。

● **ホイールは、CIVIC、CIVIC TYPE R専用品をご使用ください。**
専用品以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすことがあります。
Honda販売店にご相談ください。

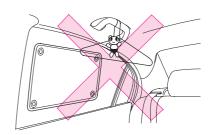
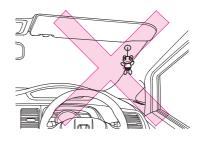
● **無線装置や自動車電話などの取り付けの際には、必ずHonda販売店にご相談ください。**
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

●運転席および助手席に、SRSエアバッグシステムが装備されています。ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったりしないでください。
インストルメントパネル上面には、ステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤など物を置かないでください。
また、フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。

・SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。
・作動時にこれらの物が飛ぶことがあり危険です。
・次の場合は、必ず、Honda販売店にご相談ください。
①ハンドルまわりの修理
②センターコンソール付近の修理
③カーステレオ等用品の取り付け
④ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
⑤インストルメントパネルまわりの修理

●運転席および助手席用サイドエアバッグシステム装備車は、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどの用品を取り付けたりしないでください。
フロントシートとドアの間付近に傘などの物を置かないでください。
フロントシートにシートカバーを取り付けないでください。
また、新車時についているビニールのシートカバーは、必ず外してください。

・サイドエアバッグが正常に機能しなくなります。
・作動時にこれらの物が飛ぶことがあります。
・次の場合は、必ず、Honda販売店にご相談ください。
①フロントシートまわりの修理
②センターコンソール付近の修理
③カーステレオ等用品の取り付け
④センターピラーまわりの修理

● **サイドカーテンエアバッグシステム装備車は、グラブレールに物をかけないでください。**
コートフックには、ハンガーや重い物、とがった物をかけたりしないでください。
フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けないでください。
また、座席に荷物を載せるときは、ドアガラス下端部の高さを越えないようにしてください。

・サイドカーテンエアバッグが正常に機能しなくなります。
・作動時にこれらの物が飛ぶことがあり危険です。
・次の場合は、必ず、Honda販売店にご相談ください。
①フロント、センター、リヤの各ピラーまわりの修理
②ルーフサイドまわりの修理
③センターコンソール付近の修理
④カーステレオ等用品の取り付け

発進するときは、まわりの状況に十分注意して。

車のまわりには運転席から見えないところ(死角)があります。発進するときは子供や障害物など車のまわりの状況に十分注意してください。

- 駐車後に発進するときは、車のまわりの安全確認を十分に行ってください。

- 後退するときに十分な視界が得られない場合は、車から降りて後方を確認してください。
  バックミラーでは確認しきれない死角(車の直後など)があります。

- 信号待ちなどの停車後に発進するときは、つねにまわりの状況に目を配り、安全確認を十分に行ってください。

エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから。

- エンジンの温度が高い状態でエンジンを停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。エンジンルーム内を点検する場合は、ファンが止まってから行ってください。

車止めなどに注意して。

TYPE R

● **この車は、最低地上高が低く設計され、タイヤも超偏平タイヤを装着しています。**
次のような場合には、フロントバンパー、マフラー、床下やアルミホイールを損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。
- ・車止めのある場所への駐車
- ・路肩に沿っての駐車
- ・平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- ・路肩等段差のある場所への乗り降り
- ・凹凸やわだちのある道路の走行
- ・くぼみ(穴)のある個所の通過

1

車を運転する前に

●各部の開閉

●セキュリティーシステム

●シートの調節

●ハンドル・バックミラーの調節

●シートベルト

●チャイルドシート固定装置

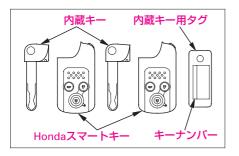
各部の開閉

キーの種類

この車には、以下のキーが付いています。すべてのキーには、イモビライザー機能（車両盗難防止装置）が付いています。

イモビライザーシステムについて
→68ページ

Hondaスマートキーシステム非装備車

Hondaスマートキーシステム装備車

知 識

- タグにはキーナンバーが表示してあります。キーを購入する際に必要となりますので、紛失しないように、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。
- キーを紛失したときや、追加したいときは、Honda販売店へご連絡ください。

●キー

Hondaスマートキーシステム非装備車、トランクオープンスイッチ非装備車

キーは、エンジンの始動、停止のほかに、ドアの施錠・解錠に使えます。

Hondaスマートキーシステム非装備車、トランクオープンスイッチ装備車

キーは、エンジンの始動、停止のほかに、ドアとトランクの施錠・解錠に使えます。

ドアの施錠・解錠　→45ページ
エンジンのかけかた　→148ページ

●キーレスエントリー一体キー

Hondaスマートキーシステム非装備車、トランクオープンスイッチ非装備車

キーはエンジンの始動、停止のほかに、ドアの施錠・解錠に使えます。
キーレスエントリーでは、ドアの施錠・解錠およびトランクを開けることができます。

Hondaスマートキーシステム非装備車、トランクオープンスイッチ装備車

キーは、エンジンの始動、停止のほかに、ドアとトランクの施錠・解錠に使えます。
キーレスエントリーでは、ドアの施錠・解錠およびトランクを開けることができます。

ドアの施錠・解錠　→45ページ
トランクボタン　→56ページ
エンジンのかけかた　→148ページ

アドバイス

- キーおよびキーレスエントリー一体キーには、信号を発信するための精密な電子部品が組み込まれています。
  電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - 直射日光が当たるところ、高温、多湿になるところには置かないでください。
  - 衝撃を与えないでください。
  - 水にぬらさないでください。
  - 分解しないでください。
  - 火であぶったりしないでください。
- 電子部品が故障すると、エンジンの始動ができなくなったり、キーレスエントリーが正常に作動しなくなったりします。
  そのようなときは、Honda販売店にご連絡ください。

知　識

- キーレスエントリーは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

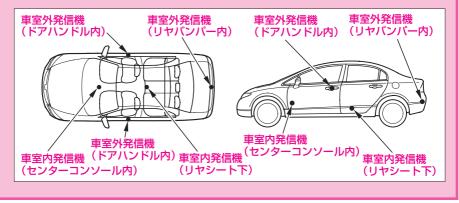
●Hondaスマートキー（キーレスエントリー機能付き）

Hondaスマートキーシステム装備車

Hondaスマートキーを携帯することで、ドアとトランクの施錠・解錠やエンジンの始動、停止およびトランクを開けることができます。
キーレスエントリーでは、ドアとトランクの施錠・解錠およびトランクを開けることができます。

ドアの施錠・解錠　→45ページ
トランク　→55ページ
エンジンのかけかた　→148ページ

⚠注意

- ドアやトランクを施錠・解錠するときやエンジンスイッチを操作するとき、トランクを開けるときなどに車両からHondaスマートキーシステムの電波が発信されます。
  その際、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える可能性があります。
  車両に搭載されている発信機から22cm以内に植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器が近づかないようにしてください。
  その他の医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

●内蔵キー

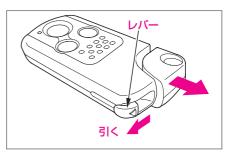
Hondaスマートキーシステム装備車

内蔵キーはエンジンの始動、停止のほかに、ドアとトランクの施錠・解錠に使えます。

ドアの施錠・解錠　→45ページ
エンジンのかけかた　→148ページ

Hondaスマートキーの電池が消耗したときや故障したときなどを考慮して、内蔵キーはHondaスマートキーに収納した状態で携帯してください。

取り出すとき

レバーを引きながら取り出します。

収納するとき

“カチッ”と音がするまで差し込みます。

アドバイス

- Hondaスマートキーおよび内蔵キーには、信号を発信するための精密な電子部品が組み込まれています。電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ・直射日光が当たるところ、高温、多湿になるところには置かないでください。
  - ・衝撃を与えないでください。
  - ・水にぬらさないでください。
  - ・分解しないでください。
  - ・火であぶったりしないでください。
  - ・磁気を帯びたキーホルダーなどを付けないでください。
  - ・テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置かないでください。
- 電子部品が故障すると、エンジンの始動ができなくなったり、Hondaスマートキーシステムおよびキーレスエントリーが正常に作動しなくなったりします。
  そのようなときは、Honda販売店にご連絡ください。

知　識

- Hondaスマートキーシステムは、車両とHondaスマートキーとの電子照合を行うときに微弱な電波を使用しています。
  次のような場合、正常に作動しなかったり、不安定な動作となることがあります。
  - ・近くに強い電波を発する設備があるとき。
  - ・Hondaスマートキーを携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンなどと一緒に携帯しているとき。
  - ・Hondaスマートキーが金属物に触れていたり覆われているとき。
- Hondaスマートキーは常に電波を受信しているため、強い電波を受信し続けた場合は、電池を著しく消耗することがあります。
  テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。
- Hondaスマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況によりますが約２年です。

電池消耗警告　→137ページ
電池交換のしかた　→318ページ

ドアの施錠・解錠

⚠注意

●走行する前にすべてのドアが完全に閉まっていることを確認してください。完全に閉まっていないと、走行中にドアが開き思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

知 識

●ドアは不用意に開けると後続車などがぶつかることがあるので周囲の安全を確かめてから開けてください。
●強風時にドアを開閉するときは、風にあおられないよう注意してください。
●車から離れるときは、エンジンを止め、ドアを必ず施錠してください。また、車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。
●運転席ドアの解錠・施錠に連動して、室内灯が点灯・消灯します。

室内灯 →256ページ

●キーで施錠・解錠するとき

トランクオープンスイッチ非装備車

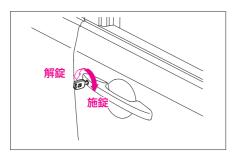
キーを確実に差し込んで回します。
運転席ドアを施錠(解錠)すると、他のすべてのドアも同時に施錠(解錠)します。

トランクオープンスイッチ装備車

キーを確実に差し込んで回します。
運転席ドアを施錠(解錠)すると、他のすべてのドアとトランクも同時に施錠(解錠)します。

Hondaスマートキーシステム装備車

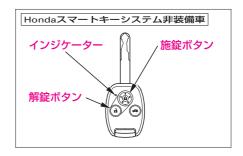
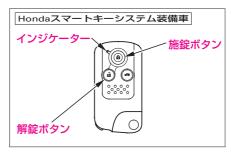
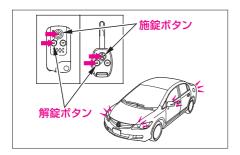
内蔵キーを使用するときは、Hondaスマートキーから取り出します。

内蔵キー →43ページ

●キーレスエントリーで施錠・解錠するとき

トランクオープンスイッチ非装備車

施錠ボタンを押すとすべてのドアが施錠され、解錠ボタンを押すとすべてのドアが解錠されます。

トランクオープンスイッチ装備車

施錠ボタンを押すとすべてのドアとトランクが施錠され、解錠ボタンを押すとすべてのドアとトランクが解錠されます。

キーレスエントリーで施錠・解錠を行うと、非常点滅表示灯が施錠時は1回、解錠時は2回点滅します。

知　識

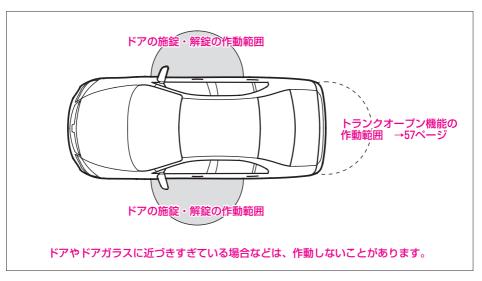
- 作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられますので、早めに電池を交換してください。ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は電池切れです。

  電池交換のしかた　→318ページ
- キーレスエントリーで解錠してから約30秒以内にドアを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。
- 次の場合、キーレスエントリーは作動しません。
  - ・エンジンスイッチが“0”以外のとき。
  - ・エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき。
  - ・ドアが開いているとき。（施錠時のみ）

●Hondaスマートキーで施錠・解錠するとき

Hondaスマートキーシステム装備車

ドアの施錠・解錠の作動範囲

ドアの施錠・解錠が作動する範囲は、運転席または助手席ドアハンドルから周囲約80cmの範囲です。

Hondaスマートキーは運転者が携帯してください。車内にHondaスマートキーを残したまま降車しないでください。

知　識

- Hondaスマートキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所などでは、作動範囲が狭くなったり、作動が不安定になることがあります。

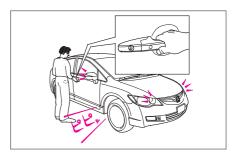
キーで施錠・解錠するとき　→46ページ

- ドアハンドルより約80cm以内の距離でも、Hondaスマートキーが地面の近くや高い位置にある場合は、作動しないことがあります。
- 運転席ドアが施錠されているときに、トランクを閉めると、トランクも施錠されます。Hondaスマートキーをトランク内に置き忘れないでください。

ドアの施錠

すべてのドアが閉まっているのを確認します。運転席または助手席ドアハンドルのロックセンサーに触れると、すべてのドアとトランクが施錠されます。このとき、アンサーバックブザーが“ピッ”と鳴り、非常点滅表示灯が１回点滅します。

ドアの解錠

運転席または助手席ドアハンドルを握ると、すべてのドアとトランクが解錠されます。このとき、アンサーバックブザーが“ピピッ”と鳴り、非常点滅表示灯が２回点滅します。

知　識

- Hondaスマートキーで解錠してから約30秒以内にドアを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。
- Hondaスマートキーを携帯している人が同じ側の作動範囲内にいるときは、Hondaスマートキーを携帯していない人がロックセンサーに触れても施錠され、ドアハンドルを握っても解錠されます。
- 革製やスキー用の手袋などをつけてロックセンサーに触れたり、ドアハンドルを握ったりした場合、施錠・解錠が遅れたり、施錠・解錠されないことがあります。
- ドアハンドルを握った直後に引くと、ドアが開かないことがあります。ドアハンドルをもう一度握り直し、解錠されていることを確認してから引いてください。
- Hondaスマートキーが、ドアの施錠・解錠の作動範囲内にある場合、大雨や洗車などでドアハンドルに多量の水がかかると、ドアとトランクが施錠または解錠されることがあります。解錠してから約30秒以内にドアを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。
- ドアを施錠後約 2 秒間は、ドアハンドルを握ってもドアは解錠しないようになっています。
- 施錠・解錠時のブザー(アンサーバックブザー)の音量を変えることや、ブザーが鳴らないようにすることができます。

カスタマイズ機能

Hondaスマートキーシステムでは、以下の機能の設定を変更することができます。

機能	工場出荷時の設定	変更できる設定内容
アンサーバックブザー音量 (→49・58ページ)	大	小
アンサーバックブザー作動 (→49・58ページ)	作動	非作動

カスタマイズ機能の詳細については、Honda販売店にご相談ください。

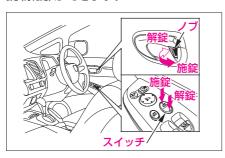
●車内から施錠・解錠するとき

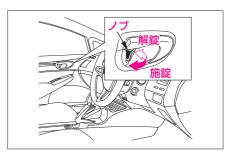
運転席ドア

トランクオープンスイッチ非装備車

運転席ドア部のスイッチまたはノブを操作すると、すべてのドアの施錠（解錠）ができます。

トランクオープンスイッチ装備車

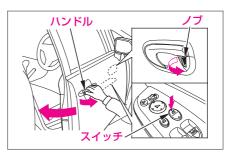
運転席ドア部のスイッチまたはノブを操作すると、すべてのドアとトランクの施錠（解錠）ができます。

その他のドア

ノブを施錠（解錠）の方向に動かします。

●キーを使わないで施錠するとき

知　識

- キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

運転席ドア

①ドアのハンドルを引いたままノブまたはスイッチを施錠の方向に動かします。

②ドアを閉めます。

トランクオープンスイッチ非装備車

運転席ドアを施錠すると、他のすべてのドアも同時に施錠されます。

トランクオープンスイッチ装備車

運転席ドアを施錠すると、他のすべてのドアとトランクも同時に施錠されます。

・キー閉じ込み防止装置

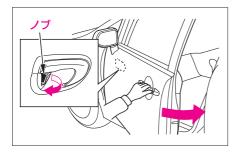
キーがエンジンスイッチに差し込まれたままだと、施錠できません。

Hondaスマートキーシステム装備車

Hondaスマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

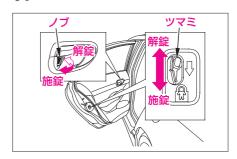
エンジン始動の作動範囲　→132ページ

その他のドア

ノブを施錠の方向に動かしてドアを閉めます。

●チャイルドプルーフ

ノブの位置に関係なく、後席ドアが車内から開かなくなります。お子さまを乗せるときなどにお使いください。

▼

ツマミを施錠の位置にしてドアを閉めます。

ドアを開く場合は、外側のドアハンドルで開けます。

知　識

●車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

●オートドアロック

車速連動

トランクオープンスイッチ非装備車

車速が約15km/h以上になると、すべてのドアが自動的に施錠されます。

トランクオープンスイッチ装備車

車速が約15km/h以上になると、すべてのドアとトランクが自動的に施錠されます。

●オートドアアンロック

セレクトレバー連動 オートマチック車

トランクオープンスイッチ非装備車

セレクトレバーをⓅに入れたときに、すべてのドアが自動的に解錠されます。

トランクオープンスイッチ装備車

セレクトレバーをⓅに入れたときに、すべてのドアとトランクが自動的に解錠されます。

エンジンスイッチ連動

マニュアル車、
Hondaスマートキーシステム非装備車

エンジンスイッチを“II”から“I”または“0”にしたときに、すべてのドアが自動的に解錠されます。

●衝撃感知ドアロック解除システム

トランクオープンスイッチ非装備車

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドアを解錠します。

トランクオープンスイッチ装備車

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドアとトランクを解錠します。

作動するとき

正面からの衝撃では、SRSエアバッグが作動したときに解錠します。
サイドエアバッグシステム装備車は、側面からの衝撃でサイドエアバッグが作動したときにも解錠します。
エアバッグが作動しない後面からの衝撃では、衝撃が大きいと解錠します。
安全性を考慮して、衝撃が加わってから約10秒後に解錠します。

知 識

- 衝撃の加わりかたや、大きさによっては解錠しない場合があります。

トランク

⚠注意

- トランクを閉めるときは手などをはさまないように注意してください。
- エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないでください。
  やけどなど思わぬけがをすることがあります。
- トランクルーム内には人を乗せないでください。
  ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
- トランクは中から開けることはできません。お子さまが入らないよう注意してください。

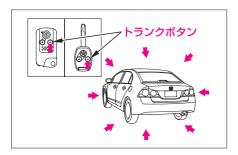
知　識

- トランクを開けたまま走行しないでください。
  車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。
- トランクを閉めるときは次のことに気をつけてください。
  - ・Hondaスマートキーまたはキーをトランク内に置き忘れないでください。
  - ・トランク上面を強く押さえないでください。
- トランクは途中までしか開けていないと自重で閉まることがあります。
- 風にあおられて閉まることがあります。特に風の強いときは、ご注意ください。
- トランクを開けるときは、トランクを静かに引き上げてください。

●トランクオープナーで開けるとき

運転席右下にあるトランクオープナーを引き上げると、トランクが解錠され浮き上がります。

●キーレスエントリーで開けるとき

トランクボタンを約１秒押すと、トランクが解錠され浮き上がります。

知 識

- エンジンスイッチが“０”以外のときは、キーレスエントリーのトランクボタンでは開けられません。

●トランクオープンスイッチで開けるとき

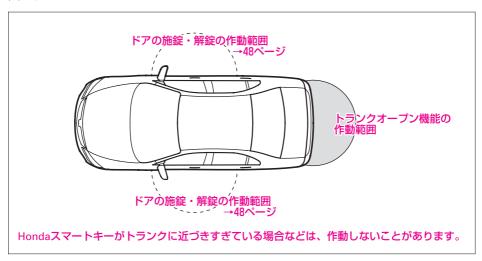
トランクオープンスイッチ装備車

運転席ドアを解錠(施錠)すると、他のすべてのドアとトランクも同時に解錠(施錠)します。

ドアの施錠・解錠　→45ページ

トランクが解錠されているときにトランクオープンスイッチを押すと、トランクが浮き上がります。

●Hondaスマートキーを携帯して開けるとき

トランクオープン機能の作動範囲は、トランクオープンスイッチから周囲約80cmの範囲です。

Hondaスマートキーは必ず携帯してください。トランク内にHondaスマートキーを置かないでください。

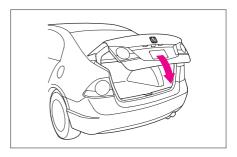
知　識

- Hondaスマートキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所などでは、作動範囲が狭くなったり、作動が不安定になることがあります。
- Hondaスマートキーが作動範囲内にあると、Hondaスマートキーを携帯していない人でも、トランクオープンスイッチを押すと、トランクを開けることができます。
- トランクオープンスイッチより約80cm以内の距離でも、Hondaスマートキーが地面の近くや高い位置にある場合は、作動しないことがあります。
- 解錠時のブザー(アンサーバックブザー)の音量を変えることや、ブザーを鳴らないようにすることができます。

カスタマイズ機能　→50ページ

Hondaスマートキーを携帯してトランクオープンスイッチを押すと、トランクが解錠され浮き上がります。このとき、アンサーバックブザーが“ピッ”と鳴ります。

●閉めるとき

トランクを確実に閉めます。

トランクオープンスイッチ非装備車

トランクは、閉めると施錠されます。

トランクオープンスイッチ装備車

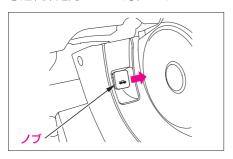
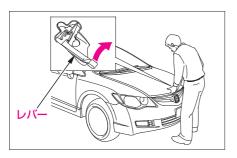
運転席ドアが施錠されているときに、トランクを閉めると、トランクも施錠されます。

運転席ドアが解錠されているときは、トランクを閉めても、トランクは施錠されません。

ドアの施錠・解錠　→45ページ

ボンネット

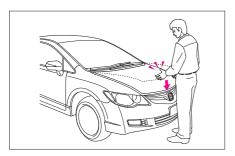
●開けかた

①運転席足元のノブを引きます。

②ボンネット前部が少し浮き上がるので、レバーを上へ押しながら開けます。

知　識

● ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けないでください。ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷します。

③ステーをかけるときは、グリップ部を持ち、確実に固定します。

●閉めかた

ステーを外し、クランプに納めます。
ボンネットを静かに下げ、手を離します。

ボンネットが完全に閉まっていることを確認します。

⚠注意

- ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。

知 識

- ボンネットを開けているときに、風にあおられてステーが外れることがあります。特に風の強いときは、ご注意ください。
- ボンネットが完全に閉まっていないままで走行すると開くことがあります。走行前に必ず確認してください。

燃料補給口

燃料補給口は車の左側後方にあります。

指定燃料：

TYPE R	**無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）**
1.8G 1.8GL、2.0GL	**無鉛レギュラーガソリン（無鉛ハイオクも使用可能）**

タンク容量：50ℓ

- 必ず無鉛ガソリンを補給してください。補給するときは、無鉛ガソリンであることを確認してください。
  - 有鉛ガソリンを補給すると、触媒装置などを損ないます。
  - 高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
  - 軽油や粗悪ガソリンを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。

知　識

- TYPE R
  無鉛プレミアムガソリンが入手できない場合には、無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできますが、この場合エンジン性能を十分に発揮できません。

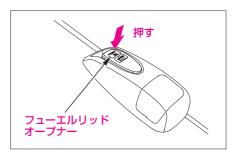
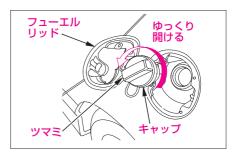
●燃料補給のしかた

⚠警告

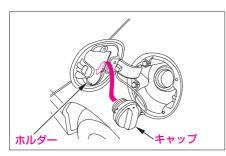
- 燃料補給時は火気厳禁です。
  燃料は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。
  - ・エンジンは必ず止めてください。
  - ・タバコなどの火気を近づけないでください。
  - ・こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。
  - ・燃料の取り扱いは、屋外で行ってください。
- 燃料補給作業は身体の静電気を除去してから行ってください。
  静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

知　識

- 車体や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- 燃料補給作業は、静電気を放電した人のみで行ってください。
- 燃料補給中に車内にもどったりすると再び帯電することがあります。再度、静電気を除去してください。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

①運転席右下にあるフューエルリッドオープナーを押してリッドを開けます。

②フューエルキャップを開ける前に、身体の静電気除去を行います。
③ツマミを持ってキャップをゆっくり回して開けます。

⚠注意

- キャップはゆっくり開けてください。
  急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

④キャップはフューエルリッドにあるホルダーにかけてください。

⑤給油ノズルを奥まで差し込んで補給します。
燃料タンクが満タンになると給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。

⚠注意

- 給油ノズルの自動停止後は、追加補給しないでください。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

知　識

- 気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

⑥キャップを“カチッ”という音が１回以上するまで締め付けます。フューエルリッドは手で押さえつければ閉まります。

⚠注意

- キャップが確実に閉まっていることを確認してください。
確実に閉まっていないと走行中に燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

パワーウィンドー

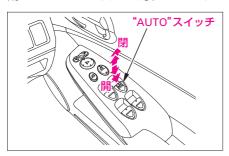
エンジンスイッチが“II”のとき、ウィンドーの開閉ができます。

▼

開閉は、それぞれのドアにあるスイッチで操作します。
- 運転席スイッチは、助手席および後席ウィンドーも操作できます。

●運転席ウィンドーの開閉

スイッチを軽く操作している間、作動します。
強く操作すると、自動で全開(全閉)します。

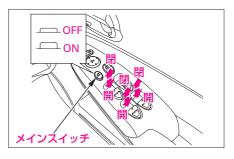
開けるとき･･･スイッチを押します。
閉めるとき･･･スイッチを引き上げます。

自動開閉中にウィンドーを停止させるときは、スイッチを作動方向とは逆へ軽く操作します。

●運転席以外のウィンドーの開閉

メインスイッチを“ON”にしてから、スイッチを操作します。
メインスイッチを押すごとに“ON”↔“OFF”が切り換わります。

スイッチを操作している間、作動します。

開けるとき･･･スイッチを押します。
閉めるとき･･･スイッチを引き上げます。

・運転席ドアスイッチ

・その他のドアスイッチ

運転席以外のウィンドーを動かなくしたいとき(メインスイッチ)

メインスイッチを“OFF”にしておけば、運転席以外のウィンドーは作動しません。

⚠警告

●パワーウィンドーを閉めるときは、手や顔などをはさまないようにしてください。
ドアガラスにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

●車から離れるときはキーを抜き、お子さまも一緒に連れて行ってください。
いたずらなど誤った操作をして思わぬ事故につながるおそれがあります。

知　識

●ウィンドーの開閉はお子さまではなく大人が操作するようにしてください。
●小さなお子さまが同乗しているときは、お子さまが誤って操作しないよう、メインスイッチを“OFF”にしておきましょう。
●後席(左、右)のウィンドーは、全開しません。

●キーオフオペレーション（運転席のみ）

エンジンスイッチを"II"から"I"または"0"にしてから、約10分間は、運転席パワーウィンドーの操作ができます。
ただし、エンジンスイッチを"II"から"I"または"0"にしてから約10分以内に、運転席ドアを開けてから閉めると、パワーウィンドーの操作はできなくなります。

●はさみ込み防止機構（運転席のみ）

運転席ウィンドーを自動で閉じているときに、窓枠とドアガラスの間に異物のはさみ込みを検知するとはさみ込み防止機構が作動し、ドアガラスの上昇が停止して自動で下降します。

⚠注意

- ウィンドーを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように注意してください。

知 識

- 故障などではさみ込み防止機構が作動してしまい、ウィンドーを自動で閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
- 環境や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

セキュリティーシステム

セキュリティー(盗難防止)システムは、イモビライザーシステムとセキュリティーアラームシステム(タイプ別装備)により、お車を盗難から守るための装置です。

イモビライザーシステムについて

キーに信号を発信する電子部品があり、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

アドバイス

- システムを改造したりしないでください。
  エンジンシステムが故障するおそれがあります。

イモビライザーシステムは、車両とキーとの電子照合を行うとき、微弱な電波を使用しています。次のような場合、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができないことがあります。

イモビライザーシステム表示灯

→114ページ

- 近くに強い電波を発する設備があるとき。
- キーが金属物に触れたり覆われているとき。

金属製のキーホルダーなど

- 他の車両のイモビライザーシステム用のキーが近くにあるとき。

他の車両のイモビライザーキー

セキュリティーアラームシステムについて

このシステムは、キー、キーレスエントリーあるいはHondaスマートキーを使わずにドア、トランクを開けたり、ボンネットを開けたりすると警報装置が作動し、ホーンを鳴らし、同時に非常点滅表示灯を点滅させます。

●警報装置について

警報装置は、セキュリティーアラームシステムがセットされているときに次のようなことのいずれかを行うと作動します。

・ドアまたはトランクをキー、キーレスエントリーあるいはHondaスマートキーを使わずに開けようとしたとき。
・トランクやボンネットをこじ開けようとしたとき。
・エンジンスイッチを“II”にしたとき。

警報装置が作動すると、ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯がすべて点滅します。
警報装置は、セキュリティーアラームシステムを止めるまで最大５分間作動します。（ホーンおよび非常点滅表示灯は１回の警報作動につき約30秒間作動し、その警報作動が最大10回行われます。）

警報装置の止めかた

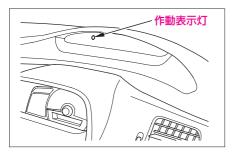
キー、キーレスエントリーあるいはHondaスマートキーで解錠すれば、その時点で警報装置は止まります。

●セットのしかた

次の操作がすべて行われると自動的にセキュリティーアラームシステムがセットされます。

・エンジンスイッチを“0”にしてキーを抜く。
・Hondaスマートキー(タイプ別注文装備)を使っているときは、エンジンスイッチを“0”(プッシュオフ)にする。
・ボンネットを閉める。
・すべてのドアとトランクを閉め、施錠する。

上記がすべて行われると、メーター内にある作動表示灯が点滅を始めます。約15秒後に点滅間隔が変わり、セキュリティーアラームシステムがセットされたことを知らせます。

作動表示灯は、セキュリティーアラームシステムがセットされている間は、点滅を続けます。

セットを解除するときは、キー、キーレスエントリーあるいはHondaスマートキーで解錠します。作動表示灯が消灯し、セットが解除されたことを知らせます。

知 識

●車から離れるときは、セキュリティーアラームシステムがセットされ、作動していることを作動表示灯で確認してください。

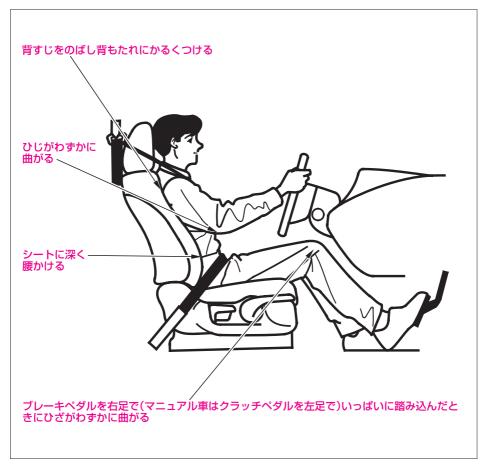
●ボンネット、ドア、トランクのすべてが完全に閉まっていないと、セキュリティーアラームシステムはセットされません。

●車内に人が乗っている状態またはウィンドーが開いた状態でもセキュリティーアラームシステムは作動します。警報装置の思わぬ作動を防ぐため、人が乗っている状態またはウィンドーが開いた状態ではセキュリティーアラームシステムをセットしないでください。

●セキュリティーアラームシステムをセットしたあとに、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電・交換をすると、警報装置が作動することがあります。そのときは、キー、キーレスエントリーあるいはHondaスマートキーでドアを解錠し、セキュリティーアラームシステムを解除してください。

シートの調節

正しい運転姿勢

運転者は正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる姿勢をいいます。

同乗者も、シートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。
助手席同乗者はインストルメントパネルに顔や胸が必要以上に近づかないように、シートを後ろに下げます。

⚠警告

- シートに深く腰かけてください。
  また、背もたれは必要以上に倒さないでください。
  寝そべった姿勢では、衝突したときなどにシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- SRSエアバッグに必要以上に近づくと、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。
  - 運転者は正しい運転姿勢がとれる範囲で、シートを後ろに下げてください。
  - 助手席同乗者はインストルメントパネルに近づかないように、シートを後ろに下げてください。

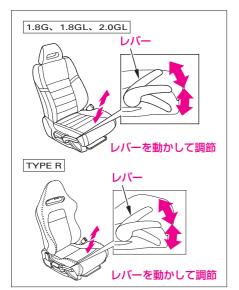
⚠注意

- 走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  調節は走行する前に行い、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- 背もたれと背中の間にクッションなどをいれないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- シートを操作するときは、操作する人やまわりの人の手や足などをはさまないように十分注意してください。
- フロントシートの下に物を置かないでください。
  物がはさまってシートが固定されず思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシート

●前後位置の調節

●背もたれの調節

●高さの調節(運転席のみ)

上へ動かす…
　中間位置より上にレバーを動かします。
下へ動かす…
　中間位置より下にレバーを動かします。

レバーを動かすたびに高さを調節できます。
レバーを動かしたら一旦中間の位置に戻して、もう一度動かすようにして調節します。

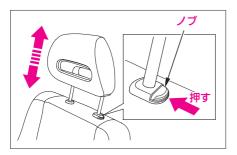
知　識

- シートの高さを最上段または最下段にすると、レバーが動かなくなります。

●ヘッドレストの調節 タイプ別装備

走行する前に耳とヘッドレストの中心が同じ高さになるように調節し、確実に固定します。
背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

高くするときは、ヘッドレストを持ち上げます。
低くするときはノブを押しながらヘッドレストを下げます。

⚠警告

- ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。また、固定できる高さを越えて使わないでください。
  衝突のときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
  走行前に必ず正しい位置に調節してください。

●アクティブヘッドレストについて

タイプ別装備

追突されたときに背もたれが乗員を受け止める力を利用して、ヘッドレストが瞬時に前方に移動します。
ヘッドレストの移動により、頭部の過度な後方への傾きを防ぎ、首への負担を軽減します。

⚠注意

- ヘッドレストのステーにテーブル、テレビなどの用品を取り付けないでください。万一追突されたときにアクティブヘッドレストの機能が損なわれるおそれがあります。

知　識

- アクティブヘッドレストは、追突されたときのみ作動し、作動後は元の位置に戻ります。

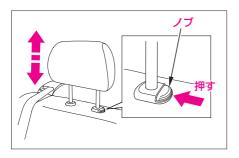
リヤシート

●ヘッドレストの調節

走行する前に耳とヘッドレストの中心が同じ高さになるように調節し、確実に固定します。
背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

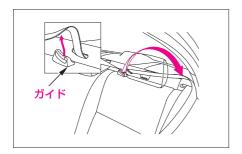
▼

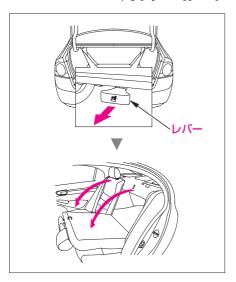
高くするときは、ヘッドレストを持ち上げます。
低くするときはノブを押しながらヘッドレストを下げます。

⚠警告

- ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。また、固定できる高さを越えて使わないでください。
  衝突のときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
  走行前に必ず正しい位置に調節してください。

●背もたれの倒しかた タイプ別装備

片側ずつ独立して行えます。
ヘッドレストがフロントシートにあたるときは、ヘッドレストを外してください。

左側の背もたれを倒すときは、中央席シートベルトをガイドから外し、左側によけます。

トランク内のレバーを引いてロックを解錠し、背もたれを倒します。

トランク　→55ページ

●起こしかた タイプ別装備

後ろへ押しつけて固定します。
中央席シートベルトをガイドから外していた場合は、元に戻します。

⚠注意

- 操作するときは、手などをはさまないように十分注意してください。

知　識

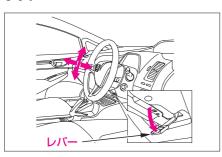
- 背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないようにしましょう。はさまれると正しく着用できません。
- 背もたれを起こしたときは、背もたれを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。

ハンドル・バックミラーの調節

チルト／テレスコピックステアリング

ハンドルの高さおよび前後位置を適切な位置に変えることができます。

▼

レバーを押し下げ、ハンドルの高さおよび前後位置を適切な位置にして、レバーを元の位置まで確実に引き上げて固定します。

⚠注意

- 走行中に調節するとハンドルが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行する前に行い、ハンドルに上下前後方向の力を加え固定されていることを確認してください。

ルームミラー

知　識

- 走行中はミラーの調節を行わないでください。

●防眩式ルームミラー

夜間走行時、後続車のライトがまぶしいときにライトの反射を弱くできます。

▼

ノブを動かして切り換えます。

角度調節はノブを昼間の位置にして行ってください。

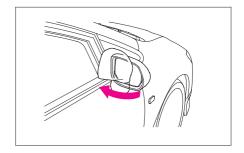
ドアミラー

知　識

- ミラーを格納したまま走行しないでください。また、走行中はミラーの調節を行わないでください。
- ミラーを格納するときは、周囲の人の手などをはさまないようにしてください。

●格納のしかた

ミラーを折りたたむことができます。狭い所へ駐車をするときに便利です。
走行するときは、必ず元に戻してください。

手動格納式　TYPE R

電動格納式

1.8G、1.8GL、2.0GL

エンジンスイッチが“II”のとき、スイッチで左右のミラーをたたむことができます。

格納スイッチを押すごとに“ON”↔“OFF”が切り換わります。

	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

エンジンスイッチが“0”または“I”のときは手動で操作ができます。

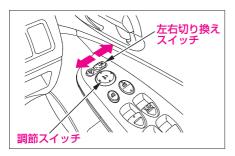
知　識

- 次の場合は手動で操作しても、ミラーは自動的に格納スイッチの状態に戻ります。
  - ・手動で操作したあとにエンジンスイッチを“II”にしたとき。

●角度調節のしかた

エンジンスイッチが“II”のときスイッチを操作すると、ミラーの角度調節ができます。

▼

①左右切り換えスイッチを調節したい方に動かします。
②調節スイッチで角度を調節します。

直接手で鏡面を動かして角度を調節することもできます。

シートベルト

シートベルト

シートベルトは、車を運転するまえに運転者は正しい運転姿勢で着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

⚠警告

- シートベルトは全員が着用してください。
  着用しないと、衝突したときなどに重大な傷害を受けたり死亡することがあります。
- シートに深く腰かけてください。また、背もたれは必要以上に倒さないでください。
  寝そべった姿勢では、衝突したときなどにシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- お子さまにもシートベルトを着用させるか、チャイルドシートをお使いください。
  お子さまを抱いていても、衝突したときなどに支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けたり死亡するおそれがあります。

⚠注意

- シートベルトを正しく着用していないと本来の機能をはたさず、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
  - ・腰部のベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。ベルトが腰骨からずれていると腹部などに強い圧迫を受けます。
  - ・ベルトはねじれがないように着用してください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、局部的に強い力がかかります。
  - ・ベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用してください。
  - ・一本のベルトを二人以上で使用しないでください。
  - ・三点式シートベルトは腕の下に通して着用しないでください。ベルトが肩に十分かかっていないと前方に投げ出されるおそれがあります。
  - ・ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけないでください。
- 妊娠中のかたや疾患のあるかたもシートベルトを着用してください。ただし、万一のとき腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがありますので、医師に確認してください。
  - ・妊娠中のかたは、三点式シートベルトを使用してください。
  - ・妊娠中のかたは、ベルトを着用するときは、腰部のベルトを腹部からさけて腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして身体に密着させてください。また、肩部のベルトは腹部からさけて胸部にかかるようにしてください。

●シートベルトの種類

シート	シートベルトの種類
フロントシート(前席)	ELR付三点式シートベルト
リヤシート(後席)	ELR･ALR付三点式シートベルト

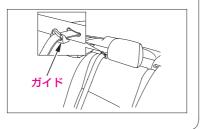
ELR付三点式シートベルト:
体の動きにあわせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。

ELR･ALR付三点式シートベルト:
通常はELRシートベルトとして機能します。
ALRはチャイルドシートを固定する機構です。

チャイルドシート固定機構付きシートベルト →92ページ

●三点式シートベルト

知 識

● タイプ別装備
リヤシートの中央座席用のシートベルトを使うときは、ガイドから取り外さないでください。

テンションリデューサー(前席のみ)
ベルト着用時の圧迫感を軽減する装置です。エンジンスイッチが“II”でシートベルトを着用したときに、はたらきます。

シートベルトリマインダー(非着用警報装置)

エンジンスイッチを“II”にすると、運転席シートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯し続けます。
また、エンジンスイッチを“II”にしたときや走行したときは、運転席シートベルトを着用するまで、数秒間ブザーが鳴ります。(ブザーが鳴っている間は、警告灯が点滅します。)

知　識

- 運転席シートベルトを着用していない場合でも、停車すると、ブザーは止まります。また、走行しているときでも、一定回数を超えるとブザーは止まります。
- **オートマチック車**
  セレクトレバーをⓇに入れたときは、後退位置警報装置のチャイムが鳴り、シートベルト非着用警告ブザーは鳴りません。

チャイルドシート固定機構付きシートベルト(後席)

→92ページ

知　識

- 後席シートベルトを着用した状態で上体を大きく動かしたときに、シートベルトがすべて引き出されてチャイルドシート固定機構が作動することがあります。
  このときは、チャイルドシート固定機構を解除してから再度シートベルトを着用してください。
  解除のしかた　→93ページ

シートベルトプリテンショナー(前席のみ)

→206ページ

E-プリテンショナー(前席のみ)

IHCC装備車

→208ページ

●お子さまを乗せるときは

お子さまは、後席に乗せシートベルトを着用させてください。
ただし、装備されているシートベルトは大人用ですので、ベルトがくびやあごに当たる場合や腰骨にかからない場合は、幼児用シートや学童用シートを使用してください。シートベルトをそのまま使うと、衝突のときに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
また、ひとりですわることのできない小さなお子さまは乳児用シートを使用してください。
お子さまを後席に乗せることができなく、やむをえず助手席に乗せるときは、一番大きなお子さまを乗せてください。

⚠警告

- 助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。
  また、やむをえず幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。

知　識

● 乳児用シート、幼児用シート、学童用シートは、お子さまの体重や身長によりお使いになれるタイプや取り付け方法が異なります。
● ISO FIX対応以外のチャイルドシートは、シート形状などにより、チャイルドシートを正しく取り付けできない席があります。このようなときは、他の席で試してください。または、この車に合ったチャイルドシートを使用してください。
● ISO FIXテザータイプのチャイルドシートは、固定専用バーとテザーアンカーを用いて固定します。テザーアンカーにテザーストラップを結合することにより、チャイルドシートを確実に固定することができます。
チャイルドシートを前向きに取り付けるときは、このバーとテザーアンカーを用いて固定します。
後ろ向きに取り付けるときは、テザーアンカーは使用しません。
● ISO FIXテザータイプのチャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

ISO FIXテザータイプチャイルドシート固定装置　→94ページ

● Honda純正品のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。

《選択の目安》
詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ISO FIXタイプを除く

	体重(kg)	参考身長(cm)	参考年令
乳児用(ベビー)シート	～10	～75	～12か月
幼児用(チャイルド)シート	9～18	70～100	9か月～4才
学童用(ジュニア)シート	15～32	100～135	4才～10才

ISO FIX テザータイプ

	体重(kg)	参考身長(cm)	参考年令
乳児用(ベビー)シート	～9	～70	～9か月
幼児用(チャイルド)シート	9～18	70～100	9か月～4才

●シートベルトの取り扱い、手入れ

- 次のような場合はベルト一式を交換してください。
  - ・ベルトを着用した状態で事故にあったとき。
  - ・シートベルトプリテンショナーが作動したとき。
    シートベルトプリテンショナー →206ページ
  - ・ベルトにほつれ、すりきれ、破れなどができたとき。
- シートベルトを十分に機能させるために、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。
- ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯に布をひたして拭き取り乾かしてください。薬剤を使ったり漂白や染色は絶対しないでください。ベルトを弱めます。

着用のしかた

●三点式シートベルト

①正しい運転姿勢でシートにすわります。（→72ページ）

②タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。

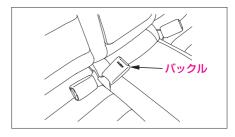
③ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。

④ベルトがねじれたり、引っかかったりしていないかを確認します。

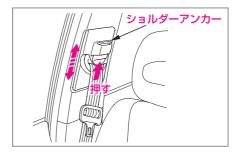
⑤ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように引き、たるみがないように身体に密着させます。

⑥外すときはバックルのPRESSボタンを押します。
ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

後席中央 タイプ別装備

タングプレートは差し込む相手を間違えないようにしてください。バックルに"CENTER"(センター)の表示があります。

ショルダーアンカーの高さ調節（前席のみ）

座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節できます。

通常はベルトが肩から外れないように最上段で使いますが、ベルトがくびに当たるときは、一段ずつ下げて調節してください。

⚠注意

● 調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されていることを確認してください。

チャイルドシート固定装置

チャイルドシート固定機構付きシートベルト(後席)

後席の三点式シートベルトには、チャイルドシート固定機構がついています。シートベルトを引き出し方向に動かさないようにできるため、チャイルドシートを固定することができます。
取り付けかたは、チャイルドシートの形状、取り付け方法によって異なります。チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付けてください。

⚠警告

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
  固定機構が作動するとベルトがゆるまなくなり、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。
  万一ベルトをゆるめることができなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。

知　識

- ISO FIX テザータイプのチャイルドシートを取り付けるとき
  ISO FIXテザータイプチャイルドシート固定装置 →94ページ

●チャイルドシートを取り付けるとき

①チャイルドシートをリヤシートに置きます。

②ベルトにねじれがないことを確認し、タングプレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。

③ベルトをゆっくりと引き出します。すべて引き出すと、チャイルドシート固定機構が作動します。

④ベルトを少し巻き取らせます。その後、ベルトをゆっくりと引き、ベルトが引き出し方向に動かないことを確認します。ベルトが引き出し方向に動く場合は、再度ベルトをすべて引き出してください。

⚠注意

- 必ずベルトが引き出し方向に動かないことを確認してください。
  ベルトが引き出し方向に動く状態では、チャイルドシート固定機構が作動していないので、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。

⑤チャイルドシートに体重をかけてリヤシートに押しつけながら、ベルトを巻き取らせ、しっかりと固定します。

⚠注意

- チャイルドシートを前後左右にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
  確実に固定されていないとブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。

●解除のしかた

①チャイルドシートからベルトを外します。

②ベルトをいっぱいまで巻き取らせると、チャイルドシート固定機構は解除されます。

ISO FIX テザータイプ チャイルドシート固定装置（後席外側 2 座席）

後席外側の 2 座席には、ISO FIXテザータイプのチャイルドシートを固定するための固定専用バーとテザーアンカーが装備されています。

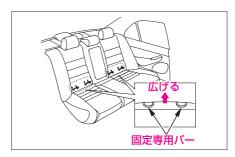
この車用に認可を取得したチャイルドシートのみ固定し、使用することができます。
チャイルドシートを前向きに取り付けるときは、このバーとテザーアンカーを用いて固定します。
後ろ向きに取り付けるときは、テザーアンカーは使用しません。
チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。
Honda純正品のチャイルドシートをご用意しています。
ご購入、ご使用に際してはHonda販売店にご相談ください。

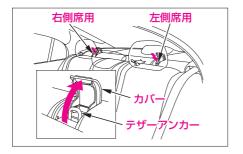
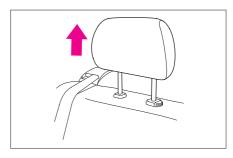
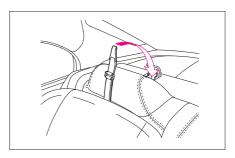
知　識

● チャイルドシート固定機構付きシートベルトを使って取り付けるとき

→92ページ

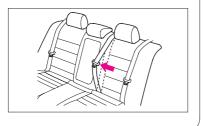
●チャイルドシートを取り付けるとき

①シートクッションと背もたれのすき間を少し広げて、固定専用バーの位置を確認します。

②異物やシートベルトなどをかみ込まないようにチャイルドシートに同梱のガイドカップを固定専用バーに差し込みます。

③チャイルドシートを取り付ける座席の真後ろ側のカバーを開けて、テザーアンカーの位置を確認します。

④リヤシートのヘッドレストを持ち上げて最上段で固定し、テザーストラップはヘッドレストの下を通します。

TYPE R
テザーストラップはシートバックの上を通します。

⑤チャイルドシートとテザーストラップをチャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付けます。

知　識

● **タイプ別装備**

左側席にガイドカップを差し込むときは、中央席シートベルトを左側席シートベルトのバックルよりも中央席寄りに動かしてください。

⚠注意

- チャイルドシートを取り付けるときは、固定専用バー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。
  異物やシートベルトなどをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
  確実に固定されていないとブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。

●取り外すとき

チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り外します。

車を運転するときに

メーター

イラストは代表例を掲載しています。
1.8GL、2.0GL：IHCC装備車
スピードメーター
水温計
燃料計
タコメーター
オド／トリップメーター／外気温表示
1.8G、1.8GL、2.0GL：IHCC非装備車
スピードメーター
水温計
燃料計
タコメーター
オド／トリップメーター／外気温表示

TYPE R

スピードメーター

燃料計

水温計

タコメーター

オド／トリップメーター／外気温表示

スピードメーター

走行速度をkm/hで示します。

タコメーター

１分間あたりのエンジン回転数を示します。

- エンジン故障の原因となりますので、下表の限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないように運転してください。特に高速走行時、変速(シフトダウン)するときには注意してください。

タイプ	限界回転数（rpm）
1.8G、1.8GL、2.0GL	6,800
TYPE R	8,400

- 停車中の空ぶかしは、エンジン回転数が5,000rpmになると燃料供給が停止されます。

燃料計
エンジンスイッチが"II"のとき、燃料の残量を示します。
"E"に近づいたら早めに補給してください。

燃料の補給　→61ページ

水温計
エンジンスイッチを"II"にすると点灯し、エンジン冷却水の温度を示します。
走行中は"H"のマークより下側で点灯するのが正常です。

アドバイス
- "H"のマークまで点灯した場合はオーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停めてエンジンを冷やしてください。
  そのまま走行を続けるとエンジン故障の原因となります。

オーバーヒートしたとき
→292ページ

オド／トリップメーター／外気温表示

エンジンスイッチを“II”にするとオドメーター、トリップメーターまたは外気温が表示されます。

▼

表示の切り換え

セレクト／リセットスイッチを押すごとに表示が切り換わります。

オートエアコン装備車

ヒーター装備車

オドメーター

走行距離の累計をkmで示します。

トリップメーター

リセットしてからの走行距離をkmで示します。“TRIP A”と“TRIP B”でそれぞれ別の走行距離を知ることができます。

・リセットのしかた

①セレクト／リセットスイッチを押して“TRIP A”または“TRIP B”を選びます。

②セレクト／リセットスイッチをメーター表示が“0”になるまで押して、リセットします。

知　識

- 走行距離が9999.9kmを超えると0kmに戻ります。

外気温表示　オートエアコン装備車

走行中（車速約30km/h以上）の外気温を測定し表示します。また、エンジンスイッチを"II"にしたときはそのときの外気温を表示し、走行（車速約30km/h以上）するまでその表示を続けます。
走行中に外気温が下がってきて 3 °C以下になったとき、外気温を点滅表示します。このとき表示が外気温表示以外であれば、自動的に外気温を点滅表示し、約10秒後もとの表示に戻ります。

知　識

- フロントバンパー付近の外気温を測定しているため、エンジンルームや路面の熱の影響を受けやすい停車中や渋滞中など（車速約30 km/h以下）は正しい外気温を表示しないことがあります。
- 外気温表示の自動切り換え点滅表示は、エンジンスイッチを"II"にしてから最初に 3 °C以下に下がったときにのみ作動します。

・外気温補正の設定

外気温表示の表示温度に補正をかけることができます。
＋ 3 °Cから－ 3 °Cの間で設定できます。

①セレクト／リセットスイッチを押して外気温を表示させます。
②セレクト／リセットスイッチを押し続けると（約10秒）、外気温の補正表示に切り換わります。数字は約 1 秒毎に" 0 → 1 → 2 → 3 →－ 3 →－ 2 →－ 1 → 0 "の順に切り換わります。
③補正をかけたい温度の数字が表示されたらセレクト／リセットスイッチを離します。

知　識

- セレクト／リセットスイッチを押し、外気温の補正表示に切り換わる前にスイッチを放すとトリップメーターがリセットされます。

イルミネーションコントロール

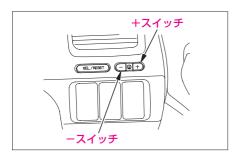
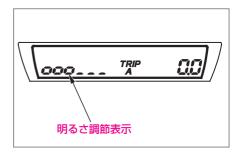
＋、－スイッチを押すと、メーター表示の明るさが車幅灯点灯時と消灯時にそれぞれ別々に調節できます。

▼

エンジンスイッチが“II”のとき＋、－スイッチを押して明るさを調節します。

明るくするとき…
＋スイッチを押します。明るさが最大になると“ピッ”という電子音が鳴ります。

暗くするとき…
－スイッチを押します。明るさが最小になると“ピッ”という電子音が鳴ります。

車外の明るさに応じてお好みで調節してください。

明るさ調節表示
＋、－スイッチを押して明るさを調節すると、オドメーターまたは外気温表示が明るさ調節表示に切り換わります。
▱ が右に増えて行くほど、メーターが明るく表示されます。

知 識

- 次の動作をしたときは、元の表示に切り換わります。
  - ・調節後約 5 秒すぎたとき。
  - ・セレクト／リセットスイッチを押したとき
- 車幅灯点灯時に、 がすべて表示されるまで+スイッチを押すと、車幅灯点灯時の減光が解除されます。このときにも、“ピッ”という電子音が鳴ります。
- 運転席ドアを開けるとメーターが点灯します。
  （ウェルカムメーター照明）

知 識

- 次のようなとき、メーターの照明は消灯します。
  - ・運転席ドアを開けてから、何もせずに約 3 分経過したとき。
  - ・運転席ドアを閉めてから、何もせずに約30秒経過したとき。
  - ・エンジンスイッチにキーを差し込んだまま、約10秒経過したとき。
  - ・エンジンスイッチを“II”から“I”または“0”に回してから、約 5 秒経過したとき。
- エンジンスイッチからキーを抜いたときは、メーターの照明はすぐに消灯します。

表示灯

イラストは代表例を掲載しています。
1.8GL、2.0GL：IHCC装備車
セキュリティーアラーム
システム作動表示灯
方向指示器表示灯
ヘッドライト上向き(ハイビーム)表示灯
セレクトポジション表示灯
ライト点灯表示灯
フォグライト点灯表示灯
サイドエアバッグ
自動停止表示灯
ビークルスタビリティ
アシスト(VSA)作動表示灯
インテリジェント
ハイウェイクルーズコントロール(IHCC)表示灯
イモビライザーシステム表示灯
M(シーケンシャルモード)表示灯
シフトインジケーター

イラストは代表例を掲載しています。

1.8G、1.8GL、2.0GL：IHCC非装備車

セキュリティーアラーム
システム作動表示灯

方向指示器表示灯

ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯

セレクトポジション表示灯

ライト点灯表示灯

フォグライト点灯表示灯

サイドエアバッグ
自動停止表示灯

ビークルスタビリティ
アシスト（VSA）作動表示灯

イモビライザーシステム表示灯

シフトインジケーター

M（シーケンシャルモード）表示灯

TYPE R

方向指示器表示灯
i-VTECインジケーター
REVインジケーター
セキュリティーアラームシステム作動表示灯
ライト点灯表示灯
イモビライザーシステム表示灯
ヘッドライト上向き（ハイビーム）表示灯

表示灯はタイプ等により、装備の有無があります。下表の装備一覧をご覧ください。

表示灯	タイプ			
	1.8G	1.8GL	2.0GL	TYPE R
方向指示器表示灯	○	○	○	○
ヘッドライト上向き(ハイビーム)表示灯	○	○	○	○
フォグライト点灯表示灯	−	−	○	−
ライト点灯表示灯	○	○	○	○
セキュリティーアラームシステム作動表示灯（表示灯）	○	○	○	○
セレクトポジション表示灯※1 1.8G：P R N D D3 2 1 1.8GL、2.0GL：P R N D S M 1	○	○	○	−
シフトインジケーター	−	○	○	−
M(シーケンシャルモード)表示灯	−	○	○	−

○：標準装備
※1：オートマチック車

表示灯はタイプ等により、装備の有無があります。下表の装備一覧をご覧ください。

表示灯	タイプ			
	1.8G	1.8GL	2.0GL	TYPE R
i-VTECインジケーター	—	—	—	○
REVインジケーター	—	—	—	○
イモビライザーシステム表示灯	○	○	○	○
サイドエアバッグ自動停止表示灯	△	△	△	—
インテリジェント ハイウェイクルーズ コントロール(IHCC) 表示灯(グリーン)	—	△	△	—
ビークルスタビリティ アシスト(VSA)作動表示灯	△	○	○	—

○：標準装備
△：注文装備
※２：IHCC非装備車

方向指示器表示灯

方向指示器のランプの点滅状態を表示します。

知　識

●電球が切れたときや、ワット(W)数の違った物を使ったときは、表示灯の点滅周期が異常になります。

電球(バルブ)の交換　→303ページ
電球(バルブ)のワット数　→363ページ

ヘッドライト上向き(ハイビーム)表示灯

ヘッドライトが上向きのときに点灯します。

フォグライト点灯表示灯

フォグライト装備車

フォグライトが点灯しているときに点灯します。

ライト点灯表示灯

ライトスイッチが"OFF"以外のときに点灯します。

セキュリティーアラームシステム作動表示灯

セキュリティーアラームシステムがセットされているときに点滅します。

セキュリティーアラームシステムについて　→69ページ

1.8G

P R N D D3 2 1

1.8GL、2.0GL

セレクトポジション表示灯（トランスミッション警告灯兼用）

オートマチック車

使用中のセレクトレバー位置が表示されます。

トランスミッションが異常のときには、Dが点滅します。

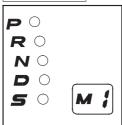
トランスミッション警告灯　→122ページ

シフトインジケーター

1.8GL、2.0GL

シーケンシャルモード時はギヤの位置が表示されます。

シーケンシャルモード　→161ページ

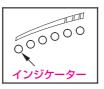
M

M（シーケンシャルモード）表示灯

1.8GL、2.0GL

セレクトレバーがSでシーケンシャルモードのときに点灯します。

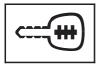
シーケンシャルモード　→161ページ

i-VTECインジケーター TYPE R

低速用カムから高速用カムに切り換わったときに点灯します。

REVインジケーター TYPE R

エンジン回転数と連動して左側から順次点灯していきます。

知　識

● 走行状況によりタコメーターとインジケーターに差が生じることがあります。

イモビライザーシステム表示灯

システムがキーの信号を認識していないときに点滅します。

点滅したときは

エンジンを始動することはできません。そのときは、エンジンスイッチを“0”へ回しキーを抜いてから、もう一度エンジンスイッチに差し込み“II”にしてください。
Hondaスマートキーシステム装備車は、エンジンスイッチを“0”(プッシュオフ)にしてから、もう一度“II”にしてください。

アドバイス

- 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

サイドエアバッグ自動停止表示灯

サイドエアバッグシステム／
サイドカーテンエアバッグシステム装備車

乗員姿勢検知システムにより、助手席用サイドエアバッグの作動を自動停止しているときに点灯します。

点灯したときは

上体を起こして座ってください。また、小さなお子さまの場合は、後席に乗せてください。

乗員姿勢検知システム　→199ページ

インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)表示灯(インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)警告灯兼用)

IHCC装備車

IHCCスイッチを押して、“ON”にするとグリーンで点灯します。

詳細については、別冊のIHCC取扱説明書をご覧ください。

ビークルスタビリティアシスト(VSA：車両挙動安定化制御システム)作動表示灯

VSA装備車

VSAが作動中に点滅します。

VSAを“OFF”にしたときと、VSAに異常があるときに点灯します。

→212ページ

知　識

- VSA警告灯が点灯するとVSA作動表示灯も同時に点灯します。

VSA警告灯　→124ページ

警告灯

イラストは代表例を掲載しています。
1.8G、1.8GL、2.0GL
燃料残量警告灯
SRSエアバッグシステム警告灯
ブレーキ警告灯
ビークルスタビリティアシスト(VSA)警告灯
アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯
Honda スマートキーシステム警告灯
シートベルト非着用警告灯
エレクトリックパワーステアリング(EPS)警告灯
トランク開閉警告灯
ドア開閉警告灯
油圧警告灯
追突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯
トランスミッション警告灯
充電警告灯
PGM-FI警告灯
インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)警告灯

イラストは代表例を掲載しています。

TYPE R

燃料残量警告灯

ドア開閉警告灯

油圧警告灯

トランク開閉警告灯

アンチロック
ブレーキシステム
(ABS)警告灯

ブレーキ警告灯

シートベルト
非着用警告灯

PGM-FI警告灯

充電警告灯

SRSエアバッグシステム警告灯

警告灯はタイプ等により、装備の有無があります。下表の装備一覧をご覧ください。

警告灯		タイプ			
		1.8G	1.8GL	2.0GL	TYPE R
	ブレーキ警告灯	○	○	○	○
	油圧警告灯	○	○	○	○
	PGM-FI警告灯	○	○	○	○
	充電警告灯	○	○	○	○
	トランスミッション警告灯※ （セレクトポジション表示灯兼用）	○	○	○	－
	シートベルト非着用警告灯	○	○	○	○
警告灯	燃料残量警告灯	○	○	○	○
IHCC	インテリジェント ハイウェイクルーズ コントロール（IHCC） 警告灯（オレンジ）	－	△	△	－

○：標準装備
△：注文装備
※：オートマチック車

警告灯はタイプ等により、装備の有無があります。下表の装備一覧をご覧ください。

警告灯	タイプ			
	1.8G	1.8GL	2.0GL	TYPE R
アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯	○	○	○	○
SRSエアバッグシステム警告灯	○	○	○	○
ビークルスタビリティアシスト(VSA)警告灯	△	○	○	–
追突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯	–	△	△	–
ドア開閉警告灯	○	○	○	○
トランク開閉警告灯	○	○	○	○
Hondaスマートキーシステム警告灯	△	△	△	–
エレクトリックパワーステアリング(EPS)警告灯	○	○	○	–

○：標準装備
△：注文装備

ブレーキ警告灯

パーキングブレーキが完全に解除されていないときに点灯します。この状態で走行するとブザーが鳴ります。

パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザー
→153ページ

ブレーキ液量がいちじるしく減少しているときにも点灯します。また、ABSが異常のときABS警告灯と同時に点灯することがあります。

▼

点灯したときは

走行中点灯したときやパーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、

①ブレーキ液量を点検します。

②下限より下がっていたらただちにHonda販売店へご連絡ください。
ブレーキ液量が下限以下になっていないのに点灯するときや、パーキングブレーキをかけても点灯しないときは、お早めにHonda販売店で点検を受けてください。

ABS警告灯と同時に点灯したときは

ブレーキ液量が正常で、アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯と同時に点灯したときは、アンチロックブレーキシステム(ABS)の異常が考えられます。高速走行や急ブレーキを避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

ABS警告灯　→211ページ

油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。

▼

点灯したときは

エンジン回転中に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。

エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、ただちにHonda販売店へご連絡ください。

アドバイス

- 点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損するおそれがあります。

PGM-FI警告灯

エンジン制御システムが異常のときに点灯します。

エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

▼

点灯したときは

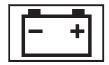
運転中に点灯した場合は、高速走行を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

点滅したときは

①走行中に点滅した場合は、枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10分間以上エンジンを止めて、冷えるまでお待ちください。

②エンジン再始動後、警告灯が消灯しないときや再び点滅するときは、触媒装置保護のため、急加速、急減速などの無理な運転を避け、50km/h以下の速度で、最寄りのHonda販売店まで走行し点検を受けてください。

アドバイス

- 警告灯が点滅した状態で運転は続けないでください。
  触媒装置を焼損することがあります。

充電警告灯

充電系統が異常のときに点灯します。

▼

点灯したときは

運転中に点灯した場合は、電気の消費を減らすため、エアコンスイッチ、リヤデフロスタースイッチを“OFF”にして、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

トランスミッション警告灯（セレクトポジション表示灯兼用）

オートマチック車

トランスミッションが異常のときに点滅します。

▼

点滅したときは

運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

シートベルト非着用警告灯

エンジンスイッチを“II”にすると、運転席シートベルトを着用するまでシートベルトリマインダー(非着用警報装置)が作動し、点灯し続けます。
また、エンジンスイッチを“II”にしたときや走行したときは、運転席シートベルトを着用するまで、数秒間ブザーが鳴ります。
(ブザーが鳴っている間は、警告灯が点滅します。)

知　識

- 運転席シートベルトを着用していない場合でも、停車すると、ブザーは止まります。また、走行しているときでも一定回数を超えると、ブザーは止まります。
- オートマチック車
  セレクトレバーをⓇに入れたときは、後退位置警報装置のチャイムが鳴り、シートベルト非着用警告ブザーは鳴りません。

燃料残量警告灯

燃料タンク内のガソリン残量が7ℓ前後になったときに点灯します。

燃料の補給　→61ページ

インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)警告灯(インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)表示灯兼用)

IHCC装備車

IHCCが異常のときオレンジ色で点灯します。
詳細については、別冊のIHCC取扱説明書をご覧ください。

アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯

ABSが異常のときに点灯します。

→211ページ

SRSエアバッグシステム警告灯(エアバッグシステムとシートベルトプリテンショナー警告灯兼用)

次のシステムの異常を検出すると点灯します。

SRSエアバッグシステム　→182ページ

サイドエアバッグシステム、
　サイドカーテンエアバッグシステム
　→190ページ

乗員姿勢検知システム　→199ページ

シートベルトプリテンショナー
　→206ページ

E-プリテンショナー　→208ページ

VSA

ビークルスタビリティアシスト(VSA：車両挙動安定化制御システム)警告灯 VSA装備車

VSAが異常のときに点灯します。

→215ページ

知　識

- ABS警告灯が点灯するとVSA警告灯も同時に点灯します。
- ブレーキアシストの装置に異常があるとVSA警告灯が点灯します。
- VSA警告灯が点灯したときはブレーキアシストは作動しません。

追突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯 IHCC装備車

追突軽減ブレーキ(CMBS)が異常のとき、または“OFF”のときに点灯します。
エンブレムの汚れなどで前方の車両を検知できず、システム停止したときも点灯します。

CMBSの停止について　→221ページ

CMBSの自動停止について　→221ページ

ドア開閉警告灯

ドアが完全に閉まっていないときに点灯します。

ドアを完全に閉めてください。

トランク開閉警告灯

トランクが完全に閉まっていないときに点灯します。

トランクを完全に閉めてください。

Hondaスマートキーシステム警告灯

Hondaスマートキー システム装備車

Hondaスマートキーシステムが異常のときに点灯します。

警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。

- 運転中に点灯したとき。
- エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき。
- エンジンスイッチが“0”のときに数秒間点灯したとき。

アドバイス

- 警告灯が点灯した場合は、Hondaスマートキーを使わずに、内蔵キーを使ってください。

内蔵キー　→43ページ

エレクトリックパワーステアリング(EPS)警告灯 EPS装備車

EPSが異常のときに点灯します。

点灯したときは

運転中に点灯したとき(安全な場所に停車してからエンジンを再始動し、その後走行中に消灯していれば正常です。)は、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。

知識

- 警告灯が点灯しているときは、ハンドル操作が重くなる場合もあります。
- 停車中にエンジンの空ぶかしを行うと、警告灯が点灯しハンドル操作が重くなる場合があります。このときは、エンジンを再始動すると警告灯が消灯します。
- 停車中または極低速でハンドル操作をくり返したときなどシステムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。
  システムの温度が下がると復帰します。
  システム保護がはたらくような使いかたを連続的にくり返すと、システム破損の原因となります。

警告灯の電球切れの点検

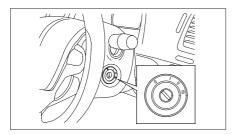
エンジンスイッチを“II”にしたとき、下記の警告灯類が点灯するのが正常です。点灯しないときは、Honda販売店へご連絡ください。

- **ブレーキ警告灯**
  （パーキングブレーキが解除されているときは数秒後消灯）
  （パーキングブレーキをかけているときは完全に解除すると消灯）
- **油圧警告灯**
  （エンジン始動後消灯）
- **PGM-FI警告灯**
  （エンジン始動後消灯）
- **充電警告灯**
  （エンジン始動後消灯）
- **トランスミッション警告灯**
  （数秒後消灯）
- **インテリジェントハイウェイクルーズコントロール(IHCC)警告灯**
  （数秒後消灯）
- **アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯**
  （数秒後消灯）
- **SRSエアバッグシステム警告灯**
  （約6秒後消灯）
- **ビークルスタビリティアシスト(VSA：車両挙動安定化制御システム)警告灯**
  （数秒後消灯）
- **追突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯**
  （数秒後消灯）
- **ドア開閉警告灯**
  （数秒後消灯）
- **トランク開閉警告灯**
  （数秒後消灯）
- **Hondaスマートキーシステム警告灯**
  （数秒後消灯）
- **エレクトリックパワーステアリング(EPS)警告灯**
  （エンジン始動後消灯）

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ（キーを使った操作）

1.8G、1.8GL、2.0GL：
Hondaスマートキーシステム非装備車

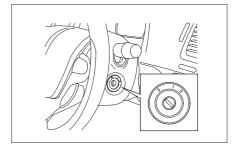
0

キーを抜き差しする位置です。

エンジンをかけずにラジオなどのアクセサリーを使用するときの位置です。

運転するときの位置です。

エンジン始動位置です。始動したら、キーから手を離してください。自動的に“II”に戻ります。

TYPE R

0

キーを抜き差しする位置です。

エンジンをかけずにラジオなどのアクセサリーを使用するときの位置です。

運転するときの位置です。

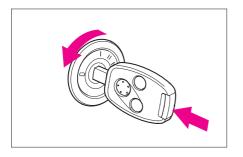
エンジンスイッチを“0”から“I”へ回すとき

Hondaスマートキーシステム装備車

内蔵キーを押し込んで、ゆっくり回します。

内蔵キーの差し込みかた →319ページ

キーを抜くとき

・オートマチック車は、セレクトレバーを🄿に入れます。
・“I”でキーを押し込んで“0”まで回してキーを抜きます。

知 識

● キーを抜くとハンドルがロックされます。

● オートマチック車

セレクトレバーが🄿以外のときは、エンジンスイッチが“0”まで回らないので、キーを抜くことができません。

● Hondaスマートキーシステム装備車

Hondaスマートキーを使ったエンジンスイッチの操作

→131ページ

“0”から“I”にキーが回らないとき(ハンドルロックの解除)

ハンドルを左右に回しながらキーを回せば容易に回ります。

⚠警告

- 走行中はエンジンを止めないでください。
  マニュアルトランスミッション車は、エンジンスイッチを“0”にするとキーが抜けることがあり、ハンドルがロックされ、思わぬ事故につながります。

知　識

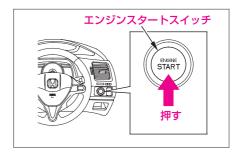
- エンジンスイッチを“0”にするときは、途中の位置で止めずに“0”まで回してください。
- エンジンを止めた状態で“I”または“II”のまま、長時間放置しないでください。
  バッテリー容量が低下し、エンジンがかからなくなることがあります。
- 車から離れるときは、バッテリー保護のため必ず“0”にしてください。

●キー抜き忘れ警告ブザー

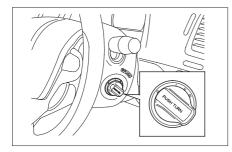
エンジンスイッチが“I”または“0”でキーを差し込んだまま車を離れようとしたとき（運転席ドアを開けたとき）、ブザーが鳴りキーの抜き忘れを知らせます。

エンジンスタートスイッチ

TYPE R

エンジンスイッチが“II”のときに、クラッチペダルをいっぱいに踏み込み、スイッチを押している間、スターターモーターが回転しエンジンを始動させます。

エンジンのかけかた　→148ページ

エンジンスイッチ（Hondaスマートキーを使った操作）

Hondaスマートキーシステム装備車

（プッシュオフ）
エンジンスイッチがロックされる位置です。

（プッシュオン）
エンジンスイッチノブを押すと、ロックが解除されエンジンスイッチを回すことができます。

エンジンをかけずにラジオなどのアクセサリーを使用するときの位置です。

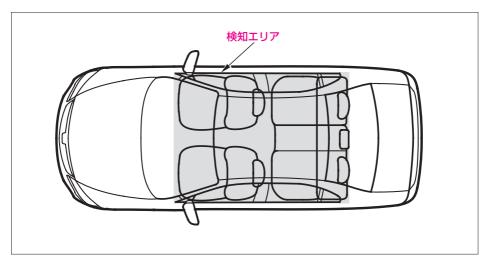
運転するときの位置です。

エンジン始動位置です。
始動したら、エンジンスイッチノブから手を離してください。自動的に“II”に戻ります。

●エンジン始動の作動範囲

エンジン始動の機能が作動する範囲は、インストルメントパネル上やリヤシェルフ、グローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れやトランク内を除く車内です。

エンジンのかけかた　→148ページ

知　識

- Hondaスマートキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所などでは、作動範囲が狭くなったり、作動が不安定になることがあります。
- 次のような場合、システムがHondaスマートキーを認識できないため、エンジンスイッチの操作ができず、エンジンの始動ができないことがあります。
  - ・インストルメントパネル上やリヤシェルフ、グローブボックスや各種小物入れなどにHondaスマートキーを置いたとき。
  - ・Hondaスマートキーを入れている物（バッグやポケット）の中に、携帯端末などの電波を発する物やノイズを発する物があるとき。
- 車外にHondaスマートキーがあっても、ドアやドアガラスに近づき過ぎている場合は、エンジンの始動ができることがあります。

エンジンスイッチを“0”から“I”へ回すとき

エンジンスイッチノブを押し込みます。エンジンスイッチのロックが解除されると、“ピッ”とブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったら、エンジンスイッチをゆっくりと回します。

エンジンスイッチが“0”から“I”に回らないとき（ハンドルロックの解除）

ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを回せば容易に回ります。
もし、エンジンスイッチが回らない場合は、もう一度エンジンスイッチノブを押し直してゆっくりと回してください。
Hondaスマートキーの作動不良などにより、エンジンスイッチが回せない場合は、エンジンスイッチをいったん戻し、内蔵キーを挿入してエンジンスイッチを回してください。

内蔵キーの差し込みかた　→319ページ

エンジンスイッチを“0”に回すとき

・セレクトレバーをⓅに入れます。
・“I”でエンジンスイッチノブを押し込んで“0”まで回します。

車から離れるときは、エンジンスイッチを“0”にしてから離れるようにしてください。

知 識

● エンジンスイッチを“0”にするときは、途中の位置で止めずに“0”まで回してください。
● エンジンを止めた状態で“I”または“II”のまま、長時間放置しないでください。
バッテリー容量が低下し、エンジンがかからなくなることがあります。
● エンジンスイッチが“0”以外では、Hondaスマートキーで施錠できません。
車から降りてドアを閉めたときに警告ブザー(ピピピピピピ)が鳴ったときは、車の状態を確認してください。
Hondaスマートキー持ち去り警告 →135ページ
● エンジンスイッチを“0”にするとハンドルがロックされます。
● セレクトレバーがⓅ以外のときは、エンジンスイッチが“0”まで回りません。

●エンジンスイッチ警告ブザー

エンジンスイッチが“Ⅰ”で、車を離れようとしたとき(運転席ドアを開けたとき)、ブザーが鳴りエンジンスイッチを“0”にしていないことを知らせます。

知　識

●エンジンスイッチが“0”の位置で、エンジンスイッチノブを押し込んでいるときに、運転席ドアを開けた場合にもブザーが鳴ります。

●Hondaスマートキー持ち去り警告

誤操作や車両盗難防止のために、警告音を鳴らしたり、メーター内に警告を表示します。警告音が鳴ったり、警告表示が出た場合は、必ず車両およびHondaスマートキーの確認を行ってください。

Hondaスマートキーをエンジン始動の作動範囲外に持ち出してドアを閉めると、Hondaスマートキー持ち去り警告が作動します。

エンジン始動の作動範囲　→132ページ

警告ブザーの種類

警告ブザーは、車内警告ブザーと車外警告ブザーの2種類があります。

・車内警告ブザー

“ピーッピーッピーッピーッピーッピーッ”と6回鳴ります。

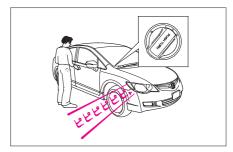
・車外警告ブザー

“ピピピピピピ”と6回鳴ります。

知　識

- Hondaスマートキーを持ち出した状態で、エンジンスイッチを“0”(プッシュオフ)にすると、エンジンスイッチの操作ができなくなります。
  エンジンスイッチを操作するときは、Hondaスマートキーを持っていることを確認してください。
- 窓からの受け渡しでは、Hondaスマートキーの持ち去りを検知せず、警告は作動しません。
- エンジン始動の作動範囲内にHondaスマートキーがあってもHondaスマートキーの携帯状態や周囲の環境、電波状態などにより、Hondaスマートキーの位置を認識できないときも、警告が行われます。
  故障ではありませんが、Hondaスマートキーを携帯していることを確認してください。

エンジンスイッチが“II”のとき

メーター内の“NO KEY”表示が点滅し、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

エンジンスイッチが“Ⅰ”または“0”(プッシュオン)のとき

車外警告ブザーが鳴ります。

Hondaスマートキー持ち去り警告が出たときは

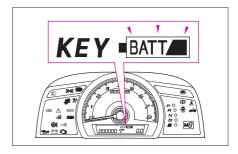
エンジン始動の作動範囲内にHondaスマートキーを戻して、ドアを閉めると警告が解除されます。

エンジン始動の作動範囲内であってもHondaスマートキーの位置や状態、周囲の環境や電波状態などにより、警告が解除されず、再度Hondaスマートキー持ち去り警告が行われることがあります。故障ではありませんが、Hondaスマートキーを携帯していることを確認してください。
警告状態が続く場合は、Hondaスマートキーの携帯位置を変更することをお勧めします。

●Hondaスマートキー電池消耗警告

電池の残量が少なくなったときに、警告音を鳴らし、メーター内に警告を表示して知らせます。

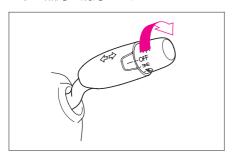
▼

エンジンスイッチを“Ⅱ”にしたときに、メーター内に“KEY BATT”(“BATT”は点滅)が表示され、車内警告ブザーが鳴ります。

“KEY BATT”が表示されたときは、早めにHondaスマートキーの電池を交換してください。

電池交換のしかた →318ページ

ライトスイッチ

●ライトの点灯・消灯

エンジンスイッチの位置に関係なく次のように点灯、消灯します。

スイッチの位置		
ヘッドライト	—	点灯
車幅灯・尾灯 番号灯	点灯	点灯

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

ライト点灯表示灯　→111ページ

知　識

- エンジンが止まっている状態で、ライト類を点灯したままにしないでください。バッテリーあがりの原因となります。
- **ディスチャージヘッドライト装備車**
  ディスチャージヘッドライトのバルブは、点灯・消灯を繰り返すとバルブの寿命が短くなる特性があります。

●ライト消し忘れ警告ブザー

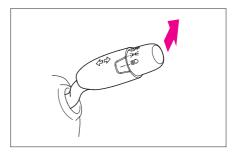
次の場合に、ブザーが鳴りライトの消し忘れを知らせます。

・ライトを点灯したままエンジンスイッチからキーを抜いて、車を離れようとしたとき(運転席ドアを開けたとき)。

・Hondaスマートキーシステム装備車
ライトを点灯したままエンジンスイッチを“0”(プッシュオフ)にして、車を離れようとしたとき(運転席ドアを開けたとき)。

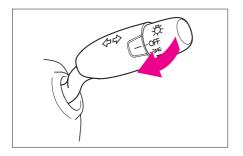
●ヘッドライトの上向き(ハイビーム)と下向き(ロービーム)の切り換え

レバーを前方へ押すと上向きになります。戻すと下向きになります。
上向きのときは、メーター内の表示灯が点灯します。

ヘッドライト上向き(ハイビーム)
表示灯 →111ページ

知 識

●対向車のあるときや市街地走行など、上向きが不適切なときは下向きにします。

●追越合図(パッシング)

レバーを手前に引いている間、上向きが点灯します。

●オートレベリング機能

ディスチャージヘッドライト装備車

ヘッドライトには、積載時などの車両の姿勢の変化に応じて光軸の上下方向を自動的に調節するオートレベリング機能が装備されています。

アドバイス

- ヘッドライト光軸の上下方向に異常を感じたときはHonda販売店で点検を受けてください。

●ヘッドライトレベリングダイヤル

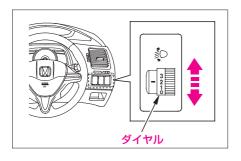
ハロゲンヘッドライト装備車

エンジンスイッチが"II"のとき、ヘッドライトの照らす方向(光軸)を下向きに調節することができます。
乗員や荷物が多いときなど、ヘッドライトが通常より上を向いているときは、ヘッドライトの光軸を下向きにしてください。

▼

光軸の調節はダイヤルを回して行います。

下方向へ回すとヘッドライトの光軸は下向きに変わります。

ダイヤルの数字が大きいほど光軸は下向きになります。

乗員の人数や荷物の量に応じて、下記の表を目安にダイヤル位置を調節してください。

《ダイヤル位置の目安》

1.8G、1.8GL、2.0GL

乗員やトランクの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席と助手席に乗車時	0
5名乗車時	1
5名乗車でトランク満載時	2
運転席のみ乗車でトランク満載時	3

TYPE R

乗員やトランクの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席と助手席に乗車時	0
4名乗車時	1
4名乗車でトランク満載時	2
運転席のみ乗車でトランク満載時	3

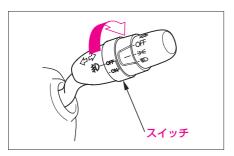
知 識

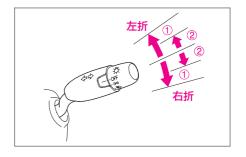
●車検などで光軸調整をするときは、ダイヤルを"0"の位置に戻してから行ってください。

フォグライトスイッチ

フォグライト装備車

ライトスイッチが“OFF”以外のときスイッチをON（“ ”）にするとフォグライトが点灯します。
同時にメーター内の表示灯が点灯します。

フォグライト点灯表示灯　→111ページ

方向指示器（ウィンカー）スイッチ

エンジンスイッチが“II”のとき使えます。
ふだんは①の位置で使います。
この位置ではハンドルの切り角が小さいときには戻らない場合もあります。戻らないときは手で戻してください。
車線変更などでは②の位置に軽く手で押さえながら使います。

ワイパー／ウォッシャースイッチ

⚠注意

- 寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射しないでください。
  ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

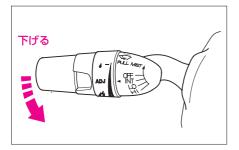
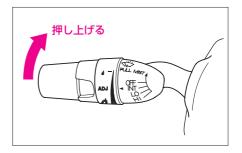
知　識

- から拭きをしないでください。ガラス面に傷をつけたり、ブレード(ゴム部)を傷めたりします。
- ウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを切ってください。
  ウォッシャー液がないままで動かすとポンプの故障の原因となります。
- 寒冷時、ブレード(ゴム部)がガラス面に張りつくことがありますのでデフロスターでフロントガラスを暖めてください。
  凍りついたまま動かすとブレード(ゴム部)を傷めたり、ワイパーモーターの故障の原因となります。
  デフロスター　→236、243ページ

知　識

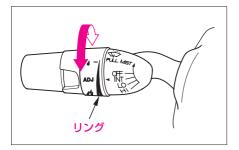
- ワイパーを作動中にガラスに雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してワイパースイッチを“OFF”、エンジンスイッチを“0”または“I”にしてワイパーが作動できるように雪などの障害物を取り除いてください。
- ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。
  モーターの負荷が大きい状態が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。
  数分ほどすると、ブレーカーが復帰して通常通り使用できるようになります。
- ワイパーアームを起こすときは、運転席側を先に起こしてください。また、倒すときは、助手席側を先に倒してください。
  ワイパーアームの起こしかた
  →351ページ

エンジンスイッチが“II”のとき使えます。

●ワイパースイッチ

OFF ················ 停止
INT（間欠） ········· 雨量の少ないとき
LO（低速） ·········· 普通雨量のとき
HI（高速） ··········· 雨量の多いとき

MIST ··········
レバーを押し上げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときなどに使うと便利です。

間欠時間の調節

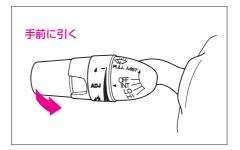
ワイパーの間欠作動の間隔を調節できます。

間隔のセットはリングを回して行います。

位置	間隔
– ADJ +	長い ↕ 短い

🎓 **知　識**

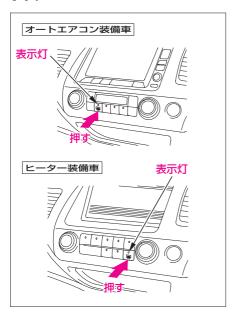
- 間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より約 4 秒短くなります。
  また、発進時にワイパーが 1 回作動します。
- リングを間欠時間の短い方へいっぱいに回しているときに、車速が速くなるとワイパーが間欠から低速作動になります。

●ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。レバーを引いている間はワイパーが作動し、レバーを離した後さらに 2 ～ 3 回作動します。

リヤデフロスタースイッチ

リヤガラスを暖め、曇りを取ることができます。

▼

エンジンスイッチが"II"のときスイッチを押すと"ON"になり、同時に作動表示灯が点灯します。もう一度スイッチを押すと"OFF"になり、作動表示灯は消灯します。

知識

- この装置は消費電力が大きいので曇りが取れたら"OFF"にしてください。また、エンジンの回転が低いとき長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

  オートエアコン装備車

  "ON"のままであっても、外気温に応じて約10分~30分経過後自動的に"OFF"になります。ただし、外気温が0 °C以下のときには自動的に"OFF"にはなりません。

  ヒーター装備車

  "ON"のままであっても、約14分~20分経過後自動的に"OFF"になります。
- リヤガラスの内側に電熱線が装着されています。電熱線は傷つきやすいので清掃のときは電熱線に沿ってやわらかい布で拭いてください。また、手荷物などで傷つけないようにしてください。

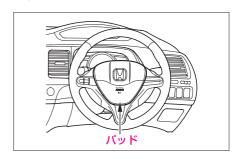
非常点滅表示灯(ハザード)スイッチ

スイッチを押すとすべての方向指示器のランプが点滅します。
故障でやむをえず路上駐車するときに使います。

知　識

- 非常時にのみお使いください。
  完全充電の新しいバッテリーでも約 2 時間以上使うとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

ホーンスイッチ

ハンドルのパッドを押すとホーンが鳴ります。

運転のしかた

エンジンのかけかた

⚠警告

- バッテリー液が不足しているときは、エンジンの始動をしないでください。
  バッテリーが破裂するおそれがあります。
- 車庫や屋内などの換気の悪いところでは、エンジンをかけたままにしないでください。
  車内や屋内などに排気ガスが充満し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

⚠注意

- エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

アドバイス

- 排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えない場合は、排気系や燃料系の異常が考えられますので、必ずHonda販売店で点検を受けてください。

Hondaスマートキーシステム装備車は、Hondaスマートキーを運転者が携帯し、車内にHondaスマートキーを残したまま降車しないでください。
また、電池の消耗などでHondaスマートキーが正常に作動しないときは、内蔵キーを使ってエンジンを始動してください。

内蔵キーの差し込みかた　→319ページ

①パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

パーキングブレーキの操作
→152ページ

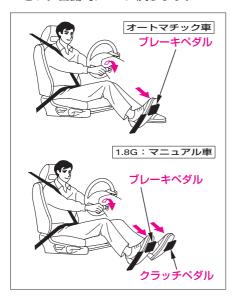
② マニュアル車
チェンジレバーをN(ニュートラル)にしてください。
チェンジレバーの操作　→154ページ

オートマチック車
セレクトレバーがⓅの位置にあることを確認してください。
セレクトレバーの操作
→158、166ページ

③ブレーキペダルをしっかりと踏みます。マニュアル車は、クラッチペダルもいっぱいに踏み込みます。

④ Hondaスマートキーシステム装備車
エンジンスイッチノブを押し込みます。"ピッ"というブザーが鳴ってから、ゆっくりと回してください。

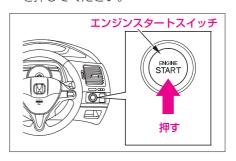
⑤ オートマチック車、1.8G：マニュアル車

アクセルペダルを踏まずに、エンジンスイッチをゆっくりと“III”まで回し、エンジンが始動したら手を離してください。自動的に“II”に戻ります。

・クラッチ・スタートシステム

マニュアル車

思わぬ事故を防ぐため、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターが回らないようになっています。

TYPE R

アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチを“II”まで回し、エンジンが始動するまでエンジンスタートスイッチを押してください。

知　識

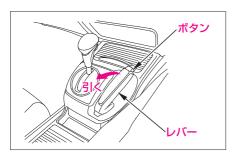
- 消費電力の大きいライト類、エアコン、リヤデフロスターのスイッチは“OFF”にした方が始動は容易になります。
- バッテリーあがりを防ぐため、スターターは連続して15秒以上回さないでください。15秒回してもエンジンが始動しなかったときは、一度エンジンスイッチを“Ⅰ”に戻して10秒以上待ってから再始動してください。
- 始動時にアクセルペダル操作が必要な場合は、始動後、右足でブレーキペダルを踏んでください。

知　識

- 周囲の電波状態などによりエンジンが始動できないことがあります。
  イモビライザーシステム
  →68ページ
- エンジンがあたたまっていると始動に時間がかかることがあります。アクセルペダルを半分程度踏み込んだまま、スターターを回してください。エンジンが始動したらアクセルペダルを徐々に戻してください。
- エンジン始動後は、エンジン制御システムの働きによりエンジン回転が高くなりますが、自動的に適正回転に下がります。

パーキングブレーキ

かけるとき

ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引きます。

後輪ブレーキが効きます。

解除するとき

①レバーを軽く引き上げながら、ボタンを押します。

②ボタンを押したまま、レバーを下に完全におろします。

⚠注意

●パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。
ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

知　識

●駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。

寒冷時のパーキングブレーキの取り扱い　→346ページ

パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザー

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行（車速約 7 km/h以上）するとブザーが鳴り、パーキングブレーキの戻し忘れを知らせます。パーキングブレーキを完全に解除するとブザーは止まります。

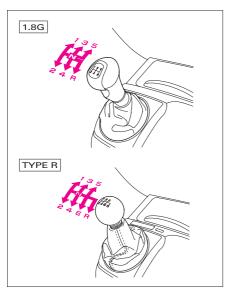
ブレーキ警告灯　→120ページ

知　識

●停車（車速約 3 km/h以下）するとブザーによる警告は一旦止まります。

チェンジレバーの操作

マニュアル車

●チェンジレバー

変速するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、チェンジレバーを確実に操作します。

Rに入れるとき

1.8G

誤操作を防ぐために、5からRへは直接入れられません。一度Nへ戻してからRに入れてください。

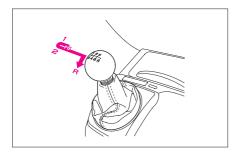
アドバイス

- 車が完全に止まらないうちはRに入れないでください。
  トランスミッション破損の原因となります。

知　識

- TYPE R
  炎天下に長時間駐車すると、シフトノブが熱くなることがあります。

・Rに入らないとき　TYPE R

誤操作を防ぐため、Rへは一定車速以上では入らないようになっています。
停車してもRに入らないときは、チェンジレバーを一度Nへ戻し、1、2側に倒してからRに入れてください。

上記の操作をしてもRに入らないときは
①パーキングブレーキをかけてエンジンスイッチを“Ⅰ”または“0”にします。
②クラッチペダルを踏んで、チェンジレバーをRに入れます。
③クラッチペダルを踏んだまま、エンジンを始動します。

アドバイス

- 停車してもRに入らない場合は、故障が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。

●速度範囲

エンジンを過回転させないために、下表の各チェンジレバー位置での速度範囲を参考に、シフトダウンしてください。

1.8G

チェンジレバーの位置	速度範囲
1	0～55km/h
2	15～95km/h
3	25～145km/h
4	35km/h～
5	40km/h～

TYPE R

チェンジレバーの位置	速度範囲
1	0～59km/h
2	15～90km/h
3	25～127km/h
4	35km/h～
5	40km/h～
6	50km/h～

⚠注意

●滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。
シフトダウンする際の車速には十分注意してください。

アドバイス

●エンジン故障の原因となりますので、下表の限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないように運転してください。特に高速走行時、変速(シフトダウン)するときには注意してください。

タイプ	限界回転数（rpm）
1.8G	6,800
TYPE R	8,400

知　識

●法定速度を守って走行してください。
●1,000km走行するまではエンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。
●エンジンの回転をあやまって限界回転数以上(レッドゾーン)で運転した場合、エンジン保護装置により、燃料供給が停止されます。そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。

セレクトレバーの操作

●それぞれの位置のはたらき

オートマチック車(1.8GL、2.0GL)

パーキング

駐車およびエンジンを始動する位置。
キーを抜く位置。

知　識

●セレクトレバーがⓅ以外のときは、エンジンスイッチが“0”まで回らないので、キーを抜くことができません。

リバース

車を後退(バック)させる位置。
チャイムが鳴り、セレクトレバーがⓇに入っていることを運転者に知らせます。

ニュートラル

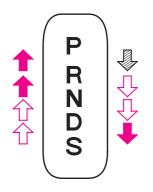
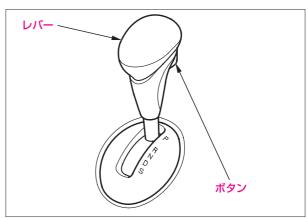
中立位置。
(エンジン始動できますが、安全のためⓅで行ってください。)

ドライブ

通常の走行をする位置。
(1速から5速まで自動的に変速されます。)
一時的にシーケンシャルモードにすることができます。

シーケンシャルモードにする位置。

シーケンシャルモード　→161ページ

●セレクトレバーの動かしかた

 ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押してレバーを操作します。

 ボタンを押さずにレバーを操作します。

 ボタンを押してレバーを操作します。

知　識

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- Ⓟのときは、ボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチが“Ⅰ”または“0”のときは、ブレーキペダルを踏んでもⓅから他の位置に切り換えられません。
- いつもボタンを押して操作すると、意に反してⓅⓇⓈに入れてしまうおそれがあります。
  ⇧⇩の操作は、ボタンを押さずに動かす習慣をつけてください。

●速度範囲

エンジンを過回転させないために、下表の各セレクトレバー位置での速度範囲内で切り換えを行ってください。

セレクトレバーの位置	速　度　範　囲(km/h)	変　速　範　囲
D	0～	1↔2↔3↔4↔5速(自動)
シーケンシャルモード	0～	1↔2↔3↔4↔5速(手動)
S	0～	1↔2↔3↔4速(自動)
シーケンシャルモード	0～	1↔2↔3↔4↔5速(手動)

⚠注意

●滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。
シフトダウンする際の車速には十分注意してください。

アドバイス

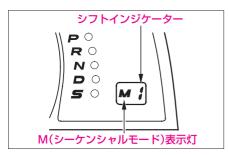
●シーケンシャルモードでは自動的にシフトアップしません。
エンジン故障などの原因となりますので、下記の限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないように運転してください。
限界回転数 ……………………6,800rpm

知　識

●法定速度を守って走行してください。
●1,000km走行するまではエンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。
●エンジンの回転をあやまって限界回転数以上(レッドゾーン)で運転した場合、エンジン保護装置により、燃料供給が停止されます。そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。

●シーケンシャルモード

ハンドルにあるシフトスイッチを使って、ハンドルから手を離さずに手動で変速できます。
マニュアルトランスミッションのような操作ができます。

シーケンシャルモードにするとメーター内にあるシフトインジケーターにギヤの位置を表示します。
セレクトレバーが🅂のときは、🄼表示灯が点灯します。

M(シーケンシャルモード)表示灯

→112ページ

セレクトレバーが🄳のとき

走行中に、シフトスイッチを引くとシーケンシャルモードがセットされます。シーケンシャルモードのときに定速で走行している状態や加速状態になると、シーケンシャルモードは自動で解除されますので、カーブの手前など、一時的に減速したいときに便利です。

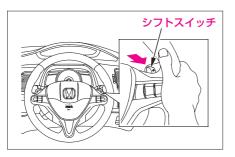
セレクトレバーが🅂のとき

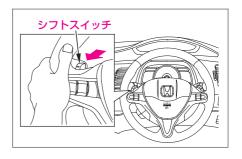
停止中や走行中に、シフトスイッチを引くとシーケンシャルモードがセットされます。
10km/h以下になると、自動的に1速にシフトダウンします。車速が上がっても、自動的にシフトアップはしません。
発進は1速または2速でのみ行うことができます。

知　識

● セレクトレバーを🅂にしたときは、1速から4速の自動変速になります。シーケンシャルモードにするときは、シフトスイッチを引いてください。

シフトアップするとき

スイッチの＋側を引くとシフトアップ（高速ギヤに変速）します。

シフトダウンするとき

スイッチの－側を引くとシフトダウン（低速ギヤに変速）します。

知　識

- シフトスイッチの操作１回で、ギヤを１段変速します。連続して操作したときは、ギヤを連続して変速します。シフトスイッチを引いたままでは、連続変速しません。続けて変速するときは、一旦シフトスイッチから指を離してから操作してください。
- シフトスイッチを引いたまま、もう一方のシフトスイッチを引いても変速しません。
- シフトスイッチの＋側と－側を同時に引いても変速しません。

シーケンシャルモードを解除するとき

セレクトレバーを[S]から[D]に動かすと、シーケンシャルモードは解除され[M]表示灯は消灯し、通常の[D]（ATモード）に戻ります。

M（シーケンシャルモード）表示灯
→112ページ

セレクトレバーが[D]のときは、定速で走行している状態や加速状態になると、通常の[D]（ATモード）に戻ります。

2速固定モードの使いかた

セレクトレバーが🅂で停止または10km/h以下でシフトスイッチの＋側を引くと、２速固定モードになり２速に固定されます。雪道などの滑りやすい路面での発進がしやすくなります。

２速固定モードのときに、シフトスイッチの＋側か－側を引くと、２速固定モードは解除されます。

操作受けつけ車速

シーケンシャルモードでは、以下の条件のときにシフトスイッチを操作すると変速します。

1.8GL

	シフトアップ	シフトダウン
１速↔２速	０km/h以上	50km/h以下
２速↔３速	10km/h以上	100km/h以下
３速↔４速	34km/h以上	135km/h以下
４速↔５速	48km/h以上	――

2.0GL

	シフトアップ	シフトダウン
１速↔２速	０km/h以上	50km/h以下
２速↔３速	10km/h以上	100km/h以下
３速↔４速	32km/h以上	145km/h以下
４速↔５速	48km/h以上	――

また、シフトダウン時(５速→４速、４速→３速、３速→２速および２速→１速)に速度範囲を超えているときは、表示灯が点滅(最大約１秒間)します。点滅している間に車速が速度範囲内に下がったときはシフトダウンを行います。

知 識

●シーケンシャルモード(セレクトレバーⓈ)では、発進は1速または2速(2速固定モードのとき)で行えます。

●以下の場合、自動的にシフトダウンすることがあります。

・10km/h以下になると、1速になります。
・5速で48km/h以下になると、4速になります。
・5速で48～72km/hのときに、登坂時に車速が下がったときや、降坂時にブレーキを踏んだときは4速になることがあります。

1.8GL

・4速で34km/h以下になると、3速になります。
・4速で34～52km/hのときに、登坂時に車速が下がったときや、降坂時にブレーキを踏んだときは3速になることがあります。

2.0GL

・4速で32km/h以下になると、3速になります。
・4速で32～52km/hのときに、登坂時に車速が下がったときや、降坂時にブレーキを踏んだときは3速になることがあります。

セレクトレバーの操作

●それぞれの位置のはたらき

オートマチック車(1.8G)

パーキング

駐車およびエンジンを始動する位置。
キーを抜く位置。

> **知　識**
> ●セレクトレバーがⓅ以外のときは、エンジンスイッチが“0”まで回らないので、キーを抜くことができません。

リバース

車を後退(バック)させる位置。
チャイムが鳴り、セレクトレバーがⓇに入っていることを運転者に知らせます。

ニュートラル

中立位置。
(エンジン始動できますが、安全のためⓅで行ってください。)

D3

ドライブ

D：通常の走行をする位置。
(1速から5速まで自動的に変速されます。)

D3：上り坂、下り坂に使う位置。
(1速から3速まで自動的に変速されます。)

2

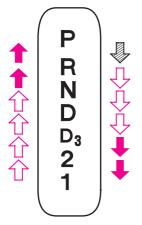
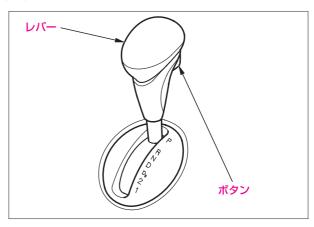
セカンド

エンジンブレーキが必要なときや、雪道などの滑りやすい路面での発進に使う位置。
(2速のままで変速されません。)

1

ロー

強力なエンジンブレーキが必要なときに使う位置。
(1速のままで変速されません。)

●セレクトレバーの動かしかた

 ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押してレバーを操作します。

 ボタンを押さずにレバーを操作します。

 ボタンを押してレバーを操作します。

知　識

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- Ⓟのときは、ボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチが“Ｉ”または“０”のときは、ブレーキペダルを踏んでもⓅから他の位置に切り換えられません。
- いつもボタンを押して操作すると、意に反してⓅⓇ②①に入れてしまうおそれがあります。
  ⇧⇩の操作は、ボタンを押さずに動かす習慣をつけてください。

●速度範囲

エンジンを過回転させないために、下表の各セレクトレバー位置での速度範囲内で切り換えを行ってください。

セレクトレバーの位置	速　度　範　囲	変　速　範　囲
D	0 km/h〜	1↔2↔3↔4↔5速
D3	0〜160km/h	1↔2↔3速
2	0〜105km/h	2速固定
1	0〜61km/h	1速固定

※：急激なエンジンブレーキによるショックを避けるため50km/h以上で1へ切り換えた場合は、一旦2速に入ります。

⚠注意

- 滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。
  シフトダウンする際の車速には十分注意してください。

知　識

- 法定速度を守って走行してください。
- 1,000km走行するまではエンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。
- エンジンの回転をあやまって限界回転数以上(レッドゾーン)で運転した場合、エンジン保護装置により、燃料供給が停止されます。そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。

オートマチック車の運転のしかた

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤの切り換えを自動化したもので、その分、操作の負担が軽くなり、運転が楽になりますが、運転の基本を十分理解し、正しく操作する習慣をつけてください。

エンジンをかける前に

正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。

知　識

- ペダルの踏みまちがいを防ぐため、ペダルの位置を実際に踏んでみて足におぼえさせておくことが重要です。
  また、不慣れな左足では、適切なブレーキ操作ができません。
- 車を少し移動させるときにもペダルが確実に踏めるように、正しい運転姿勢をとりましょう。

エンジン始動

①パーキングブレーキがかかっていることを確認。
②セレクトレバーがⓅに入っていることを確認。

知　識

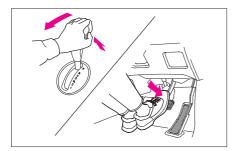
● Ⓝでも始動できますが、安全のため駆動輪が固定されるⓅで行ってください。

③ブレーキペダルを右足で踏んで始動。

知　識

● イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときはエンジンを始動することができません。
イモビライザーシステム
→68ページ
イモビライザーシステム表示灯
→114ページ
● 始動時にアクセルペダル操作が必要な場合は、始動後、右足でブレーキペダルを踏んでください。

発進

①右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを前進はⒹ、後退はⓇに入れる。

⚠注意

●アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。

②レバーの位置を目で再確認。
③パーキングブレーキを解除する。
④ブレーキ警告灯が消灯したことを確認。
(→120ページ)
⑤ブレーキペダルを徐々に離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。

知 識

●セレクトレバーをⓅⓃ以外に入れると、クリープ現象により、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。ブレーキペダルを踏んでいてください。
●エンジン始動直後は、自動的にエンジンの回転が上がり、クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルはしっかり踏んでいてください。
●セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
●オートマチック車は、発進時の速度をアクセル操作のみで調節するので、アクセル操作は慎重に行ってください。

知　識

●万一、ブレーキペダルを踏んでも
Ⓟから他の位置に切り換えられないときは、

①ドライバーの先端に布等をまいてシフトロック解除穴のカバーを外します。

②シフトロック解除穴にキーを差し込み、押しながらレバーを操作してください。

急な坂道での発進

セレクトレバーの位置を目で確認し、
- パーキングブレーキをかけたままブレーキペダルから足を離し、
- アクセルペダルをゆっくり踏んで、
- 車が動き出す感触を確認しながら、
- パーキングブレーキを解除して発進。

走行

走行中はセレクトレバーを[N]にしないでください。

知　識

- [N]にするとエンジンブレーキが全く効かなくなるため思わぬ事故の原因になります。
  また[N]にしても燃費の差はほとんどありません。

⚠注意

- フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。長い下り坂や急な下り坂では、必ずエンジンブレーキを併用してください。

エンジンブレーキ　→22ページ

1.8GL、2.0GL

通常走行

セレクトレバーを[D]にして走行します。アクセルペダルの踏み加減と走行速度により、１速から５速まで自動的に変速されます。

・シーケンシャルモード走行

停止中や走行中に、シフトスイッチを引くとシーケンシャルモードがセットされ、マニュアルトランスミッションのような操作ができます。

シーケンシャルモード →161ページ
M(シーケンシャルモード)表示灯 →112ページ

急加速したいとき

アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンして急加速します。

上り坂走行

坂の勾配に応じ、セレクトレバーを[S]にしておくと、より力強い走行ができます。

下り坂走行

下り坂を[D]のまま走行すると、エンジンブレーキのききが弱く、速度が出すぎてしまうことがあります。このようなときには、シフトスイッチを引いて、走行速度に合わせて、ギヤを一段ずつ落としてください。

1.8G

通常走行

セレクトレバーを[D]にして走行します。アクセルペダルの踏み加減と走行速度により、１速から５速まで自動的に変速されます。

急加速したいとき

アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンして急加速します。

上り坂走行

坂の勾配に応じ、セレクトレバーを[D3]または[2]にしておくと、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

下り坂走行

下り坂を[D]のまま走行すると、エンジンブレーキのききが弱く、速度が出すぎてしまうことがあります。このようなときには、セレクトレバーを[D3]にします。[D3]のままで速度が出すぎるときは[2]または[1]にし、さらに強いエンジンブレーキを使用してください。

停車

①Ⓓのままブレーキペダルをしっかりと踏んでおく。
必要に応じてパーキングブレーキをかける。

アドバイス

● アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でⓅⓃ以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

知　識

● 急な上り坂での停車はクリープ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。
● セレクトレバーがⓅⓃ以外でエアコンスイッチが入っている場合などは、エンジン回転数が断続的に高くなりクリープ現象が強まります。ブレーキペダルを特にしっかりと踏み込んでください。

②停車時間が長くなるときはセレクトレバーをⓃに入れる。

⚠注意

● 停車中、空ぶかしをしないでください。
万一、セレクトレバーがⓅⓃ以外のとき、思わぬ急発進の原因になります。

知　識

● 停車後、再発進するときは、思い違いのないようセレクトレバーがⒹにあることを確認してください。
● セレクトレバーがⓃでもエンジンが冷えているときは、トランスミッションオイルの粘性により車がわずかに動き出すことがありますので、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

駐車

①車を完全に止める。
②ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。
③セレクトレバーをⓅに入れる。

知　識

- 駐車の際は、セレクトレバーが必ずⓅに入っていることを確認してください。セレクトレバーがⓅのときは、駆動輪が固定されるため、車が動き出す心配がなく安全です。

④エンジンを止める。

⚠注意

- エンジンをかけたままにしておくと、万一、セレクトレバーがⓅⓃ以外に入っていたとき、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み急発進するおそれがあります。

アドバイス

- 車が完全に止まらないうちにⓅに入れないでください。トランスミッション破損の原因となります。

知　識

- 環境保護のため駐車時にはエンジンを止めましょう。

ほかに気をつけたいこと

⚠注意

● セレクトレバーは正しい位置で使用してください。
坂道などで、前進(Ⓓ、Ⓓ3、②、①またはⒹ、Ⓢ)の位置にしたまま惰性で後退したり、後退(Ⓡ)の位置にしたまま前進したりすると、エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなり、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

車を少し移動させるとき
このような場合でも、正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

車を後退させるとき
この場合、体をうしろにひねった姿勢になり、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキペダルは確実に踏めるよう注意してください。

リミテッドスリップデフ(LSD)

TYPE R

LSDのしくみ

LSDは駆動力を左右輪に最適配分し、有効に伝達するための装置です。
このLSDは、ヘリカルギヤを使ったトルク感応型となっています。
トルク感応型LSDの特性として、加速時にハンドルが重くなったり、振動を感じることがあります。

取り扱いについて

アドバイス

- 前輪は左右共、同一サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用するとLSDに悪影響をあたえます。

安全装備

SRSエアバッグシステム
（運転席／助手席用シートベルト補助乗員保護装置）

SRSエアバッグシステムのしくみ

●SRSエアバッグシステムとは

前方向からの衝突により、SRSエアバッグが膨らんで運転者および助手席同乗者の顔面への衝撃を緩和する装置です。

SRSエアバッグシステムはシートベルトに代わるものではありません。必ず、シートベルトを着用してください。

⚠警告

- SRSエアバッグシステム装備車であっても、必ずシートベルトを着用してください。
  シートベルトを正しく着用し、正しい乗車姿勢をとらないと衝突などのときSRSエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

*SRS：サプリメンタルレストレイントシステム（Supplemental Restraint System）の略でシートベルトの補助拘束装置の意味

●どのように作動するか

エンジンスイッチが“II”のとき、前方向からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃（正しくシートベルトを着用していてもハンドルに顔面があたり、けがをするような場合）を感知するとシステムが作動し、SRSエアバッグが膨らんで運転者および助手席同乗者の顔面への衝撃を緩和します。
SRSエアバッグの作動は、衝突状況とシートベルトの着用の有無により異なります。
そのため、運転席または助手席のSRSエアバッグが片側のみ作動することがあります。

⚠注意

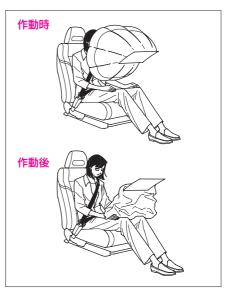
- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグ構成部品に触れないでください。
  構成部品が熱くなっているため、やけどなど思わぬけがをすることがあります。

知識

- 車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。
- SRSエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- 膨らんだSRSエアバッグはすぐにしぼみます。視界を妨げません。
- SRSエアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物(カスなど)が目や皮膚などに付着したときには、できるだけ早く水で洗い流してください。
  皮膚の弱いかたなどは、まれに皮膚を刺激することがあります。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用できません。
  Honda販売店で交換してください。

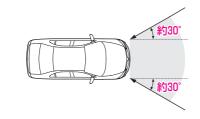
運転席用SRSエアバッグシステム

助手席用SRSエアバッグシステム

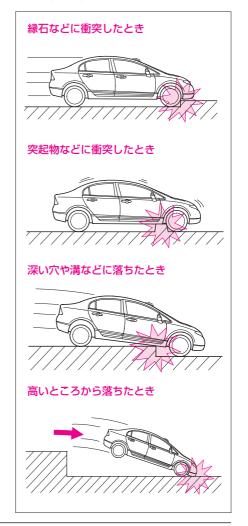
助手席用SRSエアバッグシステムは、同乗者がいなくても作動します。

作動するとき

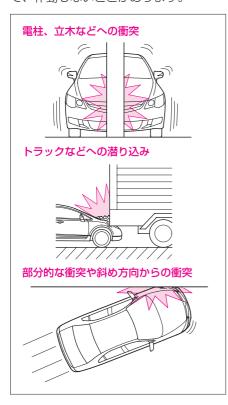
次のような場合に作動します。

20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき

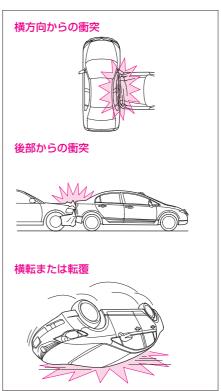
車両の前方左右約30度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

知　識

- 衝撃を吸収できる物（車やガードレールのように変形する物）に衝突した場合、SRSエアバッグが作動するときの速度（車速）は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。車両に衝撃を受けないように十分に速度を落とし障害物をさけて走行してください。

作動しないとき

衝突の位置、衝撃の度合い、角度によって、作動しないことがあります。

知　識

- 車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRSエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

知　識

- 事故の状況、形態によっては、SRSエアバッグが作動することがあります。

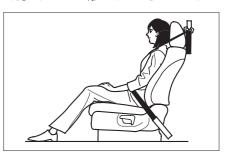
SRSエアバッグシステムの効果を十分に発揮させるために

●正しい乗車姿勢で

運転席
正しい運転姿勢(シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる状態)がとれる範囲で、シートを後ろに下げます。

⚠警告

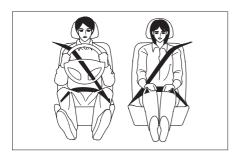
- ハンドルに顔や胸などを近づけていると、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。

助手席
シートを後ろに下げて深く腰かけ、背中を背もたれから離さないようにします。

⚠警告

- インストルメントパネルに顔や胸などが近づかないようにシートを後ろに下げてください。また、インストルメントパネルに手や足などを置かないでください。
SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

●シートベルトは必ず着用

このシステムは、シートベルトと併用することでその効果を発揮します。
必ず、シートベルトを着用してください。

お子さまは、後席に乗せ必ずシートベルトを着用させてください。
正しく着用できない小さなお子さまは、体格に合わせてチャイルドシートをお使いください。

●チャイルドシートの取り付けについて

⚠警告

● 助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。
また、やむをえず幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。

取り扱いについて

⚠注意

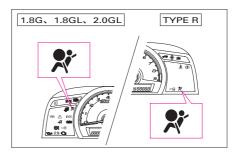
- SRSエアバッグの取り外し、分解などはしないでください。
  不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。
- ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったりすると正常に機能しなくなります。

- インストルメントパネル上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤など物を置かないでください。
  フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。
  また、SRSエアバッグと乗員との間にテレビなどの用品を取り付けたり、物を置いたりしないでください。
  正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物が飛ぶことがあります。

知　識

- ハンドルまわり、インストルメントパネルまわりやセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品の取り付けおよびダッシュボード周辺の板金塗装および修理をする場合は、SRSエアバッグシステムに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずHonda販売店にご相談ください。
- SRSエアバッグシステム装備車を廃棄するときは必ずHonda販売店にご相談ください。正しく取り扱わないとSRSエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。
- サスペンションの改造をしないでください。車高やサスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながります。（Honda純正品を除く）

●SRSエアバッグシステム警告灯

メーター内に組み込まれており、SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。

エンジンスイッチを“II”にしたときに約６秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき。
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約６秒経過しても消灯しないとき。

  必要なときにSRSエアバッグが膨らまないおそれがあります。

サイドエアバッグシステム／サイドカーテンエアバッグシステム

タイプ別注文装備

サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステムのしくみ

●サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステムとは

側面からの衝突により、サイドエアバッグ（運転者または助手席同乗者）およびサイドカーテンエアバッグが膨らんで乗員と車両側面の間に入り込むことにより、車両側面と乗員の頭部や胸部などが衝突するときの衝撃を緩和する装置です。

サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステムはシートベルトに代わるものではありません。必ず、シートベルトを着用してください。

⚠警告

- サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステム装備車であっても、必ずシートベルトを着用してください。
  シートベルトを正しく着用し、正しい乗車姿勢をとらないと衝突などのときエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

●どのように作動するか

エンジンスイッチが"II"のとき、側面からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃（頭部や胸部に重傷を及ぼすような場合）を感知するとシステムが作動し、衝撃を受けた側のサイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らんで乗員と車両側面の間に入り込むことにより、車両側面と乗員の頭部や胸部などが衝突するときの衝撃を緩和します。
助手席側は乗員姿勢検知システムが乗車姿勢を不適切であると判断した場合は、サイドエアバッグの作動を自動停止します。

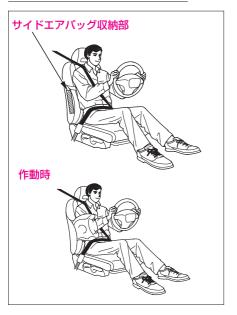
乗員姿勢検知システム　→199ページ

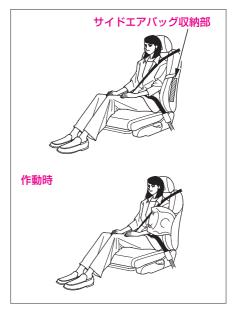
⚠注意

- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らんだ直後は、エアバッグ構成部品に触れないでください。
  構成部品が熱くなっているため、やけどなど思わぬけがをすることがあります。

知　識

- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグは膨らんだあとにしぼみます。
- サイドエアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物（カスなど）が目などに付着したときには、できるだけ早く水で洗い流してください。
- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグは一度膨らむと再使用できません。
  Honda販売店で交換してください。

運転席サイドエアバッグシステム

助手席サイドエアバッグシステム

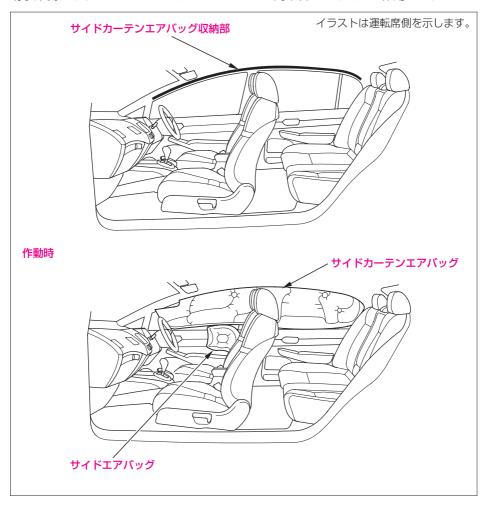
助手席用サイドエアバッグシステムは、同乗者がいなくても作動します。

サイドカーテンエアバッグシステム

助手席側にもサイドカーテンエアバッグが収納されています。
助手席側サイドカーテンエアバッグシステムは、同乗者がいなくても作動します。

イラストは運転席側を示します。

サイドカーテンエアバッグ収納部

作動時

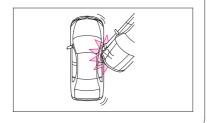
サイドカーテンエアバッグ

サイドエアバッグ

作動するとき

次のような場合に作動します。

約30km/h以上の速度で自車と同等の車が真横から側面衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき

知　識

- 側面に斜めから衝突された場合、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが作動するときの速度(車速)は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。車両に衝撃を受けないように十分に速度を落とし障害物をさけて走行してください。

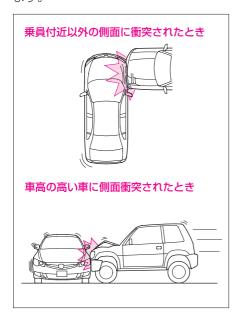
縁石などに衝突したとき

突起物などに衝突したとき

深い穴や溝などに落ちたとき

高いところから落ちたとき

次のような場合、作動しないことがあります。

知　識

- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

作動しないとき

低い速度での衝突や次のような場合、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らんでも乗員保護の効果がないので作動しません。ただし、状況によっては、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが作動することがあります。

正面衝突

後部からの衝突

横転または転覆

知　識

- 事故の状況と、形態によっては、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが作動することがあります。

助手席側は、乗員姿勢検知システムが乗車姿勢を不適切であると判断した場合は、サイドエアバッグの作動を自動停止します。

乗員姿勢検知システム　→199ページ

サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステムの効果を十分に発揮させるために

●正しい乗車姿勢で

運転席

正しい運転姿勢（シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる状態）がとれる範囲で、シートを後ろに下げます。

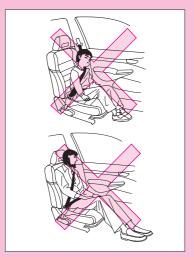
助手席

シートを後ろに下げて深く腰かけ、背中を背もたれから離さないようにします。

後席（外側）

シートに深く腰かけ、背中を背もたれから離さないようにします。

⚠注意

- ドアに寄りかからないようにしてください。サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、傷害を受けるおそれがあります。

- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグの各格納部に手や顔などを必要以上に近づけないでください。また、後席同乗者は前席の背もたれを抱えないでください。
  サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、傷害を受けるおそれがあります。

●シートベルトは必ず着用

このシステムは、シートベルトと併用することでその効果を発揮します。
必ず、シートベルトを着用してください。

乗員姿勢検知システム（助手席のみ）

●乗員姿勢検知システムとは

乗車時の姿勢が不適切な場合、サイドエアバッグが膨らむことにより重大な傷害を受けるおそれがあるため、助手席乗員の姿勢を検知し、サイドエアバッグの作動を自動的に停止する装置です。

知　識

- シート表皮の裏にセンサーが取り付けられているため、次のような場合には、乗員姿勢検知システムが正常に機能しないおそれがあります。
  - シートの背もたれがぬれているとき。
  - 金属など電気を通す物が接しているとき。
  - シートにクッションなどを装着しているとき。
  - ダウンジャケット等の厚い上着を着ているとき。
  - 水分を含んだ物を助手席に置いているとき。

●サイドエアバッグの作動を自動停止するとき

次のような場合、サイドエアバッグの作動を自動停止します。このときメーター内のサイドエアバッグ自動停止表示灯が点灯します。

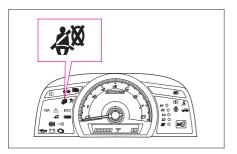
サイドエアバッグ自動停止表示灯
→114ページ

小さなお子さまがドアに寄りかかって、サイドエアバッグがとび出す付近に頭があるようなとき

知　識

- 次のような場合でも、サイドエアバッグの作動を自動停止することがあります。
  - 小柄な大人の方が上のイラストと同じような姿勢をとったとき。
  - 大人の方が前かがみになる。または、寝そべっていて、ドア側に寄りかかっているとき。

●サイドエアバッグ自動停止表示灯

メーター内に組み込まれており、乗員姿勢検知システムが乗車姿勢を不適切であると判断し、サイドエアバッグの作動を自動停止しているときに点灯します。
表示灯が点灯したときは、上体を起こして座ってください。また、小さなお子さまの場合は、後席に乗せてください。

エンジンスイッチを“II”にしたときに約5秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 表示灯が次のような状態になったときは、乗員姿勢検知システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・正しい乗車姿勢をとっても消灯しないとき、あるいは助手席に乗員がいないのに消灯しないとき。
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約5秒経過しても消灯しないとき。

お子さまを乗せるときは

お子さまは、後席に乗せ必ずシートベルトを着用させてください。
正しく着用できない小さなお子さまは、体格に合わせてチャイルドシートをお使いください。

知　識

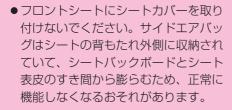
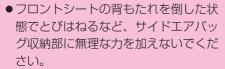
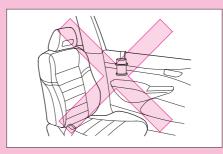
- 次のような場合は、表示灯が点灯することがあります。表示灯が点灯しているときは、サイドエアバッグの作動を自動停止します。
  - ・シートの背もたれがぬれているとき。
  - ・金属など電気を通す物が接しているとき。
  - ・水分を含んだ物を助手席に置いているとき。

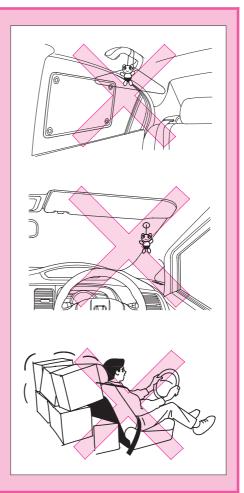
取り扱いについて

⚠注意

- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグの取り外し、分解などはしないでください。
  不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。
- ドアやその周辺にカップホルダーなどを取り付けないでください。
  また、シートとドアの間付近に傘などの物を置かないでください。
  サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグはドアに沿って膨らむため、正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物が飛ぶことがあります。

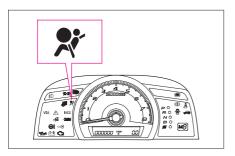
- フロントシートにシートカバーを取り付けないでください。サイドエアバッグはシートの背もたれ外側に収納されていて、シートバックボードとシート表皮のすき間から膨らむため、正常に機能しなくなるおそれがあります。

- フロントシートの背もたれを倒した状態でとびはねるなど、サイドエアバッグ収納部に無理な力を加えないでください。

⚠注意

- グラブレールに物をかけないでください。
  コートフックには、ハンガーや重い物、とがった物をかけないでください。
  フロントガラス、ドアガラスに物やアクセサリーなどを取り付けないでください。フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けないでください。
  サイドカーテンエアバッグが正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物が飛ぶことがあります。
- フロント、センター、リヤの各ピラーやルーフなど、サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えたりしないでください。
- エアバッグが収納されているルーフサイド、フロント、センター、リヤの各ピラーやルーフに傷がついていたり、ひび割れがある時は、そのまま使用せずにHonda販売店で交換してください。
- 座席に荷物を載せるときは、ドアガラス下端部の高さを越えないようにしてください。サイドカーテンエアバッグが正常に機能しなくなったり、作動時に荷物が飛ぶことがあります。

知　識

- フロントシートまわり、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりやセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品を取り付ける場合は、サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずHonda販売店にご相談ください。
- サイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステム装備車を廃棄するときは必ずHonda販売店にご相談ください。正しく取り扱わないとサイドエアバッグシステムおよびサイドカーテンエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。

●SRSエアバッグシステム警告灯（エアバッグシステムとシートベルトシステム警告灯兼用）

メーター内に組み込まれており、サイドエアバッグユニットまたはサイドカーテンエアバッグユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。

エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、サイドエアバッグシステム、サイドカーテンエアバッグシステムまたは、乗員姿勢検知システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき。
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき。

  必要なときにサイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグが膨らまないおそれがあります。

シートベルトプリテンショナー

シートベルトプリテンショナーのしくみ

●シートベルト プリテンショナーとは

前方向からの衝突により、前席シートベルトを瞬間的に引き込み、シートベルトの拘束効果をいっそう高める装置です。

●どのように作動するか

エンジンスイッチが“II”のとき、前方向からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃を感知するとシステムが作動し、前席シートベルトを瞬間的に引き込み、シートベルトの拘束効果をいっそう高めます。

⚠注意

- シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。守らないとプリテンショナーが十分に効果を発揮しません。
  - ・シートベルトを正しく着用してください。
    シートベルト →84ページ
  - ・正しい運転(乗車)姿勢をとってください。
    正しい運転姿勢 →72ページ

知 識

- シートベルトプリテンショナーは、シートベルトを着用していないと作動しません。
- シートベルトプリテンショナーは一度作動すると、再使用できません。作動すると、シートベルトを引き出すことも巻き取ることもできなくなります。Honda販売店で交換してください。

取り扱いについて

⚠注意

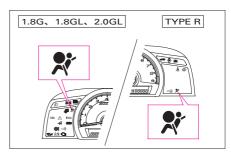
● シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしないでください。
不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。

知　識

● シートベルト引き込み装置やセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品の取り付けおよび修理をする場合は、プリテンショナーに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずHonda販売店にご相談ください。

● シートベルトプリテンショナー装備車を廃棄するときは、必ずHonda販売店にご相談ください。
正しく取り扱わないとプリテンショナーとSRSエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。

●SRSエアバッグシステム警告灯（エアバッグシステム警告灯とシートベルトシステム警告灯兼用）

メーター内に組み込まれており、SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。

エンジンスイッチを“II”にしたときに約６秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

● 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
・運転中に点灯したとき。
・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約６秒経過しても消灯しないとき。
必要なときにシートベルトが引き込まれないおそれがあります。

E-プリテンショナー

IHCC装備車

E-プリテンショナーのしくみ

●E-プリテンショナーとは

衝突するおそれがあるときなどに、運転席と助手席のシートベルトを衝突前に巻き取ることで、シートベルトの拘束効果を高める装置です。

●どのように作動するか

前方の車両に追突するおそれがあるときに、追突軽減ブレーキ(CMBS)と連動して作動し、シートベルトを巻き取ります。また、ブレーキアシストとも連動して作動します。
作動後は、巻き取ったシートベルトをもとの状態に戻します。

追突軽減ブレーキ(CMBS)　→216ページ
ブレーキアシスト　→225ページ

⚠注意

●シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。守らないとE-プリテンショナーが十分に効果を発揮しません。
・シートベルトを正しく着用してください。
シートベルト　→84ページ
・正しい運転姿勢をとってください。
正しい運転姿勢　→72ページ

知　識

●E-プリテンショナーは、シートベルトを着用していないと作動しません。
●衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動した場合は、シートベルトを引き出せなくなります。Honda販売店で交換してください。
●E-プリテンショナーのみが作動したときは、交換する必要はありません。
●VSA警告灯が点灯しているときは、E-プリテンショナーは作動しません。

取り扱いについて

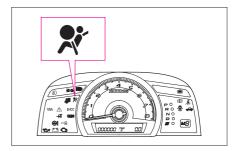
⚠注意

- シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしないでください。
  不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。

知　識

- シートベルト引き込み装置付近の修理をする場合は、E-プリテンショナーに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずHonda販売店にご相談ください。

●SRSエアバッグシステム警告灯（エアバッグシステム警告灯とシートベルトシステム警告灯兼用）

メーター内に組み込まれており、E-プリテンショナーユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。

エンジンスイッチを"II"にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき。
  - ・エンジンスイッチを"II"にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき。

  必要なときにE-プリテンショナーが作動しないおそれがあります。

アンチロックブレーキシステム（ABS）

ABSのしくみ

●ABSとは

急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとする装置です。

●作動について

・ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これはABSが作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

・低速（車速約10km/h以下）ではABSは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。

知　識

●エンジン始動後、最初の発進時に、エンジンルームからモーター音等が聞こえることがありますが、これはシステムの動作チェックをしている音で異常ではありません。

運転のしかた

・この装置は制動距離を短くするためのものではありません。ABSを装備していない車両と同様に、路面が滑りやすくなるほど長い制動距離が必要になります。
また、ABSが作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、ハイドロプレーニング現象が起こりやすい雨天時の高速走行などにおいても過信せず、安全運転に心がけてください。

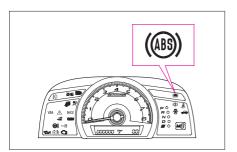
・悪路、砂利道、深い新雪などの路面では、ABSの装備されていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。
このような道路条件では速度は控えめにして車間距離を十分にとって運転してください。

取り扱いについて

知　識

- タイヤは必ず四輪とも同一指定サイズのものをお使いください。サイズ(外径)の異なるタイヤを混用すると、ABSが正常に機能しなくなることがあります。

●アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯

メーター内に組み込まれており、ABSが異常のときに点灯します。

エンジンスイッチを“II”にしたとき点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。
また、運転中に数秒間点灯してもすぐ消灯し、その後走行中に点灯しなければ正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき。
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき。

  なお、この場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。（ABSとしての作動はしません）
- 警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したときは、ブレーキ力の配分機能も作動しないため、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けて、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

ビークルスタビリティアシスト（VSA）（車両挙動安定化制御システム）

タイプ別装備

VSAのしくみ

●VSAとは

ABS機能、TCS機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

ABS（アンチロックブレーキシステム）機能

急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとする機能です。

TCS（トラクションコントロールシステム）機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力・操舵能力を確保しようとする機能です。

横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

●作動について

TCS機能と横滑り抑制機能は、エンジンを始動すれば自動的に“ON”になります。

TCS機能または横滑り抑制機能が作動中は、メーター内のVSA作動表示灯が点滅します。

VSA作動表示灯は、エンジンスイッチを“II”にしたときに点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。

アドバイス

- 表示灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
  - ・運転中にVSA警告灯と同時に点灯したとき。
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき。

  なお、この場合でも通常走行には支障はありません。

知　識

- 発進時等にエンジンルームからモーター音等が聞こえることがありますが、これはシステムの動作チェックをしている音で異常ではありません。
- VSA警告灯が点灯するとVSA作動表示灯も同時に点灯します。

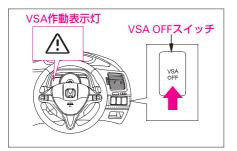
運転のしかた

VSAが作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

- ・カーブの手前では十分に速度を落としてください。
- ・雪道、凍結路を走るときは、冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着し、ひかえめな速度で運転してください。

VSAを作動させたくないとき

新雪やぬかるみから脱出したいときにVSA OFFスイッチでVSAを“OFF”にすると、エンジントルク抑制機能が停止し、駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。
この際、TCS機能と横滑り抑制機能が“OFF”になるため、走行には十分気をつけてください。

VSAが“OFF”のときは、メーター内のVSA作動表示灯が点灯します。

スイッチを押すごとに“OFF”と“ON”をくり返します。

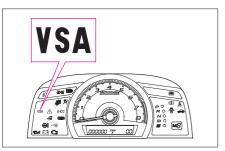
知 識

- TCS機能または横滑り抑制機能が作動中には、スイッチを押しても“OFF”にすることはできません。

アドバイス

- 四輪とも、同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤを指定空気圧にてお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用したり、指定空気圧でない場合、VSAが正常に機能しなくなることがあります。また、応急用スペアタイヤを装着した場合も、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

●ビークルスタビリティアシスト（VSA）警告灯

メーター内に組み込まれており、VSAが異常のときに点灯します。

エンジンスイッチを“II”にしたとき点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。
また、運転中に数秒間点灯してもすぐ消灯し、その後走行中に点灯しなければ正常です。

アドバイス

●警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。

・運転中に点灯したとき。
・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき。

なお、この場合でも通常走行には支障はありません。

知　識

●けん引されたときやけん引したときは、警告灯が点灯することがあります。この場合はエンジンを再始動させて警告灯が消灯すればVSAは正常です。

●ABS警告灯が点灯するとVSA警告灯も同時に点灯します。

●VSA装備車は、ブレーキアシストの装置に異常があると、VSA警告灯が点灯します。

ブレーキアシスト　→225ページ

追突軽減ブレーキ（CMBS）

IHCC装備車

CMBSのしくみ

●CMBSとは

自車が前方の車両にほぼ真後ろから追突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、追突するときの衝撃を軽減する装置です。

CMBSは、追突を自動で回避したり、自動で車を停止させるシステムではありません。

CMBSの機能には限界がありますので、運転するときはシステムを過信せず、常に前方および周囲の状況に気をつけて、安全運転を心がけてください。

⚠警告

- CMBS装備車であっても、正しく運転しないと追突など思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
  運転するときは、前方および周囲の状況に応じて、常に適切なブレーキ操作およびハンドル操作をしてください。
- 悪天候（雨、霧、雪など）のときは、前方の車両を正しく検知することができず、CMBSが作動しないことがあります。

CMBSは、フロントグリルのエンブレムの奥に取り付けられているレーダーセンサーから発信した電波で前方にある車両を検知します。

レーダーセンサーについて　→222ページ

●作動について

エンジンスイッチを“II”にすると、CMBSは“ON”になり、追突警報の設定（“CMBS FAR”または“CMBS NEAR”）がメーター内のディスプレイに約5秒間表示されます。

追突警報の設定について　→220ページ

CMBSを停止するとき

CMBSの作動を“OFF”にすることができます。

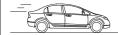
CMBSの停止について　→221ページ

知　識

- CMBSを“OFF”にしていたときは、エンジンスイッチを“II”にしてもCMBSは“OFF”のままです。このときはメーター内のディスプレイに“CMBS　OFF”が表示され、CMBS警告灯も点灯します。
  再度CMBSを“ON”にするときは、OFFスイッチを約1秒以上押します。
- エンジン始動時、またはエンジンスイッチを“II”にするときは、車を静止した状態で行ってください。また、駐車場のターンテーブルなどで車の向きを変える場合は、エンジンスイッチを“0”にしてください。
  車両が動いているときにエンジンスイッチを“II”にすると、ヨーレートセンサーが正しく作動しなくなり、走行中に前方の車両を正しく検知できないことがあります。

約15km/h以上の速度で走行しているときに、自車の前方に追突する危険がある車両を検知すると作動し、追突警報（警告ブザーと警告表示）と弱いブレーキで運転者に注意をうながします。続いて追突するときの衝撃を軽減するためのブレーキが作動します。

追突警報について　→220ページ

約15km/h以上の速度で、ほぼ真後ろから追突する危険があるとき

知　識

- 前方の車両と自車との速度差が、約15km/h以下の場合は、CMBSによるブレーキは作動しません。
- 運転者が追突を回避するために、ブレーキ操作やハンドル操作を行うと、運転者の操作を優先してCMBSは作動しないことがあります。
- CMBSによるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

CMBSによるブレーキが作動するときは、Ｅ-プリテンショナーも作動して、運転席と助手席のシートベルトを巻き取り、拘束効果を高めます。

Ｅ-プリテンショナー　→208ページ

知　識

- CMBSによる弱いブレーキが作動するときは、運転者に前方の車両への注意をうながすため、運転席のＥ-プリテンショナーも作動してシートベルトを２～３回軽く引き込みます。
ただし、状況によっては、シートベルトの軽い引き込みをしない場合があります。

●作動しないとき

前方にある車両の検知には限界があるため、次のような場合には、CMBSは作動しません。

・前方にある車両との車間距離がいちじるしく短いとき。
・交差点などで、自車の前方に車が飛び出したとき。

知　識

●次のような場合には、前方にある車両を正しく検知することができず、CMBSが作動しない場合があります。
　・自車の前方に車両が割り込み、急な減速を行ったとき。
　・急加速を行って前方の車両に接近しているとき。
　・悪天候のとき(雨、霧、雪のときなど)。
　・フロントグリルのエンブレムが汚れているとき。
　　エンブレムが汚れたとき →222ページ

●前方の車両との部分的な衝突や接触のおそれがあっても、CMBSが作動しない場合があります。

●道路状況(カーブなど)、自車の状況(ハンドルの操作や車線内の位置)および前方の車両の状況(車の向き)によっては、前方の車両を正しく検知できず、CMBSが作動しない場合があります。

知　識

●自転車や2輪車に対しては、CMBSが作動しない場合があります。

●歩行者や動物に対しては、CMBSは作動しません。

●追突以外での作動について

次のような場合には、CMBSが作動することがあります。車間距離を確保し、適切な速度で走行してください。

・追い越しや交差点などで、前方の車両や対向車に接近して走行するとき。
・低いゲートや狭いゲートなどを規制速度を超えるような速度で通過しようとするとき。

知　識

●道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドルの操作や車線内の位置)によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物(電柱や標識など)を検知して、CMBSが作動する場合があります。

●道路の段差や落下物に対して、CMBSが作動する場合があります。

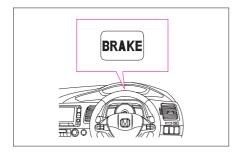
追突警報について

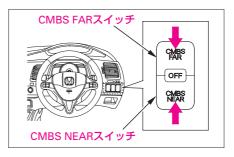
前方の車両に追突するおそれがある場合に、警告ブザーと警告表示で前方への注意を運転者にうながします。
この場合は、ブレーキペダルを踏むなど、適切な操作を行ってください。

警告ブザー

ブザー(ピッピッピッ…)が鳴ります。

警告表示

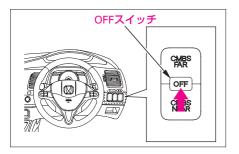
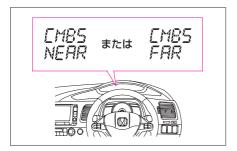
メーター内のディスプレイに“BRAKE”がオレンジ色で点滅します。

追突警報の設定について

追突するおそれがある車両に対して、追突警報が作動する距離を2段階に調節することができます。CMBS FARスイッチを押すと距離が遠くなり、CMBS NEARスイッチを押すと距離が近くなります。

スイッチを押すと、メーター内のディスプレイに設定(“CMBS FAR”または“CMBS NEAR”)が表示されます。

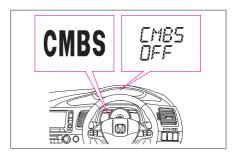
知識

- 設定を“CMBS NEAR”にすると追突警報の開始が遅くなり、“CMBS FAR”にすると追突警報の開始が早くなります。道路状況に合わせてお使いください。
なお、ブレーキの作動開始は変わりません。

CMBSの停止について

CMBSを使用しないときは、OFFスイッチを約１秒以上押します。CMBSを“OFF”にするとCMBS警告灯が点灯し、メーター内のディスプレイに“CMBS OFF”が表示されます。このときブザー(ピー)も同時に鳴ります。

CMBSを使用するときは、再度OFFスイッチを約１秒以上押します。CMBSを“ON”にするとCMBS警告灯が消灯し、メーター内のディスプレイに“CMBS FAR”または“CMBS NEAR”が表示されます。このときブザー(ピー)も同時に鳴ります。

CMBSの自動停止について

次の場合には、CMBSが自動で停止され、メーター内のCMBS警告灯が点灯します。また、メーター内のディスプレイに“CMBS OFF”が表示されます。

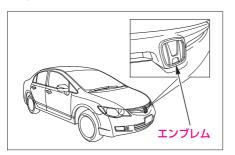
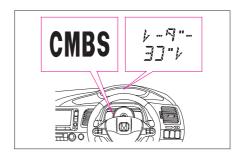
- タイヤの異常を検出したとき。
- 山岳路や悪路などを長時間走行したとき
- パーキングブレーキをかけたまま走行したとき。

CMBSが作動できる状態になると、CMBSは自動で復帰します。

知　識

- 次のような場合にも、CMBSは自動で停止され、メーター内のCMBS警告灯が点灯します。また、メーター内のディスプレイに“レーダーヨゴレ”が表示されます。
  - 悪天候のとき(雨、霧、雪のときなど)。
  - フロントグリルのエンブレムに汚れが付いたとき。

エンブレムが汚れたとき
→222ページ

取り扱いについて

CMBSのレーダーセンサーは、フロントグリルのエンブレムの奥に取り付けられています。
エンブレムが汚れて、前方の車両を検知できなくなると、CMBSが自動で停止し、メーター内のCMBS警告灯が点灯します。また、メーター内のディスプレイに“レーダーヨゴレ”が約5秒間表示されます。
この場合は、エンブレムの汚れをやわらかい布などできれいに拭き取り、エンジンを再始動してください。

知識

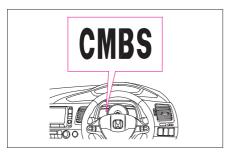
- 交通量が少なく、レーダーセンサーから発信した電波を反射する物が少ない道路を走行すると、メーター内のディスプレイに“レーダーヨゴレ”が一時的に表示されることがあります。
- エンブレムの汚れを拭き取った後に、エンジンを再始動しなかったときでもシステムは復帰しますが、状況により復帰に時間がかかることがあります。

知 識

- システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。
  - ・エンブレムは常にきれいな状態にしてください。
  - ・エンブレムの汚れがひどいときは、水や中性洗剤などで汚れを拭き取ってください。エンブレムを損傷する原因となりますので、ベンジン、シンナー類およびクレンザーなどの磨き粉類は使わないでください。
  - ・エンブレムにステッカーなどを貼ったり、エンブレムを交換しないでください。レーダーの電波がさえぎられます。
  - ・レーダーセンサー本体の横にある調整ボルトは回さないでください。
  - ・レーダーセンサー本体やその周辺部に強い衝撃や力を加えないでください。
    万一、衝撃が加わった場合は、OFFスイッチを約1秒以上押してCMBSを“OFF”にし、Honda販売店にご相談ください。
  - ・フロントグリル周辺の修理を行う際は、Honda販売店にご相談ください。

- CMBSのレーダーセンサーはIHCCのレーダーセンサーと共用しています。
- 次のようなときは、システムが正常に作動しないおそれがあります。
  - ・トランクやリヤシートなどに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
  - ・タイヤの空気圧が指定空気圧に調整されていないとき
- サスペンションの改造はしないでください。車の傾きなどでシステムが正常に作動しないおそれがあります。
- 四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●追突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯

メーター内に組み込まれており、CMBSが異常のときに点灯します。

エンジンスイッチを“II”にしたときに数秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにHonda販売店で点検を受けてください。
- ・運転中に点灯したとき。
- ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき。

警告灯が点灯しているときは、CMBSは作動しません。

知　識

●次の場合にもCMBS警告灯が点灯します。
- ・CMBSを“OFF”にしているとき。
- ・CMBSが自動で停止したとき。
- ・悪天候のとき(雨、霧、雪のときなど)。
- ・フロントグリルのエンブレムに汚れが付いたとき。

エンブレムが汚れたとき
→222ページ

●VSA警告灯が点灯するとCMBS警告灯も同時に点灯します。

ブレーキアシスト

タイプ別装備

ブレーキアシストのしくみ

●ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きい制動力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

●作動について

・ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。
・VSA装備車は、ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり作動音が聞こえることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

VSAについて　→212ページ

・E-プリテンショナー装備車は、ブレーキアシストの作動と同時に運転席と助手席のシートベルトが引き込まれます。

E-プリテンショナー　→208ページ

取り扱いについて

知　識

●VSA装備車は、VSA警告灯が点灯しているときは、ブレーキアシストは作動しません。なお、この場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。

その他の安全装備

ほかに、次のような安全装備を採用しています。

●シフトロック装置

セレクトレバーの誤操作防止を助けます。

（→29ページ）

●ハイマウントストップランプ

ストップランプを高い位置にも設置し、後方から見えやすくしています。

●後席三点式シートベルト

上半身も拘束する三点式シートベルトを後席にも採用しています。

（→86ページ）

●シートベルトリマインダー（非着用警報装置）

シートベルトの未着用をランプとブザーで知らせ、ベルトの着用を促します。

（→87ページ）

●ドアビーム

側面から外力が加わったときに、ドアの変形を抑える効果があります。

●ロールオーバーバルブ

車が転倒したとき、燃料タンクからの燃料流出を防止します。

●難燃性材料使用の内装

フロアカーペットやシートなどには、燃え広がりにくい素材を採用しています。

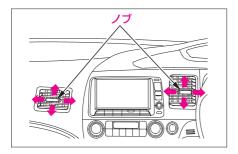
ドライブを快適にする装備

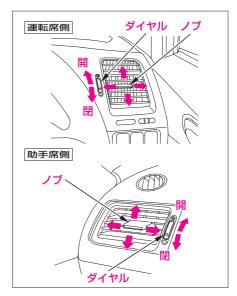
エアコン

※：TYPE Rを除く

吹き出し風の調節

ノブを上下または左右に動かして、吹き出し風の向きを調節します。

・中央吹き出し口

・側面吹き出し口

送風が必要なときは、ダイヤルを“開”のほうに回します。

◎ ‥‥‥‥‥吹き出し口が開きます。
○ ‥‥‥‥‥吹き出し口が閉じます。

知　識

- 側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風がガラスに直接当たるよう両側の吹き出し口の向きを調節すれば、より早く曇りを取ることができます。

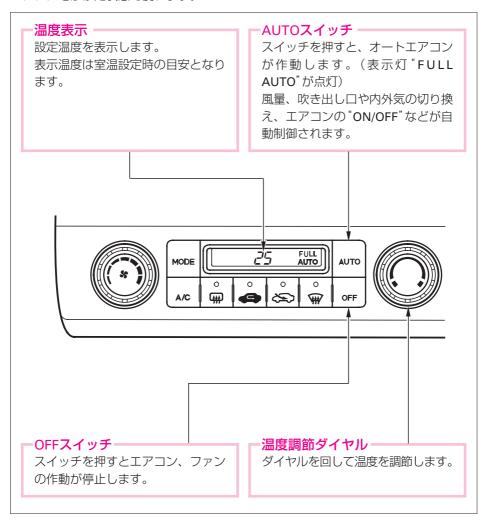
エアコンインデックス

オートエアコン　**タイプ別装備** 	
ヒーター　**タイプ別装備** 	

オートエアコン

タイプ別装備

●オートエアコンを使うとき

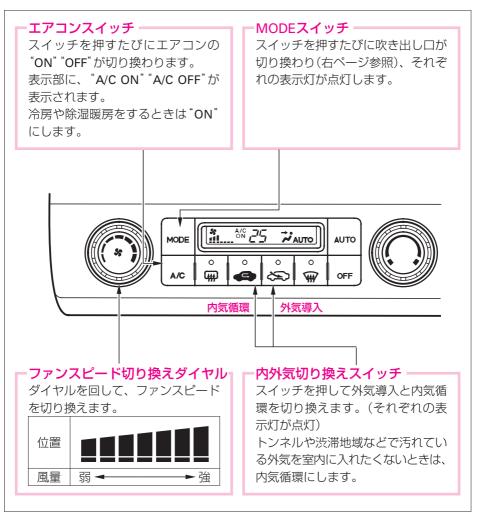
エンジンをかけた状態で使います。

通常の使いかた

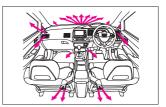
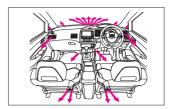
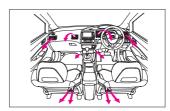
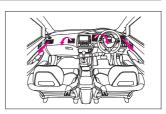
①AUTOスイッチを押します。
②温度調節ダイヤルで室内の温度を設定します。

停止するときはOFFスイッチを押します。

知　識

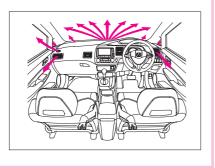
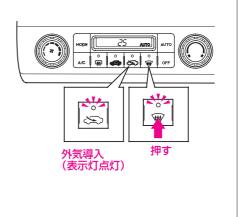
- 設定温度表示で“Lo”は最大冷房を“Hi”は最大暖房を示します。
- 外気温によっては、冷風の吹き出しを防ぐため、オートエアコン作動後一定時間ファンが回転しないことがあります。
- 希望温度に設定したら、温度調節ダイヤルをむやみに動かさないでください。設定温度への到達時間が長くなることがあります。
- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。
- 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

●マニュアルで使うとき

各スイッチ、ダイヤルを組み合わせて使うことができます。
“FULL AUTO”(自動)で使用中でも押したスイッチの機能が優先されます。このとき“FULL”の表示は消えますが、押したスイッチの機能以外は自動制御されます。
“FULL AUTO”(自動)に戻すときは、AUTOスイッチを押します。

MODEスイッチ

足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき		
足元に送風したいとき		
上半身、足元に送風したいとき		
上半身に送風したいとき		

●前面／側面ガラスの霜や曇りを取りたいとき（デフロスター）

デフロスタースイッチを押します。

デフロスタースイッチ

ガラスの曇り取りなどに使用します。スイッチを押すと自動的にエアコンが作動し、外気導入に切り換わります。また、吹き出し口が前面および側面ガラスに切り換わります。

知 識

- デフロスタースイッチを入れているときは、設定温度を最大冷房付近にしないでください。冷風が前面ガラスにあたるとガラスの外側が曇ることがあり、視界の妨げになります。

急速に霜を取りたいとき

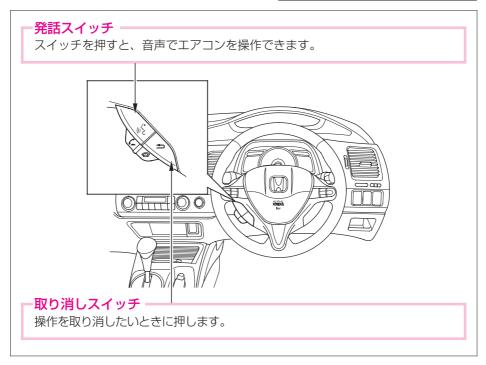
知 識

- 内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。一度霜を取った後は外気導入で使ってください。

●音声でエアコンを調節するとき

Hondaインターナビシステム装備車

発話スイッチ
スイッチを押すと、音声でエアコンを操作できます。

取り消しスイッチ
操作を取り消したいときに押します。

使いかた

①発話スイッチを押します。
②“ピッ”と音が鳴ってから、目的の操作を言います。
　例)エアコンを作動させるとき…「エアコンオン」と言います。

Hondaインターナビシステムが音声を認識すると、「エアコンをオンします…」と言ってエアコンを作動します。
音声を認識できずに操作ができなかったときは、もう一度発話スイッチを押して操作します。

音声を誤認識して別の操作をしてしまったとき

取り消しスイッチを押してから、もう一度発話スイッチを押して、目的の操作を言い直します。

音声操作の一例

発した言葉	応答
えあこんおん（エアコンオン）	エアコンをオンします
えあこんおふ（エアコンオフ）	エアコンをオフします
あつい	設定温度を１下げます
さむい	設定温度を１上げます
ないき（内気）	“内気循環”にします
がいき（外気）	“外気導入”にします
にじゅうごど	設定温度を“25”にします （操作を受け付ける温度は18°C～32°Cの間です。）

音声操作の詳細については、別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書 音声操作編をご覧ください。

●エアコンを常用しないとき

装置各部のオイルをきらさないために、ときどきエンジンを低回転させた状態で数分間冷房または除湿暖房をしてください。

知　識

- 室内の温度が低い場合は、エアコンが作動しないことがあります。このような場合には、内気循環で室内を暖めてからエアコンスイッチを入れると作動します。

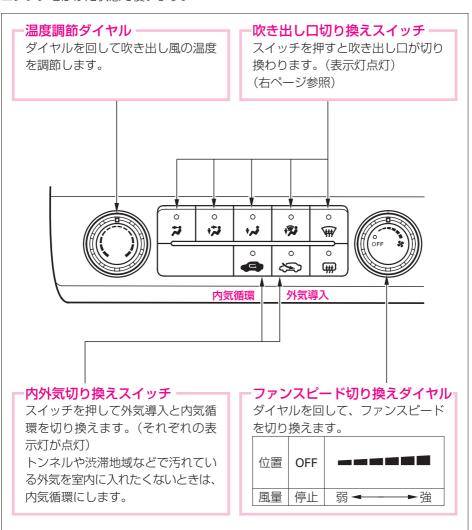
●温度感知装置

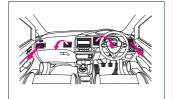
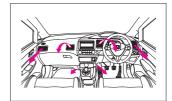
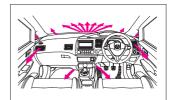
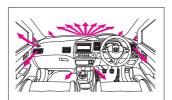
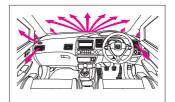
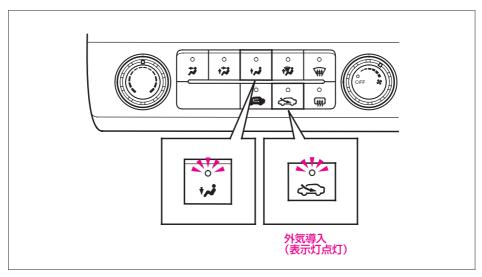
オートエアコンには、温度感知装置などのセンサーがついています。日射感知部や車内温度感知部の上に物を置いたり、水をかけたりしないでください。車内温度が設定温度とずれることがあります。

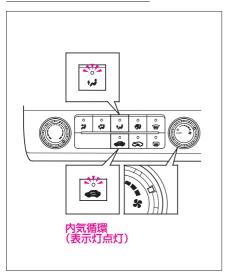
ヒーター

タイプ別装備

エンジンをかけた状態で使います。

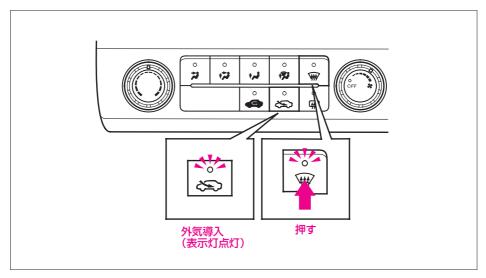
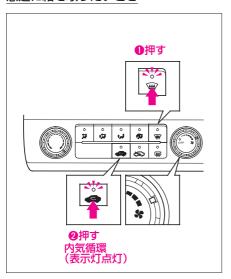
位置	OFF	▬▬▬▬▬▬
風量	停止	弱 ◀──▶ 強

吹き出し口切り換えスイッチ

上半身に送風したいとき

上半身、足元に送風したいとき

足元に送風したいとき

足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき

窓ガラスの曇りを取りたいとき

●暖房するとき

急速に車内を暖めたいとき

知 識

- 内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。一度暖めた後は外気導入で使ってください。

●前面／側面ガラスの霜や曇りを取りたいとき（デフロスター）

急速に霜を取りたいとき

知　識

●内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。一度霜を取った後は外気導入で使ってください。

エアクリーンフィルター

エアコンには、空気中の花粉・ちり・ほこり・粉じん等を集じんし、ディーゼル排ガス臭・タバコ臭などに脱臭効果のあるエアクリーンフィルターが取り付けられています。
エアクリーンフィルターの交換は、通常１年または15,000kmごとに行ってください。
ただし、使用条件により異なりますので粉じんの多い場所などでは、早めの交換をおすすめします。
また、芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなったり、脱臭寿命が短くなることがあります。

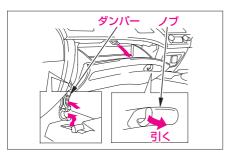
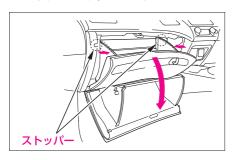
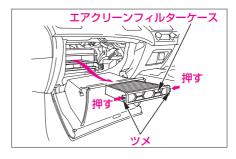
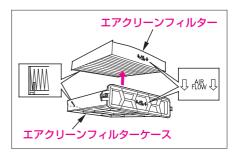
・エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときなどは、フィルターの目詰まりが考えられます。

交換のしかた　→245ページ

知　識

● グローブボックスの内側に交換時期が記載してあります。

●交換のしかた

①ノブを引いてグローブボックスを開け、ダンパーを外します。

②グローブボックスの両側についているストッパーを内側に押し込んでグローブボックスを下ろします。

③左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースを引き出します。

④エアクリーンフィルターケースからエアクリーンフィルターを外して新品と交換します。交換するときはケースとフィルターの“AIR FLOW”マークの矢印が同じ方向(下向き)になるように取り付けてください。

知識

●エアクリーンフィルターを交換するときは、取り付け方向に注意してください。フィルターの取り付け方向を間違えると、フィルターの効果を十分に発揮しません。

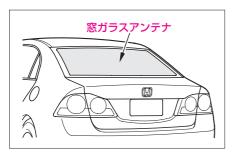
オーディオ

オーディオ・テレビ・DVDの取り扱いについては、別冊のHondaインターナビシステム取扱説明書をご覧ください。

知 識

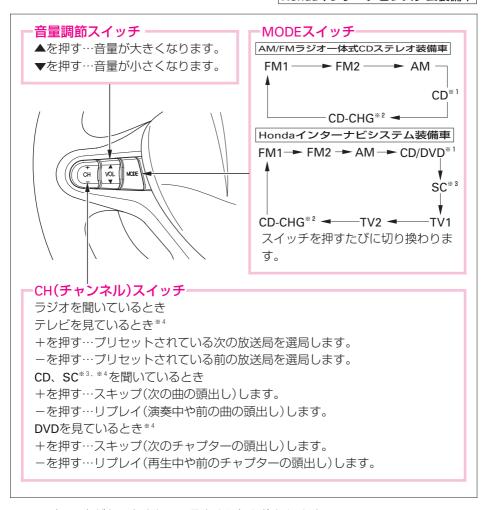
- 運転中の音量は車外の音が聞こえる程度の音量でお使いください。車外の音が聞こえない状態では安全運転の妨げとなります。
また、運転中のオーディオ操作は、安全運転に支障がないようにしてください。
- 車内や車の近くで携帯電話や無線機を使うとオーディオに雑音が入ることがあります。

アンテナ

リヤガラス内側にアンテナ線があります。

知　識

- アンテナ線は傷つきやすいので、清掃のときはアンテナ線に沿って柔らかい布でふいてください。また、手荷物などで傷つけないようにしてください。

オーディオリモートコントロールスイッチ

Hondaインターナビシステム装備車

※1：ディスクがセットされているときに切り換わります。
※2：Honda純正のCDチェンジャーを接続しているときに切り換わります。
※3：SC(サウンドコンテナ)　※4：Hondaインターナビシステム装備車

リヤカメラシステム

Hondaインターナビシステム装備車

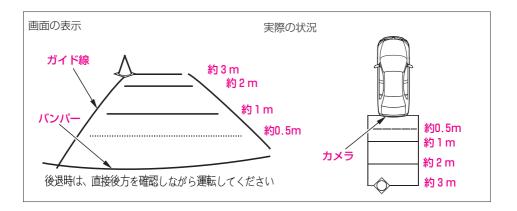
リヤカメラシステムについて

リヤカメラシステムは、エンジンスイッチが“II”のとき、セレクトレバーを[R]の位置に、またはチェンジレバーをRに入れるとナビゲーションシステムの液晶画面に車両後方の映像を表示させるシステムです。リヤカメラシステムは、後退時に車両後方の障害物などを確認するための補助装置です。

⚠注意

- 後退時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。また画面を見るときは、必要最小限にしてください。
  画面に表示される映像の範囲には限度があるため、画面だけを見て後退すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

画面に表示される映像の範囲

知識

- リヤカメラシステムの映像は、ナビゲーション画面よりも優先して表示されます。
- エンジン始動直後は、セレクトレバーをⓇの位置に、またはチェンジレバーをＲに入れてもナビゲーションシステムが起動するまでリヤカメラシステムのガイド線は表示されません。
- リヤカメラシステムのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に表示される映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- 画面に表示される映像の範囲には限度があり、バンパーの両コーナー付近やバンパーの下にある物は表示されません。
- カメラのレンズが汚れていると、鮮明な映像が表示されません。
  レンズが汚れたときは、水や中性洗剤、ガラスクリーナーなどで汚れを拭き取ってください。（ベンジンやシンナー、クレンザーなどの磨き粉類は絶対に使わないでください。レンズが破損する原因となります。）
- 次の場合、映像が見えにくくなることがありますが、異常ではありません。
  - 夜間または暗い所。
  - カメラのレンズに直接光が入ったとき。（カメラに強い光が入ると、光源を中心に縦に白い光の線が出ます）
  - カメラの温度が高いとき。
  - カメラのレンズに水滴が付いたとき。

ガイド線の消しかた

画面に表示しているガイド線を消すことができます。

①パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

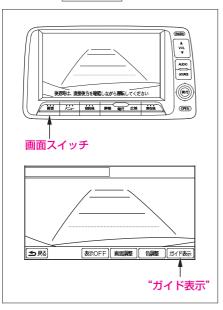
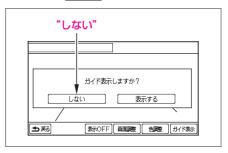
② **オートマチック車**

エンジンスイッチを“II”にして、セレクトレバーを[R]にします。

マニュアル車

エンジンスイッチを“II”にして、チェンジレバーをRに入れます。

③画面スイッチを押します。

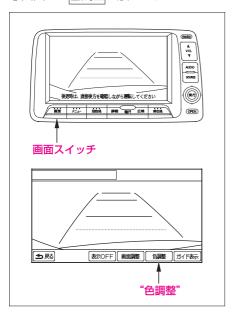
④画面上の[ガイド表示]に触れます。

⑤画面上の[しない]に触れます。

もう一度ガイド線を表示するときは、①～④の操作を繰り返し、画面上の[表示する]に触れます。

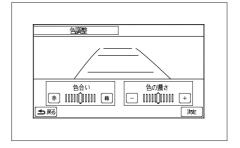
知 識

●安全のためにエンジンを停止した状態で操作を行ってください。

色調整のしかた

画面の色合いと色の濃さを調整することができます。

①パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
② **オートマチック車**
エンジンスイッチを“II”にして、セレクトレバーをⓇにします。
マニュアル車
エンジンスイッチを“II”にして、チェンジレバーをRに入れます。
③画面スイッチを押します。
④画面上の色調整に触れます。

⑤色合いを調整するときは、画面上の赤、緑に触れて調整し、色の濃さを調整するときは、－、＋に触れて調整します。決定に触れると、元の画面に戻ります。

知　識

●安全のためにエンジンを停止した状態で操作を行ってください。

画面調整のしかた

画面の明るさやコントラスト、黒の濃さを調整することができます。

①パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

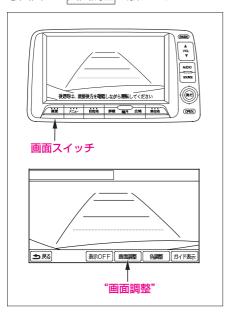
② **オートマチック車**

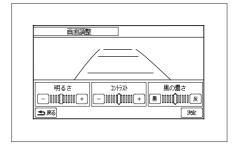
エンジンスイッチを“II”にして、セレクトレバーをⓇにします。

マニュアル車

エンジンスイッチを“II”にして、チェンジレバーをRに入れます。

③画面スイッチを押します。

④画面上の画面調整に触れます。

⑤明るさとコントラストを調整するときは、画面上のそれぞれの－、＋に触れて調整し、黒の濃さを調整するときは黒、灰に触れて調整します。決定に触れると、元の画面に戻ります。

知　識

●安全のためにエンジンを停止した状態で操作を行ってください。

画面の消しかた

画面の表示をすべて消すことができます。

①パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

② **オートマチック車**

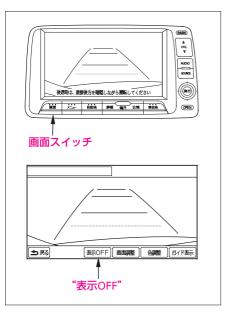
エンジンスイッチを"II"にして、セレクトレバーを🄁にします。

マニュアル車

エンジンスイッチを"II"にして、チェンジレバーをＲに入れます。

③画面スイッチを押します。

④画面上の表示OFFに触れると画面表示が消えます。

知 識

- 安全のためにエンジンを停止した状態で操作を行ってください。
- オートマチック車はセレクトレバーを🄁、マニュアル車はチェンジレバーをＲ以外の位置にすると、リヤカメラシステムの表示OFFは解除されます。
  表示OFFにすると、ナビゲーションシステムの画面も"OFF"になります。画面を再び表示させるときは、現在地スイッチなどを押します。

室内装備品

室内灯

●室内灯スイッチ

室内灯スイッチが“ON”の位置
ドアの開閉に関係なく点灯します。

室内灯スイッチが“中間”の位置
ドアを開けると点灯し、閉めると約30秒後に減光しながら消灯します。

次の場合にも点灯し、その後消灯します。
・運転席ドアを解錠したとき
（ウェルカムライト機能）
・エンジンスイッチからキーを抜いたとき
Hondaスマートキーシステム装備車は、エンジンスイッチを“0”（プッシュオフ）にしたとき。

室内灯スイッチが“OFF”の位置
ドアの開閉に関係なく消灯します。

知　識

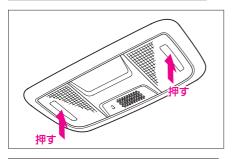
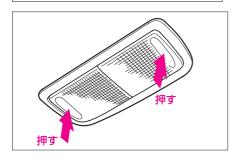
●次の操作を行ったときは、室内灯はすぐに消灯します。
・運転席ドアを施錠したとき。
・エンジンスイッチにキーが差し込まれた状態で運転席ドアを閉めたとき。
・エンジンスイッチを“II”にしたとき。

●エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、運転席ドアを解錠しても室内灯は点灯しません。

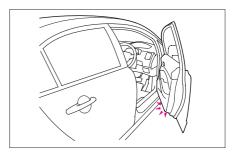
●“中間”の位置のときに、エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときは、バッテリー保護のため、ドアを開けたままにしていると約3分後に消灯します。

マップランプ

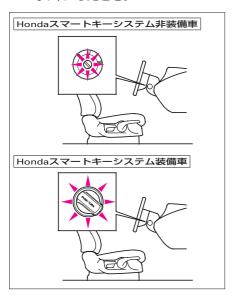
レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。
夜間、車を止めて地図などを見るときに便利です。

Hondaインターナビシステム装備車

Hondaインターナビシステム非装備車

ドア開閉灯(前席)

タイプ別装備

ドアを開けると点灯します。
閉めると消灯します。

エンジンスイッチ照明灯

ドアを開けると点灯し、閉めると約30秒後に消灯します。
また、次の場合にも点灯し、その後消灯します。

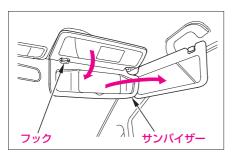
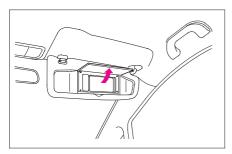
・運転席ドアを解錠したとき。
・エンジンスイッチからキーを抜いたとき。
Hondaスマートキーシステム装備車は、エンジンスイッチを“0”(プッシュオフ)にしたとき。

知識

●次の操作を行ったときは、エンジンスイッチ照明灯はすぐに消灯します。
・運転席ドアを施錠したとき。
・エンジンスイッチにキーが差し込まれた状態で運転席ドアを閉めたとき。
・エンジンスイッチを“II”にしたとき。

●エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、運転席ドアを解錠してもエンジンスイッチ照明灯は点灯しません。

●エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときは、バッテリー保護のためドアを開けたままにしていると、約3分後に消灯します。

サンバイザー

サンバイザーを横にするときは、フックから外して行います。

●バニティミラー(化粧鏡)
サンバイザーに鏡があります。
お化粧のときなどに便利です。

タイプ別装備
フタを開けると照明灯が点灯します。

知　識

●使わないときはフタを閉じておいてください。
バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

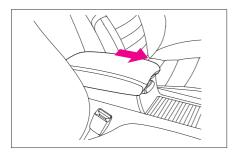
チケットホルダー

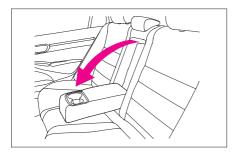
運転席側のサンバイザーにあります。

アームレスト

タイプ別装備

●前席用

コンソールボックス上部を前に動かして使うことができます。

●後席用

前に倒してアームレストとして使えます。

⚠注意

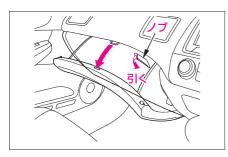
- シートベルト着用時にアームレストに引っかけると、万一のときシートベルトの機能が発揮できないことがあります。
  シートベルトは正しく着用してください。

アドバイス

- アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。アームレストが破損するおそれがあります。

小物入れ

●グローブボックス

ノブを引くと開きます。

タイプ別装備

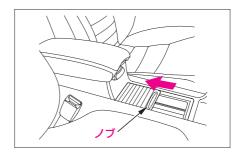
ライトスイッチが"OFF"以外のとき照明灯が点灯します。

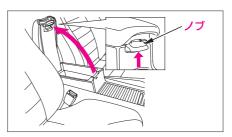
⚠警告

- 走行中は、グローブボックスのフタを必ず閉めてください。
グローブボックスのフタが開いていると、衝突したときなどにフタにぶつかったり、内部の物がとび出したりして思わぬ事故につながります。

●スライドシャッター付コンソールポケット

スライドシャッターのノブを前方にスライドさせると、小物入れとして使えます。

スライドシャッターのノブを後方にスライドさせると、小物入れとして使えます。

●コンソールボックス

アームレスト装備車は、ノブを引くと開きます。

カップホルダー

カップなどを置くときに使います。

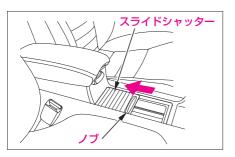
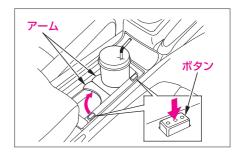
⚠注意

- オーディオやスイッチなどの電装品に飲み物などをこぼさないように注意してください。
  故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあります。
  万一、電装品に飲み物をこぼしたときは、Honda販売店にご相談ください。

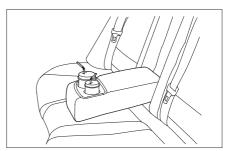
知　識

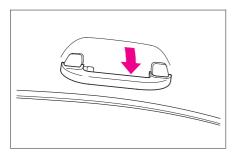
- ドアの開閉や走行中の振動、車の動きなどで飲み物がこぼれることがあります。
  熱い飲み物などはやけどのおそれがありますので注意してください。

●前席用

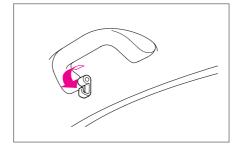
スライドシャッターのノブを後方にスライドさせます。

ボタンを押すと、カップホルダーアームが開きます。

小物入れとして使うときは、アームを手で戻します。

●後席用　タイプ別装備

アームレストを前に倒して使います。

グラブレール

回転させて使います。

コートフック

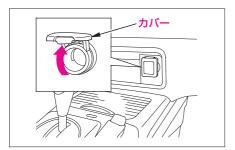
タイプ別装備

後席右側のグラブレールにあります。
回転させて使います。
使わないときは格納しておきます。

⚠注意

● **サイドカーテンエアバッグシステム装備車**

コートフックにハンガーや重い物、とがった物をかけないでください。サイドカーテンエアバッグが作動したときに、これらの物が飛んでけがをするおそれがあります。
服をかけるときは、ハンガーを使用せずにコートフックに直接服をかけてください。

アクセサリーソケット

エンジンスイッチが“Ｉ”または“II”のときだけ使えます。
カバーを開けて使用します。
Honda純正の電気製品の電源を取り出すのに使用します。
（消費電力120W［12ボルト、10アンペア］まで使用できます。）

知 識

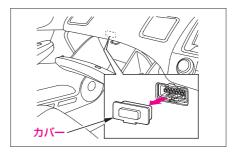
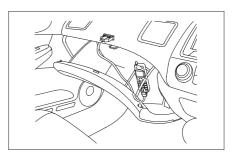
- Honda純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。バッテリーあがりやアクセサリーソケットの損傷の原因となります。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でご使用ください。
- シガレットライターは差し込まないでください。発熱するおそれがあります。
- アクセサリーソケットを使わないときは、異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

携帯電話接続端子

Hondaインターナビシステム装備車

別売りのケーブルを使って、携帯電話をグローブボックス内上側にある端子と接続して使います。

グローブボックス →261ページ

接続するときは、カバーを取り外します。

接続した携帯電話は、図のようにポケットの中に入れておくことができます。

詳細に関しては、別冊のHondaインターナビシステムの取扱説明書をご覧ください。

万一のとき

●工具・スペアタイヤ・タイヤパンク応急修理キット・発炎筒

●故障したとき

●けん引

●パンクしたとき

応急用スペアタイヤ装備車

応急用スペアタイヤ非装備車

●電気系統が異常のとき

＊全国のHonda販売店およびJAFの電話番号は別冊の「サービス網一覧」に記載してあります。

工具・スペアタイヤ・タイヤパンク応急修理キット・発炎筒

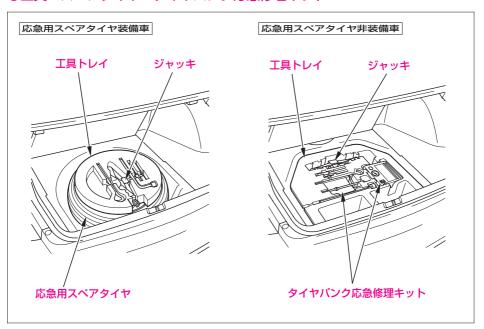
格納場所

●工具・スペアタイヤ・タイヤパンク応急修理キット

応急用スペアタイヤ装備車

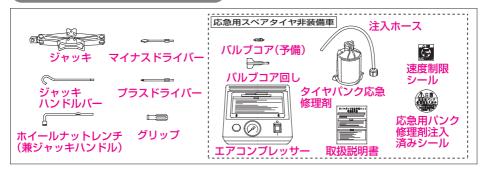
工具トレイ
ジャッキ
応急用スペアタイヤ

応急用スペアタイヤ非装備車

工具トレイ
ジャッキ
タイヤパンク応急修理キット

●発炎筒

発炎筒は助手席足元にあります。

工具の種類

知　識

- 工具の種類、ジャッキ、発炎筒の使いかたなどは万一のとき困らないようあらかじめ確かめておきましょう。
- スペアタイヤ、ジャッキは走行中動かないように、所定の位置にしっかり固定してください。
- 高速道路で故障などにより停止するときは、停止表示器材による表示義務がありますので、停止表示板などを常時携帯するようにしましょう。

発炎筒について

高速道路、踏切などの危険な場所で故障したときに使います。発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

・使いかた　　・使用上の注意
・発炎時間　　・有効期限

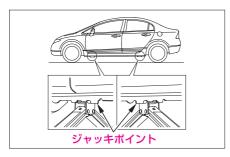
⚠警告

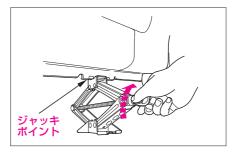
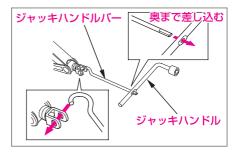
- ガソリンなどの燃えやすい物のそばでは使わないでください。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

- お子さまにいじらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 発炎筒を使うとき顔や身体に向けるとやけどなどをすることがあるのでおやめください。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。
トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

ジャッキの取り扱い

●ジャッキをかける位置

●ジャッキのかけかた

①地面が固い平らなところに車を停めます。
②パーキングブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に石などで輪止めをします。
③ジャッキを地面に置き、手で回してジャッキの溝がジャッキポイントに入るまで上げます。

④ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤと地面が少し離れるまで車体を上げます。

⚠警告

●車がジャッキだけで支えられているときは、不安定な状態にあるので車の下に入ったりしないでください。
万一、ジャッキが外れると、思わぬ事故につながります。

⚠注意

●ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守ってください。
・エンジンをかけたままにしない。
・地面が固い平らなところ以外では使用しない。
・指定された位置以外にかけない。
・人や荷物をのせたままにしない。
・ジャッキの上や下に物を入れたりしない。
・タイヤチェーン着脱以外には使用しない。

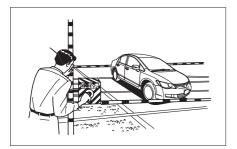
知　識

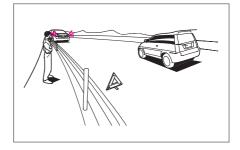
●この車に搭載されているジャッキをお使いください。他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

故障したとき

車を路肩に停め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板(または停止表示灯)、発炎筒を使い、後続する車に故障車とわかるようにします。

踏切で動けなくなったとき

脱輪などで踏切内で動けなくなったときは、踏切の非常ボタンを押してください。非常ボタンがわからず、緊急を要するときは、発炎筒で合図をしてください。

高速道路で故障したとき

車を路側帯に寄せ、非常点滅表示灯を点滅させ、車両後方に停止表示板(または停止表示灯)を置いて表示してください。法律で義務づけられています。

人は車からおりて、安全な場所に避難してください。

道路で動けなくなったとき

一般道路で動けなくなったときは、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

知　識

- マニュアル車、オートマチック車ともにスターターを回して車を動かすことはできません。

クラッチ·スタートシステム

マニュアル車

→151ページ

故障の修理について

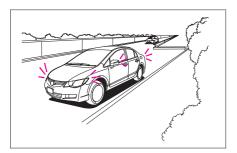
Honda販売店へお申しつけください。

お持ちこみいただければ、簡単なものはその場で修理いたします。長くかかるものは、予定をお知らせします。
お持ちこみのむずかしいときには電話でご連絡ください。
遠出などのときは全国どこでもHonda販売店へご連絡ください。
Honda販売店およびJAFの電話番号については別冊の「サービス網一覧」をご覧ください。

事故が起きたとき

あわてずに次の処置をとります。

1 事故の続発を防ぐ。

他の交通の妨げにならないような安全な場所（路肩、あき地など）に車を移動させ、エンジンを止めます。

2 負傷者がいる場合は、応急手当を行う。

医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。
この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。

知　識

- 外傷がなくても医師の診断を受けましょう。後になってから後遺症が出るおそれがあります。

3警察へ連絡する。

事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。

4相手方、事故の状況をメモする。

5ご購入された販売店や保険会社へ連絡する。

けん引

けん引は専門業者に依頼し、できるだけ四輪または前輪を持ち上げて行ってください。

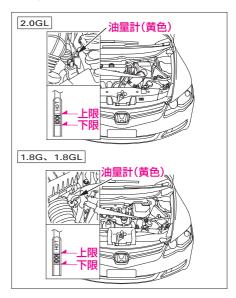
アドバイス

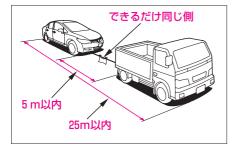
- 車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、必ず四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。

けん引されるとき（ロープによるけん引）

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、次の方法で行ってください。

① **オートマチック車**

トランスミッションオイルの量が目盛りの上限と下限の間にあるかを点検します。

下限より下がっている場合は、四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。

②ロープをけん引フックにかけ、ロープ中央部に白い布（0.3m平方以上）を付けます。

③エンジンをかけます。
エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを"Ⅰ"または"Ⅱ"にします。

④チェンジレバーまたはセレクトレバーをN（ニュートラル）にします。

⑤パーキングブレーキを解除し、けん引されます。けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

⑥ **オートマチック車**
速度30km/h以下、走行距離80km以内でけん引してください。

アドバイス

●けん引フックにロープをかけるときは、車体やフックの破損・変形を防ぐために次のことに気をつけてください。

・けん引フック以外のところにロープをかけないでください。

・けん引時にけん引フックに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。

・けん引ロープはできるだけ伸縮性のあるロープを使用してください。

●ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体にあたる部分のチェーンに布をまくなどして行ってください。
そのままけん引されると、バンパーに傷をつけるおそれがあります。

知　識

●エンジンが停止している状態でのけん引は、次のことに気をつけてください。

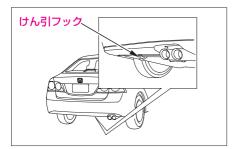
・ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるので、ブレーキの効きが悪くなります。

・パワーステアリングのパワー装置がはたらかなくなるので、ハンドル操作が重くなります。

・マニュアルトランスミッション車は、エンジンスイッチを"0"にするとキーが抜けることがあり、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、事故につながるおそれがあります。

●長い下り坂では、ブレーキ部の温度が上がりブレーキが効かなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。

故障車をけん引するとき

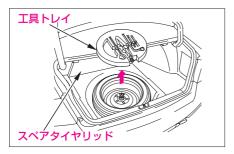
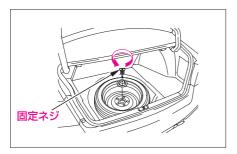
やむをえず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。

アドバイス

- けん引フックにロープをかけるときは、車体やフックの破損・変形を防ぐために次のことに気をつけてください。
  - ・けん引フック以外のところにロープをかけないでください。
  - ・けん引時にけん引フックに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。
  - ・けん引ロープはできるだけ伸縮性のあるロープを使用してください。
- ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引するときは、車体にあたる部分のチェーンに布をまくなどして行ってください。そのままけん引すると、バンパーに傷をつけるおそれがあります。

パンクしたとき

応急用スペアタイヤ装備車

応急用スペアタイヤ

①スペアタイヤリッドを開け、工具トレイを取り出します。

②固定ネジをゆるめて取り出します。

③応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたときの応急用としてのみに使うタイヤです。

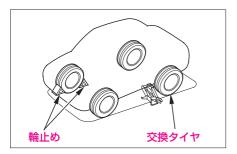
お使いになるときは次のことをお守りください。

知　識

- 空気圧はときどき点検し、指定空気圧でお使いください。
  指定空気圧：
  420 kPa (4.2 kgf/cm²)
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、100km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- VSA非装備車
  応急用スペアタイヤは標準タイヤと比べて直径が小さいため車高が低くなります。突起物など乗り越えるときは、車の下にひっかけないように注意してください。
- この応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使わないでください。
- 応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。
  チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。

タイヤ交換

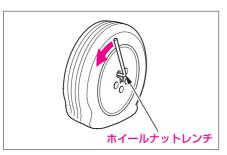
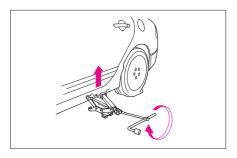
1 はじめに

①車を地面が固く平らで安全な場所に停め、工具類、応急用スペアタイヤを取り出します。
②パーキングブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に石などで輪止めをします。

③応急用スペアタイヤは交換するタイヤ近くの車体の下にホイール表面を上にして置きます。

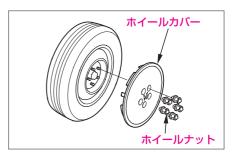
2ジャッキで車体を上げる

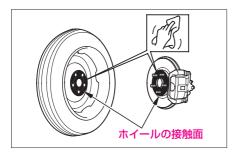
①ジャッキをセットします。

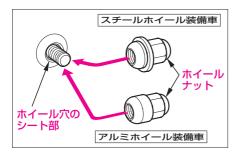
→268ページ

②ホイールナットをホイールナットレンチで少し(約１回転)ゆるめます。

③タイヤと地面が少し離れるまでジャッキで車体を上げます。

3タイヤを交換する

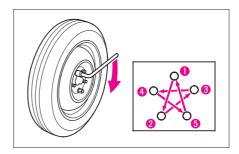
①ホイールナット、ホイールカバー(タイプ別装備)を外し、タイヤを外します。

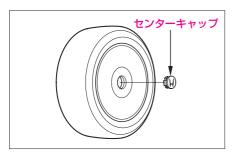
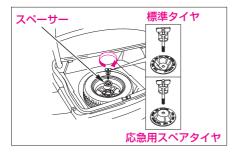
知　識

● タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

②応急用スペアタイヤのホイールの接触面のよごれをふき取ります。

③応急用スペアタイヤを取り付けます。

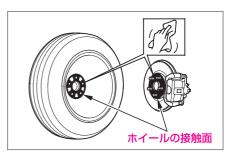
④ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。

⑤ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

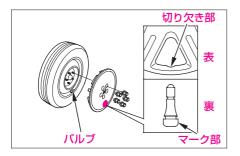
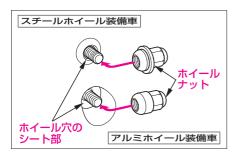
ホイールナット締め付けトルク：

98－118 N·m (10.0－12.0 kgf·m)

4 標準タイヤを収納する

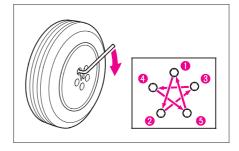
①アルミホイール装備車は、センターキャップを外します。

②パンクした標準タイヤをしまい、スペーサーを、応急用スペアタイヤを固定していたときとは逆向きにして固定します。

5 標準タイヤを取り付けるときは

①標準タイヤのホイールの接触面のよごれをふき取ります。

知 識

- タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
  下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

②ホイールカバー(タイプ別装備)を取り付けるときは、切り欠き部(マーク部)がバルブの位置にくるようにします。

③ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。

④ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク:

98－118 N·m (10.0－12.0 kgf·m)

⑤アルミホイール装備車は、センターキャップを取り付けます。

アドバイス

- VSA装備車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
  サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用するとVSAが正常に機能しなくなることがあります。
- IHCC装備車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
  サイズ、種類、銘柄や、摩耗度合いの異なるタイヤを混用するとIHCCが正常に機能しなくなることがあります。

知　識

- この車専用のホイールをお使いください。
  専用以外のホイールを使うと走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換に際しては、必ずHonda販売店にご相談ください。
- レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けないでください。トルクがかかりすぎることがあります。
- パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などでホイールバランスが狂うことがあります。車体の振動などの異常を感じたらHonda販売店で点検を受けてください。
- タイヤ交換は安全のため、地面の固い平らな場所で、他の交通に十分注意して行ってください。必要に応じて停止表示板、非常点滅表示灯を使ってください。
- 必ず同一指定サイズ、同一種類のタイヤを使ってください。指定サイズ以外のタイヤや種類の異なるタイヤを使うと安全性を損ないます。
- 応急用スペアタイヤの空気圧は使うときに調整してください。
  やむをえず、未調整のまま走る場合は、速度を控えめにしてください。
  タイヤの空気圧　→366ページ
- **スチールホイール装備車**
  ホイールカバーは、ホイールナットを外さないと取り外しができません。
  ドライバーなどで無理にこじらないでください。
- **アルミホイール装備車**
  パンク修理などでホイールを取り付け直したときには、念のため1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。

応急用スペアタイヤ非装備車

タイヤパンク応急修理キット

本キットはタイヤの路面接地部に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクを応急修理するものです。

⚠注意

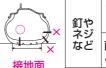
- 応急修理剤を飲用すると健康に害があります。もし誤って飲用した場合は、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- 応急修理剤がもし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。
- 応急修理剤に子どもが誤って手を触れないようご注意ください。
- 応急修理剤で応急修理を行うときは、車を地面が平らで安全な場所に停めてください。

知　識

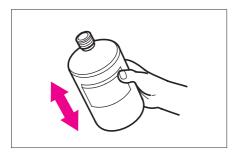
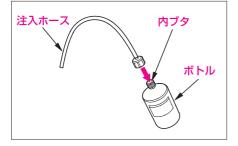
- タイヤ修理の際は作業をスムーズに行うため、修理キットに付属の説明書をよくお読みください。
- 応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがあります。

アドバイス

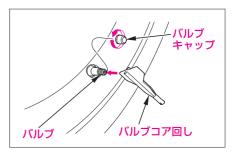
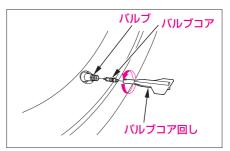
- 以下のような場合には、応急修理剤を使って修理することができません。
  Honda販売店やJAFなどのロードサービスに連絡してください。
  - 応急修理剤の有効期限が切れているとき。

  （アルミ袋が破れている場合、有効期限が通常より最大で 2 年短くなります）
  - タイヤが 2 本以上パンクしているとき。
  - 約 4 mm以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき。
  - 接地部以外が損傷を受け、パンクしたとき。

釘やネジなど	直径 4 mm以下	○
	直径 4 mmより大きい	×

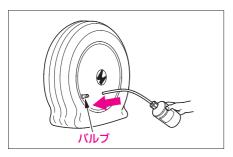
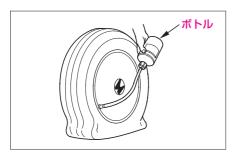
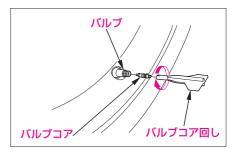
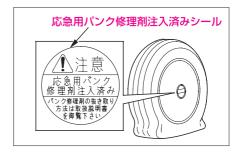
  - ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき。
  - タイヤがホイールから外れているとき。
  - ホイールが破損しているとき。

①車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットを取り出します。
②アルミ袋を破って応急修理剤のボトルを取り出します。
③応急修理剤のボトルをよく振ります。

④応急修理剤の内ブタを外さずに注入ホースを応急修理剤のボトルにねじ込みます。注入ホースをねじ込むと、内ブタが破れます。

⚠注意

●注入ホースをねじ込んだ後、応急修理剤のボトルを振ると、修理剤が注入ホースから飛び出すおそれがあります。

⑤バルブからバルブキャップを取り外し、コア回しの角部を押しあてて、タイヤの空気を完全に抜きます。

⑥コア回しでバルブコアを左に回して外します。
外したバルブコアは、汚れないようにきれいな所に保管します。

⚠注意

●バルブコアを外すときにタイヤに空気が残っていると、バルブコアが飛び出し傷害を受けるおそれがあります。

⑦注入ホースをバルブに差し込みます。

⑧応急修理剤のボトルを逆さまにして持ち、手でボトルを何回も圧迫し、ボトル内の修理剤を全てタイヤの中に注入します。

⑨全て注入したら、注入ホースをバルブから引き抜き、バルブコアをバルブに取り付け、コア回しで右に回してしっかりとねじ込んでください。

⑩応急修理剤を注入したタイヤのホイールの平坦なところに、応急用パンク修理剤注入済みシールを貼ります。

知　識

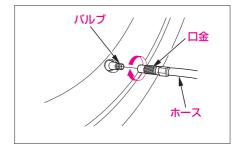
●空ボトルから修理剤がもれないようにバルブコア回しで注入ホースに栓をして、ひもなどで束ねてください。

●空ボトルは、タイヤの修理・交換時に、使用済応急修理剤の回収に使用しますので捨てずにHonda販売店か修理業者までお持ちください。

⑪速度制限シールを運転者のよく見える位置に貼ります。

⚠注意

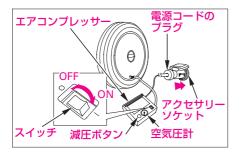
●ハンドルのパッドにシールを貼らないでください。SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。
また、メーターの警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置には貼らないでください。

⑫バルブにエアコンプレッサーのホースを確実に取り付けます。

⑬空気圧計を上にして、エアコンプレッサーを置きます。

⑭エアコンプレッサーの電源コードのプラグをアクセサリーソケットに差し込みます。

⑮エンジンスイッチを“Ⅰ”にします。

⑯エアコンプレッサーのスイッチを“ON”にしてタイヤを指定の空気圧まで昇圧します。エアコンプレッサーに付属の空気圧計を使用して、空気圧を点検、調整します。
空気を入れ過ぎたときは、減圧ボタンを押して空気を抜きます。

指定空気圧　→366ページ

知　識

- タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、コンプレッサーのスイッチを“OFF”にしてから確認してください。

⑰エアコンプレッサーのスイッチを“OFF”にしてから電源コードプラグをアクセサリーソケットから抜きます。

知　識

- 備え付けのエアコンプレッサーは乗用車タイプの空気充填用です。
- エアコンプレッサーの電源は、自動車用12V専用です。他の電源は接続しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15分以上連続して使用しないでください。
再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。
- 10分以内に指定の空気圧にならないときは、応急修理剤を使って応急修理することができません。
Honda販売店やJAFなどのロードサービスに連絡してください。
- 本応急修理キットは、タイヤに修理剤および空気を注入するだけではパンク穴はふさがりません。応急修理が完了するまでは、パンク穴より空気が漏れます。

⑱指定の空気圧まで昇圧できたら、速やかに、エアコンプレッサー、ボトル等を車に搭載して直ちに走行します。
走行は法定速度を守って、80km/h以下の速度で注意深く運転してください。

⚠注意

- 走行中異常を感じたときは、運転を中止してHonda販売店かJAFなどのロードサービスに連絡してください。
応急修理完了までに空気圧が低下して安定性を損うおそれがあります。

知　識

- 80km/hを超えて走行すると、車体が振動することがあります。

⑲10分間または 5 km程度走行した後、車を安全な場所に停め、エアコンプレッサーに付属の空気圧計でタイヤの空気圧を点検します。

⚠注意

- 空気圧が最小空気圧より低くなっているときは、応急修理剤での応急修理はできません。
運転を中止してHonda販売店か、JAFなどのロードサービスに連絡してください。
最小空気圧：130 kPa (1.3 kgf/cm^2)

⑳タイヤの空気圧が指定の空気圧より低下していたら、もう一度指定の空気圧まで昇圧し、法定速度を守って80km/h以下の速度で注意深く運転します。
10分もしくは 5 km程度走行した後にタイヤの空気圧を点検します。

指定空気圧　→366ページ

㉑空気圧の低下が認められなくなったら、応急修理完了です。
すみやかにHonda販売店または専門修理工場まで慎重に運転し、タイヤの修理、交換を行ってください。

知　識

- このとき、タイヤの空気圧が指定空気圧より低下していたら運転を中止してHonda販売店かJAFなどのロードサービスに連絡してください。
- 応急修理剤の空ボトルは、使用済応急修理剤の回収に使用しますので、Honda販売店か修理業者までお持ちください。

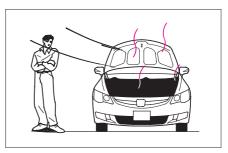
オーバーヒートしたとき

次のようなときは、オーバーヒートです。
- 水温計が“H”のマークまで点灯したり、エンジンの力が急に落ちる。
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている。

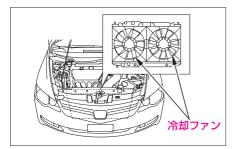
⚠警告

- エンジンルームから蒸気が出ているときは、ボンネットを開けないでください。
  蒸気や熱湯がふき出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。
- エンジンが十分に冷え、水温が下がるまでラジエーターキャップを外さないでください。
  冷却水には圧力がかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

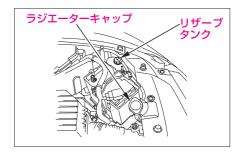
●処置のしかた

①車を安全な場所に停めます。
②エンジンをかけたままボンネットを開けて風通しをよくします。

知 識

- エンジンルームから蒸気が出ているときは、エンジンを止めます。
  蒸気が出なくなってからボンネットを開け、エンジンをかけてください。

③冷却ファンの作動を確認し、水温計の表示が“C”の方に下がってきてからエンジンを止めます。
冷却ファンが作動していないときはすぐにエンジンを止めてください。

アドバイス

●冷却ファンが作動していない場合は、故障が考えられますので、Honda販売店へご連絡ください。

④エンジンが冷えてから、冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検します。

⑤冷却水量が不足していたらラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

アドバイス

●エンジンが熱いときに冷却水を入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。
冷却水はエンジンが冷えてからゆっくりと入れてください。

⑥なるべく早くHonda販売店で点検を受けてください。

電気系統が異常のとき

バッテリーあがりのとき

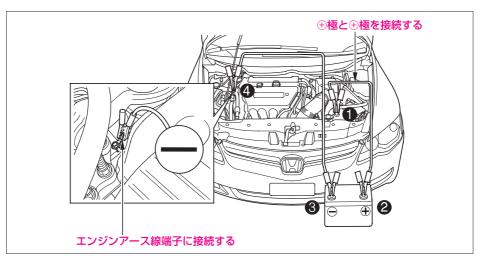
次のようなときは、バッテリーあがりです。
・スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンがかからない。
・ライトがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さい。

●処置のしかた

2.0GL

救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動させます。
①ブースターケーブルを次の順番でつなぎます。

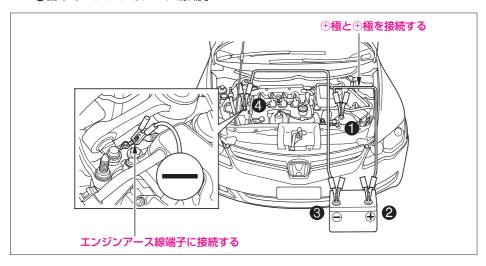
1本目
❶自車のバッテリーの⊕端子
❷救援車のバッテリーの⊕端子

2本目
❸救援車のバッテリーの⊖端子
❹自車のエンジンのアース線端子

②救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
③自車のエンジンをかけます。
④ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。
⑤Honda販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

1.8G、1.8GL

安全のため、マニュアルトランスミッション車の押しがけはしないでください。
救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動させます。
①ブースターケーブルを次の順番でつなぎます。

1本目
❶自車のバッテリーの⊕端子
❷救援車のバッテリーの⊕端子

2本目
❸救援車のバッテリーの⊖端子
❹自車のエンジンのアース線端子

②救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
③自車のエンジンをかけます。
④ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。
⑤Honda販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

TYPE R

安全のため、押しがけはしないでください。

救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動させます。

①ブースターケーブルを次の順番でつなぎます。

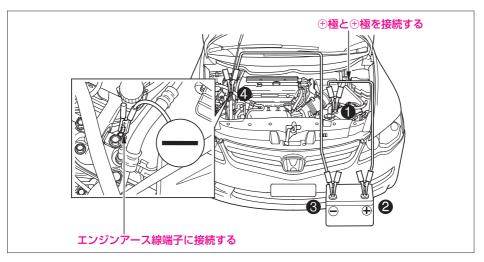
1本目

❶自車のバッテリーの⊕端子

❷救援車のバッテリーの⊕端子

2本目

❸救援車のバッテリーの⊖端子

❹自車のエンジンのアース線端子

②救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。

③自車のエンジンをかけます。

④ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。

⑤Honda販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

⚠警告

●バッテリーを取り扱うときは次のことを必ず守ってください。
バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
・バッテリー液が不足しているときは、エンジンの始動または充電を行わないでください。
・火気を近づけないでください。
・帯電した身体でバッテリーに触れないでください。
・換気に十分注意し、換気の悪い場所では充電を行わないでください。
・バッテリーを充電するときは、すべてのキャップを外してください。
●ブースターケーブルをつなぐときは次のことを必ず守ってください。火花が出て、バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
・自車のバッテリーの㊀端子に直接ケーブルをつながないでください。
・㊉端子と㊀端子を間違えないでください。
・ケーブルの先端どうしを接触させないでください。
●バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも5分間以上洗浄し、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

知　識

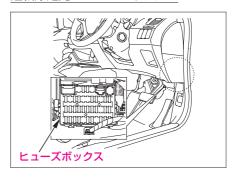
●バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。
●ブースターケーブルのクリップは、エンジン始動時などの振動で外れたりしないように確実に固定してください。また、ブースターケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分気をつけてください。
●救援車には、12Vのバッテリーを装着している車を使用してください。

ライト類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

バッテリーがあがっていないときは、ヒューズ切れや電球(バルブ)切れが考えられます。

①エンジンスイッチを"0"の位置にします。
②ヒューズが切れていないかを点検します。
・故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスの表示と取扱説明書で確認し、点検します。
③必要に応じて、ヒューズや電球を交換します。

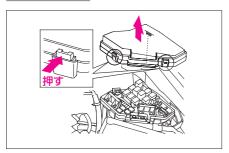
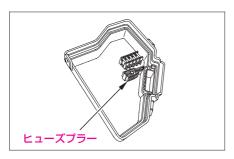
●ヒューズの点検、交換

運転席足元のヒューズボックス

・各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		パワーウィンドー	7.5A
2		フューエルポンプ	15A
3		発電機	10A
4		ABSユニット	7.5A
5		—	—
6		フォグライト	20A
7		—	—
8		エンジンスタート	7.5A
9		乗員検知	7.5A
10		メーター	7.5A
11		SRSエアバッグシステム	10A
12	R	右側ヘッドライト ハイビーム	10A
13	L	左側ヘッドライト ハイビーム	10A
14		スモールライト(室内)	7.5A
15		スモールライト (車幅灯/尾灯)	7.5A
16	R	右側ヘッドライト ロービーム	10A※1 15A※2
17	L	左側ヘッドライト ロービーム	10A※1 15A※2
18		ヘッドライトハイビーム メイン	20A
19		スモールライトメイン	15A
20		—	—
21		ヘッドライトロービーム メイン	20A※1 30A※2
22		—	—
23		スターターシグナル	7.5A
24		—	—

	表示	装備	容量
25		ドアロック	20A
26	DR	パワーウィンドー 運転席	20A
27		オプション1	7.5A
28		—	—
29		アクセサリーソケット	15A※3 20A※4
30	AS	パワーウィンドー 助手席	20A
31		—	—
32	RR R	パワーウィンドー 後席右側	20A
33	RR L	パワーウィンドー 後席左側	20A
34	—	—	—
35		オーディオ	7.5A
36		オプション2	10A
37		—	—
38		ワイパー	30A

※ 1 :ハロゲンヘッドライト装備車
※ 2 :ディスチャージヘッドライト装備車
※ 3 :応急用スペアタイヤ装備車
※ 4 :応急用スペアタイヤ非装備車

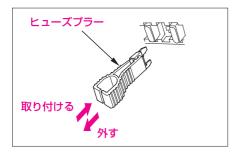
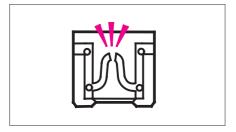
エンジンルーム

・各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		バッテリー	100A
		EPS	70A
2		オプションメイン	60A
		イグニッション	50A
3		ABS ユニット	30A
		VSA ユニット	40A※1
		ABSモーター	30A
4		パワーウィンドーメイン	40A
		ヘッドライトメイン	50A
5	—	—	—
6		ファンモーターサブ	20A
7		ファンモーターメイン	20A※2※3
			30A

	表示	装備	容量
8		リヤデフロスター	30A
9		ヒーターモーター	40A
10		非常点滅表示灯	10A
11		PGM-FIサブ	15A
12		ホーン／制動灯	15A
13	—	—	—
14	—	—	—
15		コンデンサーファンモーター	7.5A
16		E-プリテンショナー助手席	30A
17		E-プリテンショナー運転席	30A※4
		オーディオ／アンプ	15A※5
18		イグニッションコイル	15A
19		PGM-FIメイン	15A
20		MGクラッチ	7.5A
21		ドライブバイワイヤ	15A
22		室内灯	7.5A
23		バックアップ	10A

※１：VSA装備車
※２：マニュアル車
※３：2.0GL
※４：IHCC装備車
※５：TYPE R

ヒューズの外しかた

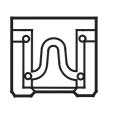
備え付けのヒューズプラーでヒューズを外します。

ヒューズが切れているとき

ヒューズボックスの表示に従い規定容量のヒューズに交換します。

アドバイス

- 規定容量のヒューズ以外の物は絶対に使わないでください。
  配線コードなどを焼損させる原因となります。

知　識

- 交換しても、またヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

ヒューズが切れていないとき

- ライト類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。
  電球を点検し、切れているときは交換してください。

知　識

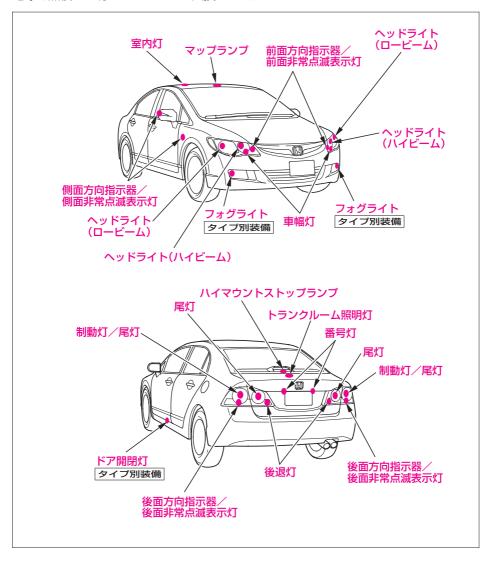
- 電球が切れていない場合は、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

- ライト類以外の電気装置が作動しないときは、電気系統の異常が考えられますので、Honda販売店で点検を受けてください。

●電球(バルブ)の交換

ヒューズが切れていないのにライト類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。電球を点検し、切れているときは交換してください。

室内灯
マップランプ
前面方向指示器／前面非常点滅表示灯
ヘッドライト(ロービーム)
ヘッドライト(ハイビーム)
側面方向指示器／側面非常点滅表示灯
ヘッドライト(ロービーム)
フォグライト タイプ別装備
車幅灯
フォグライト タイプ別装備
ヘッドライト(ハイビーム)

ハイマウントストップランプ
尾灯
トランクルーム照明灯
制動灯／尾灯
番号灯
尾灯
制動灯／尾灯
ドア開閉灯 タイプ別装備
後退灯
後面方向指示器／後面非常点滅表示灯
後面方向指示器／後面非常点滅表示灯

知 識

- ランプ本体やレンズを外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- 電球を交換するときはワット(W)数の違う物を使わないでください。

  電球のワット数 →363ページ
- ハロゲンバルブはガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスがとび散ることがあります。

  取り扱いには十分に注意してください。

  また、ハロゲンバルブの電球の表面に手などが、触れないようにしてください。使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短くなります。触れた場合は、中性洗剤の薄い水溶液を柔らかい布に含ませてよくふき取ってください。

知 識

- ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。

  ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、Honda販売店にご相談ください。

ヘッドライト(ロービーム)について

ディスチャージヘッドライト装備車

ヘッドライトの電球切れの点検、交換は必ずHonda販売店で行ってください。

⚠注意

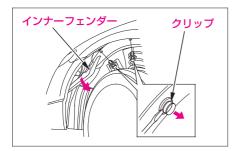
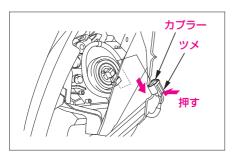
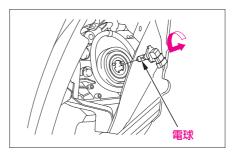
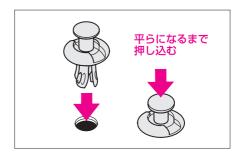
- ディスチャージヘッドライトは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。

ヘッドライト(ロービーム)

ハロゲンヘッドライト装備車

ハロゲンバルブを使用していますので、取り扱いに注意してください。

ハロゲンバルブについて →304ページ

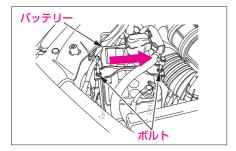
①交換する側と反対にハンドルをいっぱいに切ります。
②クリップを外してインナーフェンダーをめくります。

③カプラーのツメを押しながらカプラーを外します。

④電球を左へ回して抜き取ります。

インナーフェンダーを固定するときは、クリップの中央部のピンを起こしたままインナーフェンダーに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。

ヘッドライト(ハイビーム)

ハロゲンバルブを使用していますので、取り扱いに注意してください。

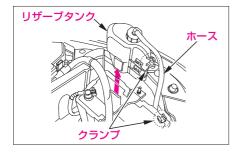
ハロゲンバルブについて →304ページ

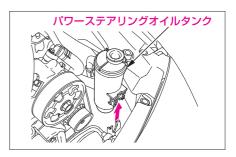
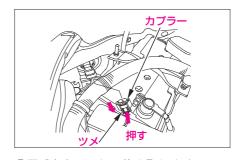
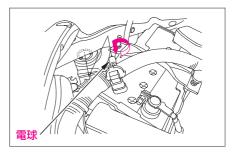
① 左側

TYPE R

バッテリー固定用のボルトをゆるめ、バッテリーをずらします。

② 左側

冷却水リザーブタンクのホースをクランプから外して、リザーブタンクを外します。

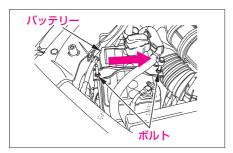
右側

TYPE R

パワーステアリングオイルタンクを引き上げ外します。

③カプラーのツメを押しながらカプラーを外します。

④電球を左へ回して抜き取ります。

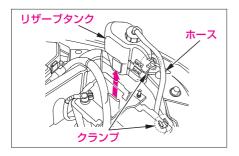
前面方向指示器／前面非常点滅表示灯

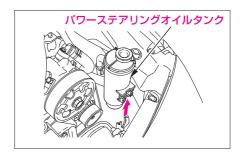
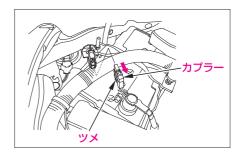
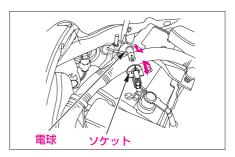
① 左側

TYPE R

バッテリー固定用のボルトをゆるめ、バッテリーをずらします。

② 左側

冷却水リザーブタンクのホースをクランプから外して、リザーブタンクを外します。

右側

TYPE R

パワーステアリングオイルタンクを引き上げ外します。

③カプラーのツメを押しながらカプラーを外します。

④ソケットを左へ回して外し、電球を押しながら左へ回して抜き取ります。

車幅灯

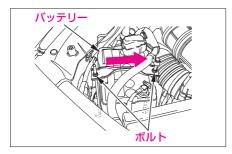
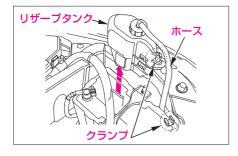
① 左側

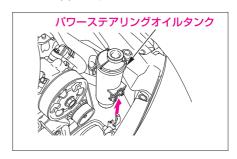
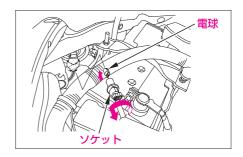
TYPE R

バッテリー固定用のボルトをゆるめ、バッテリーをずらします。

② 左側

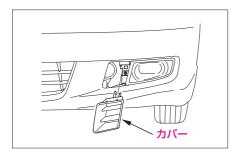
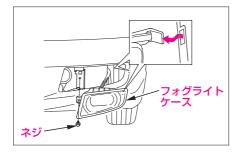
冷却水リザーブタンクのホースをクランプから外して、リザーブタンクを外します。

右側

TYPE R

パワーステアリングオイルタンクを引き上げ外します。

③ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

フォグライト　タイプ別装備

ハロゲンバルブを使用していますので、取り扱いに注意してください。

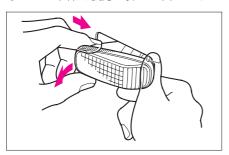
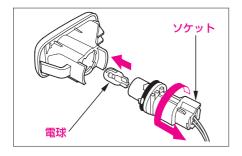
ハロゲンバルブについて　→304ページ

①カバーを外します。

②ネジを外して、フォグライトケースを取り出します。

③カプラーのツメを押しながらカプラーを外します。

④電球を左へ回して抜き取ります。

側面方向指示器／側面非常点滅表示灯

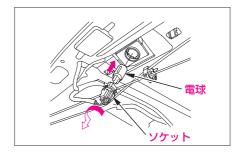
ドアミラーウインカー非装備車

①ランプ本体を後方に押して外します。

②ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

ドアミラーウインカー装備車

電球切れの点検、交換は、Honda販売店にご相談ください。

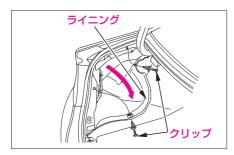
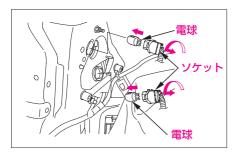
ハイマウントストップランプ

1.8G、1.8GL、2.0GL

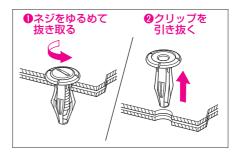
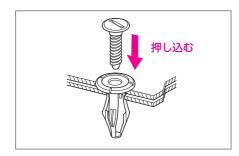
トランクを開け、内側からソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

TYPE R

電球切れの点検、交換は、Honda販売店にご相談ください。

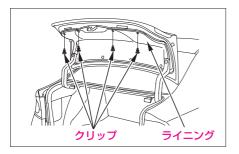
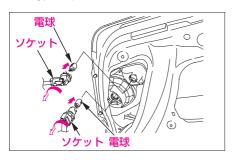
制動灯／尾灯、後面方向指示器／後面非常点滅表示灯

①交換する側のライニングからクリップ2個を引き抜き、ライニングをめくります。

②ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

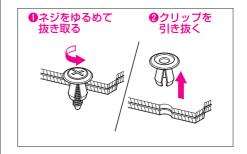
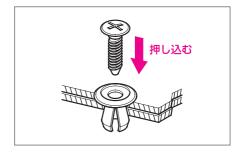
・クリップの脱着のしかた

クリップのネジをドライバーなどで左へ回して抜き取り、クリップを引き抜きます。

固定するときには、ネジを外したままのクリップを取り付けたライニングに差し込んでから、ネジ部を平らになるまで押し込みます。

尾灯、後退灯

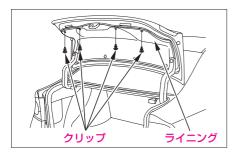
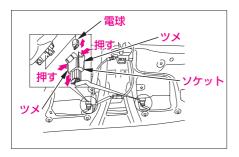
① ライニング装備車

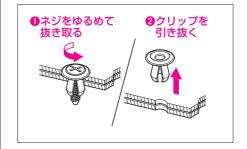
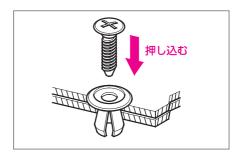
ライニングからクリップ4個を引き抜き、ライニングをめくります。

②ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

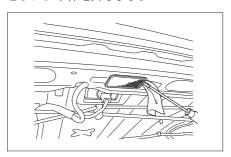
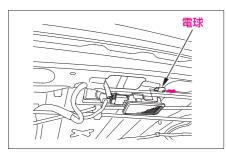
・クリップの脱着のしかた

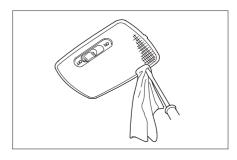
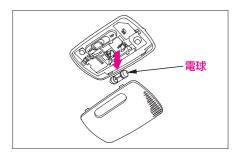
クリップのネジをドライバーなどで左へ回して抜き取り、クリップを引き抜きます。

固定するときには、ネジを外したままのクリップを取り付けたライニングに差し込んでから、ネジ部を平らになるまで押し込みます。

番号灯

① ライニング装備車

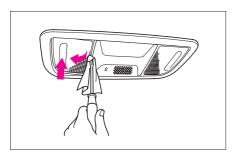
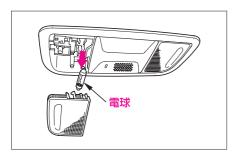
ライニングからクリップ4個を引き抜き、ライニングをめくります。

②ソケットのツメを押しながらソケットを外し、電球を抜き取ります。

・クリップの脱着のしかた

クリップのネジをドライバーなどで左へ回して抜き取り、クリップを引き抜きます。

固定するときには、ネジを外したままのクリップを取り付けたライニングに差し込んでから、ネジ部を平らになるまで押し込みます。

トランクルーム照明灯

①ランプ本体を外します。

②電球を抜き取ります。

室内灯

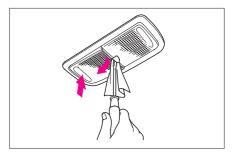
①レンズを外します。

②電球を抜き取ります。

マップランプ

Hondaインターナビシステム装備車

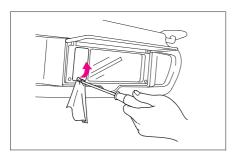
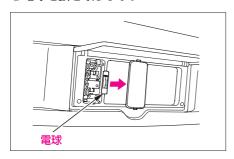
①レンズを押してすきまを作り、ドライバーを差し込んでレンズを外します。

②電球を抜き取ります。

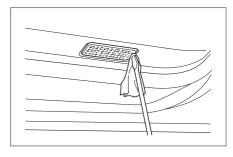
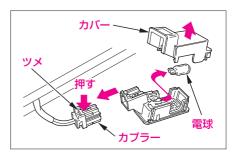
マップランプ

Hondaインターナビシステム非装備車

①レンズを押してすきまを作り、ドライバーを差し込んでレンズを外します。

②電球を抜き取ります。

バニティミラー照明灯 タイプ別装備

①レンズを外します。

②電球を抜き取ります。

ドア開閉灯 タイプ別装備

①レンズを外します。

②ツメを押しながらカプラーを外します。
③カバーを外し、電球を抜き取ります。

キーの電池が消耗したとき

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda販売店での交換をおすすめします。

⚠注意

- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意してください。
  飲み込むと、傷害を受けるおそれがあります。

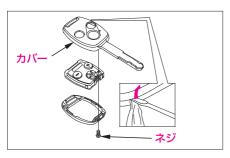
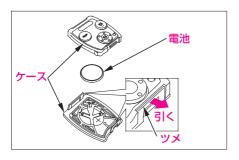
知識

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。
- 電池交換の際は、ケースやカバーを確実に取り付けてください。確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。
- 電池はHonda販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

●キーレスエントリー一体キーの電池交換

Hondaスマートキーシステム非装備車

使用電池・・・・・・・・・ボタン電池CR1616

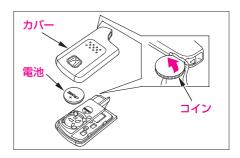
①ネジを外して、カバーに傷を付けないようにマイナスドライバーに布を巻いてカバーを外します。

②ツメを引いてケースを外し、電池を交換します。

●Hondaスマートキーの電池交換

Hondaスマートキーシステム装備車

使用電池・・・・・・・・・ボタン電池CR2032

①内蔵キーを取り出します。

内蔵キーの取り出しかた →43ページ

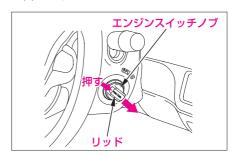
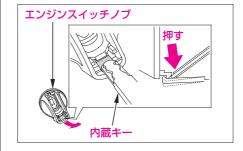
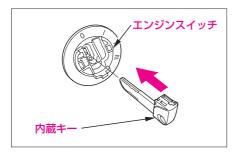
②カバーに傷を付けないようにコインに布を巻いてカバーを外し、電池を交換します。

Hondaスマートキーで エンジンスイッチを 操作できないとき

Hondaスマートキーシステム装備車

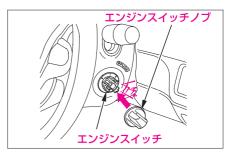
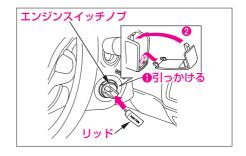
Hondaスマートキーによるエンジンスイッチの操作や、エンジンの始動ができない場合は、内蔵キーを使ってエンジンスイッチの操作や、エンジンの始動をすることができます。

内蔵キーの取り出しかた　→43ページ

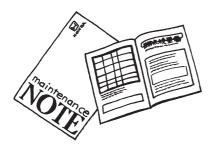
●内蔵キーの差し込みかた

①リッドの上端を押しながら、リッドを外します。

②エンジンスイッチノブの内側のツメを、内蔵キーの先端で押して、エンジンスイッチノブを外します。

③エンジンスイッチに内蔵キーを図の向きで差し込みます。

キーを使ったエンジンスイッチの操作
→128ページ

エンジンスイッチノブの取り付け

①エンジンスイッチにエンジンスイッチノブを取り付けます。

②エンジンスイッチノブにリッドを取り付けます。

車の手入れ

点検・整備について

車は走行するにしたがい、また時間が経過するとともに部品の劣化や摩耗などが進んでいき、適切な点検整備を行わないと、安全・快適に乗っていただけなくなるばかりか大気汚染や騒音の増加などを引き起こすことがあります。
このようなことから点検整備が必要であり、ドライバー(運転者)は点検整備を実施することが法律でも義務づけられています。

詳しくは、別冊のメンテナンスノートに記載してありますので、よくお読みになり必ず点検整備を行ってください。

●点検整備の種類

日常点検

日常の車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検で、お客様自身で実施が可能な項目となっています。
点検時期の目安としては長距離走行前や洗車時、給油時などに実施します。

法定定期点検

年間走行距離が10,000km程度の標準的な使用を前提に、12か月および24か月毎に実施する点検です。
法律で定められているものと、Hondaが指定するものがあります。

その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

簡単な整備

「簡単な整備」を実施したときは、メンテナンスノート点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

タイヤについて

タイヤの異常摩耗、亀裂、損傷および指定外の空気圧は、乗り心地、操縦性、タイヤの寿命を損ないます。
また、摩耗したタイヤは雨天時の高速走行で通常よりもハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

・安全のため、こまめに点検を行ってください。
　また、必ず同一指定サイズ、同一種類のタイヤをお使いください。

⚠警告

● 次のようなタイヤは使わないでください。
　コントロールを失うことがあり、思わぬ事故につながります。
　・摩耗限度を超えたタイヤ。
　・指定空気圧に調整されていないタイヤ。
　　タイヤの空気圧
　　→366ページ

⚠注意

● タイヤの空気圧を調整するときは、規定圧力を守ってください。
　空気を入れ過ぎると、タイヤが破裂しけがをするおそれがあります。

- VSA装備車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを混用するとVSAが正常に機能しなくなることがあります。
- IHCC装備車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用するとIHCCが正常に機能しなくなることがあります。

摩耗限界表示（ウェアインジケーター）

ウェアインジケーターが表れたらタイヤを交換してください。

・ウェアインジケーターは、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mmだけ浅くなっています。

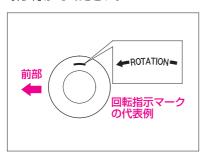
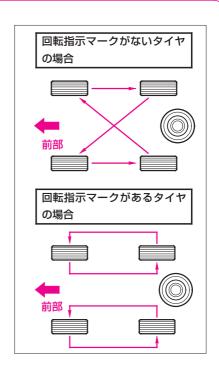
●位置交換（タイヤローテーション）

5,000kmごとにタイヤの位置を交換します。

- 応急用スペアタイヤ非装備車
  スペアタイヤが装備されていないため、搭載されているジャッキではタイヤの位置交換を行なうことができません。タイヤの位置交換を行なうときはHonda販売店にご相談ください。
- 同じ位置で長く走ると偏摩耗し、タイヤの寿命を縮めるだけでなく走行性、制動力にまで悪影響を与えます。

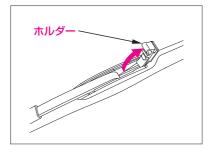
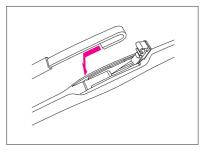
● 応急用スペアタイヤ装備車
応急用スペアタイヤは、位置交換に使わないでください。

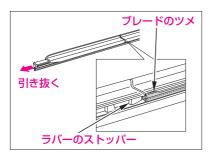
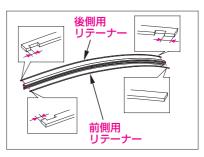
タイヤ回転指示マーク

タイヤの性能上、回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ側面に回転指示マークがあります。
回転指示マークが前部へ向くように取り付けてください。

ワイパーブレードラバーの交換

ラバーが傷んでいると、拭きむらがあるばかりかウィンドーガラスを傷つけることがあります。

ワイパーブレードを外したときはアームを倒さないでください。また、アームを起こしているときはワイパーを作動させないでください。
ガラスやボンネットに傷がつくことがあります。

①ホルダーを起こして、アームからブレードを外します。

ワイパーアームの起こしかた
→351ページ

②ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜きます。

③引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーを図のように取り付けます。

④ラバーをストッパーがない側からブレードに沿って差し込みます。ラバーのストッパーをブレードのツメに挿入します。

⑤ブレードをアームに取り付け、ホルダーを閉じて固定します。

日常の手入れ

走行後は

- 塗装面に付着したほこりを毛ばたきなどではらい落としましょう。
- とび石などによる塗装面の傷は錆の原因となります。見つけたら早めに補修してください。

保管、駐車は

- 風通しのよい車庫や、屋根のある場所をおすすめします。

洗車を忘れずに

- 少なくとも月に一度は洗車しましょう。
- 次の場合は、必ず洗車してください。
  - ・凍結防止剤を散布した道路を走行したとき、海岸地帯を走行したとき。
    錆の原因となるので車体の下回り、フェンダーの内側を念入りに洗ってください。
  - ・コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついたとき。
    化学変化で塗装面にむらができるので、中性洗剤で洗ってから水で完全に流し、必要に応じてポリシングワックス(ワックス乳液)で磨いてください。
    ポリシングワックスは、Honda純正ケミカル用品をお使いください。

外装の手入れ

●洗車のしかた

・十分に水をかけながら、下回り、足まわりの汚れを落とします。
・塗装面は屋根から順に下のほうへ水をかけながら、スポンジかセーム皮のような柔らかい物で洗います。
・汚れがひどいところは中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。
・水が乾かないうちに拭き取ります。

●故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内に水をかけないでください。
故障の原因になります。

自動洗車機を使うとき

・ドアミラーを格納して洗車してください。
・ホイールカバー装備車は、自動洗車機のホイール専用ブラシを使わないでください。十分水をかけスポンジまたはセーム皮のような柔らかい物で洗ってください。

●自動洗車機を使うと、ブラシの傷がつき光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。

高圧洗浄機を使うとき

洗車ノズルと車体の距離を十分に離して洗車してください。
ウィンドーまわりは、特に注意して行ってください。近づけすぎると室内へ水が侵入することがあります。
エンジンルームには水をかけないでください。
故障の原因になります。

●ワックスをかけるとき

月に一回程度または水をはじかなくなったときに行います。
洗車したあと、日陰か車体表面が体温以下になっているときにワックスをかけます。

・ワックスはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

●みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは使わないでください。
塗装面に細かい傷が残ることがあります。

●樹脂塗装部品(バンパーなど)の手入れ

ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。
すみやかに柔らかい布で拭き取ってください。

●樹脂塗装部品の傷の補修をする場合は、Honda販売店にご相談ください。不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

●ガラスの手入れ

ガラスの油膜を取るときは、ガラスクリーナーをお使いください。

・ガラスクリーナーはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

リヤガラスの清掃をするとき

ガラスの内側に電熱線やアンテナ線が装着されていますので、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

内装の手入れ

①中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。
・飲食物などをこぼしたときは、すぐに汚れを落としてください。

②真水を含ませた柔らかい布で、残った洗剤分をきれいに拭き取ります。

③直射日光を避け、風通しのよい日陰で乾燥させます。

● 室内に水をかけないでください。オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。

●ケミカル類、液体芳香剤について

取扱方法や成分を確認の上、取り扱いには十分にご注意ください。

⚠注意

●オーディオやスイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあります。
万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda販売店にご相談ください。

●ケミカル類、液体芳香剤はその成分によっては、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れを起こすことがあります。
次のことに注意してください。

・ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶剤は使わないでください。
また、ケミカル類には、これらの成分が含まれているおそれがあります。

・ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
また、使用した布はそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

・液体芳香剤はこぼさないように、容器を確実に固定してください。
芳香剤の使用にあたっては固形タイプのものをおすすめします。

●本革の取り扱い

タイプ別注文装備

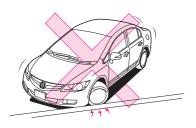
①ウール用中性洗剤の5%水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。
②真水を含ませた柔らかい布で、残った洗剤分をきれいにふき取ります。
③直射日光を避け、風通しのよい日陰で乾燥させます。

知　識

- 本革部分に油汚れなどが付くとカビなどの原因となるので、早めに落としてください。
- 本革部分を直射日光に長時間さらすと、変質、縮みの原因となります。駐車するときは、日よけに心がけてください。
- 夏期などは、ビニール類を本革部分の上に置かないでください。
  室内が高温になっていると、ビニールが変質して本革部分に付着するおそれがあります。
- 雨などでぬれたときは、早めに水分をふき取り風通しのよい日陰で乾燥させてください。
  シート表面に水分が残っていると、皮革の硬化、収縮の原因となります。
- **サイドエアバッグシステム装備車**
  助手席は、乾燥していない状態で使用するとサイドエアバッグの乗員姿勢検知システムが正しく作動しないおそれがあります。

アルミホイールについて

アルミホイール装備車

アルミホイールは一般的なスチールホイールと取り扱いかたが異なります。
アルミホイールの特性を維持するため、必ず次のことをお守りください。

●取り扱い

- この車専用のホイールをお使いください。専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換に際しては、必ずHonda販売店にご相談ください。
- パンク修理などでホイールを取り付け直した際には、念のため1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。
- アルミホイールは傷つきやすいので歩道の縁石などに乗り上げたり、すり当てたりすることを避けてください。
- バランスウェイトやバルブはHonda純正のアルミホイール専用品をお使いください。ホイールに傷をつけたり、機能を損なうことがあります。
- タイヤチェーンを装着するときは、正しく装着してください。ホイールに対して片寄ったり、ゆるかったりするとホイールや、ブレーキ装置に傷をつけるおそれがありますので注意して装着してください。

●手入れ

- アルミホイールは、塩分や汚れを嫌いますので、海水や道路凍結防止剤などが付いたときには、スポンジに中性洗剤を含ませ、汚れを早めに落としてください。
- ホイールの光沢を維持するため、時々ワックスがけをしてください。
- アルミホイールは傷つきやすいので、砂入り石鹸や硬いブラシを使わないでください。高速洗車機(ホイール専用ブラシ付きの物)によるホイールの洗浄は避けてください。
- スチーム洗浄などで、熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。
  光沢を失うおそれがあります。

車にあった部品の使用

車の性能、品質を維持するために、Honda車に最も適したHonda純正部品をお使いください。
純正部品は厳しい検査を実施し、Honda車に適合するように作られています。
お求め、装着に際しては、Honda販売店にご相談ください。

・純正部品には下のマークがついています。

HONDA
GENUINE PARTS

・Honda純正部品以外の車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりすることがあります。
・車の改造はしないでください。
不正改造は、法律に触れることはもちろん思わぬ事故を起こす場合があります。

車との上手なつきあいかた

積雪・寒冷時の取り扱い

運転するまえ

●車に積もった雪や着氷は取り除く

屋根に積もった雪

走行時に屋根に積もった雪がすべり落ち視界の妨げになるなど危険です。走行する前に取り除いてください。

・氷結している部分を無理に取り除くと塗装などを傷めます。氷が溶けてから取り除いてください。

ガラス面の雪や霜

雪や霜を落として視界を確保してください。

・プラスチックの板などを使うとガラスに傷をつけずに落とすことができます。

足まわりの着氷

足まわりなどに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。

●凍結しているとき

ドアの凍結

無理に開けるとドアまわりのゴムがはがれたりするので、お湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。

- ドアキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結すると、キーが差し込めなくなります。

お湯をかけたあとは、凍結防止のために水分をよく拭き取ってください。

ワイパーの凍結（ガラス面が着氷、積雪しているとき）

ワイパーブレード（ゴム部）を損傷したり、モーターの故障となりますので、氷や雪を取り除いてから動かしてください。
寒冷地用ワイパーブレードを装着する際は、Honda販売店にご相談ください。
寒冷時以外は通常のワイパーブレードに戻してください。

●乗車するとき

靴にこびりついた雪をよく落としてから、乗車してください。

- ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。

運転するまえに

ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうか確認してください。

運転するとき

●雪道や凍結路では、たいへん滑りやすくなっているので、速度を落とし車間距離を十分とって運転しましょう。
また、ハンドルやブレーキの操作は特に慎重にしてください。
・急加速、急減速、急ブレーキや急ハンドルは横すべりを起こして方向性を失います。

●冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着して走行してください。
タイヤチェーンについて
→344ページ
・冬用タイヤを装着するときは、四輪とも同じ種類のものに交換してください。
・地区条例により違いがありますので、その地区の条例に従ってください。

●冬用タイヤを装着したときには、安全のため高速走行は避けてください。

●ブレーキの効きについて

ブレーキ装置に付着した雪や水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。
その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。

- ブレーキの効きが回復しないときは、ブレーキ系統に異常が考えられますので、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

●ウォッシャー液を噴射するとき

先にデフロスターを使ってフロントガラスを暖めてからウォッシャー液を噴射します。

⚠注意

- 寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射しないでください。
  ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ハンドルのきれについて（タイヤまわりの着氷）

フェンダー裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。
ときどき確認し、着氷が大きくなる前に取り除いてください。

●パンクしたとき（タイヤチェーン装着時）

応急用スペアタイヤ装備車

前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に付け、外した後輪タイヤを前輪に付けてタイヤチェーンを装着します。

・応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。

●タイヤチェーンについて

推奨タイヤチェーン

フェンダーやホイール表面を傷つけるおそれがありますので、Honda純正スチールチェーンをお使いください。
お求めはHonda販売店へお申し付けください。

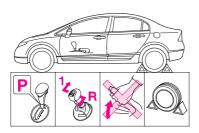
● タイヤチェーンはタイヤに合った適正な物をお使いください。
推奨タイヤチェーン以外の物を使うと、ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

標準的なタイヤチェーンの取り付けかた

タイヤチェーンは、駆動輪の前輪に装着してください。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

- タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがって、正しく取り付けてください。
  ホイールに対して片寄ったり、ゆるかったりするとホイールやブレーキ装置に傷をつけるおそれがありますので注意して装着してください。
- タイヤチェーンは平らな所で他の交通に十分注意して取り付けてください。
  必要に応じて非常点滅表示灯などを使ってください。
- タイヤチェーンを取り付けたときには、安全のため雪道、凍結路では30km/h以下の速度で運転してください。
  なお乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したままで走行するのは避けてください。チェーンの摩耗を早めます。
- **応急用スペアタイヤ装備車**
  応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。
  チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これに標準タイヤ用のタイヤチェーンを装着してください。

駐車するとき

パーキングブレーキの凍結を防ぐために、パーキングブレーキは使わないでください。
マニュアル車はギヤをR（後退）か１に、オートマチック車はⓅに入れます。
石などで輪止めをしておきます。

●屋外に駐車するとき

- エンジンの冷えすぎを防ぐために、車の前部を風下や日の当たる方向に向けて停めてください。
  - ・エンジンが冷えすぎると始動しにくくなることがあります。
- 落雪や積雪を避けるために、軒下や樹木の下などには停めないでください。
  - ・車の屋根などがへこむことがあります。
- ワイパーアームは起こしてください。
  - ・雪の重みでアームの取り付け部がこわれることがあります。

ワイパーアームの起こしかた
→351ページ

●長期間使わないで屋外におくとき

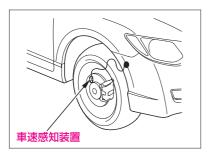
塗装面の保護とドアまわりの凍結を防ぐために、ボディカバーを使ってください。

⚠注意

- 格納するとき、エンジン部を毛布で覆ったり、ラジエーターのまわりに段ボールや新聞紙をはさみ込んだりしないでください。
  そのまま走行すると、火災のおそれがあります。

冬期の手入れ

●雪道走行後の手入れ

・フェンダー裏側や足まわりに付着した泥、雪は周囲の部品を損傷しないように取り除いてください。足まわり（前、後輪の4か所）に車速感知装置が取り付けてありますので、傷をつけないように特に注意してください。

・積雪時には道路に凍結防止剤がまかれていることがあります。錆の原因になりますので、走行後はすぐに洗車してください。特に下回りは念入りに行ってください。

●点検・整備

バッテリーについて

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

エンジンオイルについて

冬期はオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、または市街地を運転される方は、早めに交換してください。

冷却水について

冷却水の凍結を防ぐために点検してください。

ウォッシャー液について

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

● 点検方法はメンテナンスノートを参照し、交換はHonda販売店にご相談ください。

こんなときは

雨の日の運転

雨の日は視界が悪くなるうえ、窓ガラスが曇ったり、路面が滑りやすくなるなど悪条件が重なるので通常より注意深い運転が必要です。

・急加速、急ブレーキや急ハンドルを避け、晴れの日よりも速度を落とし、車間距離を十分にとって運転しましょう。
・ハイドロプレーニング現象に注意しましょう。
・雨の降り始めの舗装道路は滑りやすいので特に気を付けましょう。
・冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。
　エンジンの破損や電装品の故障および車両故障につながるおそれがあります。

⚠警告

●滑りやすい路面では、急加速、急ブレーキや急ハンドルは避けてください。
　車のコントロールを失い思わぬ事故につながります。

ハイドロプレーニング現象とは

路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることをいいます。

・このような状態になると、ハンドルやブレーキが効かなくなり、非常に危険です。

●ガラスの曇りをとりたいとき

ガラスが曇って外が見にくいときは、エアコンのデフロスターを使って曇りをとります。

リヤガラスの曇りは

リヤデフロスタースイッチを押して、曇りをとります。

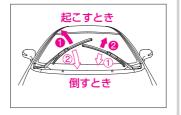
●ガラスの油膜をとりたいとき

油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射します。
ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにします。

・ガラスクリーナーはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

●ワイパーの拭きむらがあるとき

ワイパーブレードのラバーが傷んでいると、拭きむらが出て視界の妨げとなります。また、ガラス面を傷つけることがありますので、早めに交換してください。

● ワイパーアームを起こしたり倒したりするときは、図の順に行ってください。

夏場の取り扱い

●エアコンの上手な使いかた

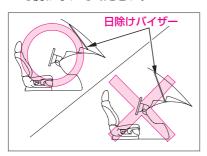
オートエアコン装備車

- 室内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンをかけましょう。
- エアコンの冷やしすぎは健康上良くありません。

●炎天下に駐車するときは

ボディーに覆いをかけたり、ハンドルやシートにタオルなどをかけて、室内温度の上昇を抑えましょう。

日除けバイザーを使うときは、インストルメントパネルやメーターの変色、変形を防ぐため、次のことをお守りください。

- 光沢性のものは使わないでください。
- 上側と下側のメーターの間の位置で使わないでください。

●海から帰ってきたときは

海に出かけた後は車も塩分を浴びています。錆の原因になりますので早めに洗車してください。下回りも念入りに洗いましょう。

●オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量が不足しないように、こまめに点検します。

- 走行中、水温計が“H”マークまで点灯した場合は、オーバーヒートのおそれがあります。安全な場所に停車してエンジンを冷やしてください。

オーバーヒートしたとき
→292ページ

環境にやさしい省エネドライブをするために

●点検整備をきちんとし、タイヤの空気圧を適正にしましょう。

■適正空気圧で50km走ると50kPa ｛0.5kgf/cm²｝ 減のときに比べてガソリン 150ccの節約。

▲CO_2 1250g削減（650km／月）

●タイヤの空気圧が低下すると走行抵抗が増加し、燃費に大きく影響します。また、冬用タイヤや幅広タイヤを装着したときも同様に燃費に影響します。

●不必要な荷物は降ろして走行しましょう。

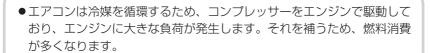
■10kgの荷物を降ろして50km走ると、ガソリン 15ccの節約。

▲CO_2 130g削減（650km／月）

●エアコンは少し控えめにしましょう。室内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンをかけましょう。

■エアコンを６分停止して、ガソリン 70ccの節約。

▲CO_2 1340g削減（３時間／月）

●エアコンは冷媒を循環するため、コンプレッサーをエンジンで駆動しており、エンジンに大きな負荷が発生します。それを補うため、燃料消費が多くなります。

●ヘッドライトやリヤデフロスターは電力を多く消費するため、不必要なときはスイッチを“OFF”にしてください。

●発電機はエンジンで駆動しており、消費電力が増加すると発電量が増加し、エンジンの負荷が大きくなり、それを補うため、燃料消費が多くなります。

●空ぶかしはしないようにしましょう。

■空ぶかしを１回やめて、ガソリン　6 ccの節約。

▲CO_2 1150g削減（300回／月）

●長時間停車するときは、エンジンを停止してください。また、長すぎる暖機運転をしないようにしましょう。

■５分間のアイドリングを止めて、ガソリン65ccの節約。

▲CO_2 420g削減（10回／月）

●変速位置の選択は、走行速度や坂の勾配に合わせて適切に行ってください。

・オートマチック車は通常は[D]で走行します。

・下り坂で速度が出すぎてしまうときは、エンジンブレーキを使います。
オートマチック車（1.8G）は[D3]にして、エンジンブレーキを使用してください。
[D3]のままで速度が出すぎるときは[2]または[1]にし、さらに強いエンジンブレーキを使用してください。
オートマチック車（1.8GL、2.0GL）はシフトスイッチを引いて走行速度に合わせて、ギヤを一段ずつ落としてください。マニュアル車はギヤを一段ずつ落として、エンジンブレーキを使います。

●下り坂などでエンジンブレーキを使う目的で、より低速のギヤを有効に使うと、燃料カットの時間が長くなり、燃費が良くなることがあります。

●経済速度について

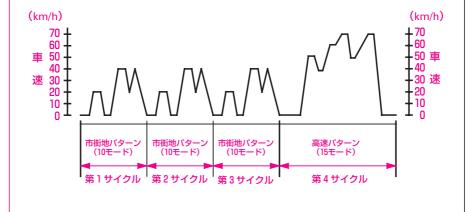
・高速道路では100km/hを80km/hにして燃費10～30%の節約。
・一般道路では法定速度(40～60km/h)の範囲で一定走行すると燃費は良くなります。

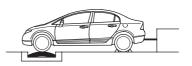
参考資料＊社団法人日本自動車工業会：「あしたへECO－MOTION」参照
《対象車種2.0L乗用(AT)の燃費＝11.7km/l(10・15モード)が計算ベース》

●10・15モード燃費について

10・15モード燃費とは

東京都内の幹線道路における平均的な走行形態の10モードと、高速走行や渋滞など大都市における走行形態を反映させた15モードを図のように
・市街地パターン(10モード)を３回
・高速パターン(15モード)を１回
の計４サイクルで走行したときの排出ガス量(g/km)を測定します。
このときに消費した燃料を10・15モード燃費(km/l)として表示しています。

＊計測走行距離　4.2km、平均車速　23km/h

10・15モード燃費と実走行燃費との違い

10・15モード燃費は図のようにシャーシダイナモメーター上で定められた試験条件のもとで行われた燃費値です。
実際の走行時には気象、道路、車両、運転、整備などの状況が異なってきますので、それに応じて燃費が異なります。

10・15モード燃費の計測方法(国土交通省認可時 測定条件)

・完全暖機状態　60km/h 15分暖機後モード測定
・走行抵抗設定　車両(空車)状態＋110kg(2名乗車分)
・搭載電気機器“OFF”状態
・エアコン“OFF”で測定

サービスデータ

2.0GL
ブレーキ
リザーブタンク
エンジンオイル
注入口
エンジンオイル
レベルゲージ
エアクリーナー
エレメント
トランスミッション
オイルレベルゲージ
ウィンド
ウォッシャー液
タンク
補機ベルト
ラジエーター
キャップ
冷却水
リザーブタンク
バッテリー

1.8G、1.8GL

ブレーキ
リザーブタンク
エンジンオイル
レベルゲージ
クラッチ
リザーブタンク
（マニュアル車）
エンジンオイル
注入口
エアクリーナー
エレメント
トランスミッション
オイルレベルゲージ
（オートマチック車）
ウィンド
ウォッシャー液
タンク
補機ベルト
ラジエーター
キャップ
冷却水
リザーブタンク
バッテリー

TYPE R
エンジンオイル
レベルゲージ
エアクリーナー
エレメント
ブレーキ
リザーブタンク
クラッチ
リザーブタンク
エンジンオイル
注入口
ウィンド
ウォッシャー液
タンク
補機ベルト
パワーステアリング
オイルタンク
ラジエーター
キャップ
バッテリー
冷却水
リザーブタンク

点検整備については「メンテナンスノート」も合せてご覧ください。

項　　目		サ　ー　ビ　ス　デ　ー　タ
ベルトのたわみ量		
	補機ベルト（パワーステアリング※、発電機、ウォーターポンプ、エアコンディショナー）	自動調整式（インジケーターが基準範囲内にあること）

※：TYPE Rのみ

項目		サービスデータ		
点火プラグ※	タイプ	NGK	1.8G 1.8GL	IZFR6K11S
			2.0GL	IZFR6K11
			TYPE R	IFR7G11KS
		DENSO	1.8G 1.8GL	SKJ20DR-M11S
			2.0GL	SKJ20DR-M11
			TYPE R	SK22PR-M11S
	電極のすき間 （基準値）	1.0－1.1 mm		
ブレーキペダル	遊び	1－5 mm		
	床板とのすき間	マニュアル(1.8G)	87 mm 以上 {約196N(20kgf)の力}	
		マニュアル(TYPE R)	89 mm 以上 {約196N(20kgf)の力}	
		オートマチック	92 mm 以上 {約196N(20kgf)の力}	
	カーペットとのすき間 （参考値）	マニュアル(1.8G)	57 mm 以上 {約196N(20kgf)の力}	
		マニュアル(TYPE R)	59 mm 以上 {約196N(20kgf)の力}	
		オートマチック	62 mm 以上 {約196N(20kgf)の力}	
クラッチペダル	遊び	7－8 mm		
	床板とのすき間	1.8G	69 mm 以上(クラッチが切れたとき)	
		TYPE R	71 mm 以上(クラッチが切れたとき)	
	カーペットとのすき間 （参考値）	1.8G	48 mm 以上(クラッチが切れたとき)	
		TYPE R	50 mm 以上(クラッチが切れたとき)	
パーキングブレーキ	引きしろ	1.8G 1.8GL、2.0GL	8－10ノッチ {約196N(20kgf)の力}	
		TYPE R	6－7ノッチ {約196N(20kgf)の力}	
バッテリー	容量／タイプ	1.8G 1.8GL、TYPE R	32AH(5)／44B19L	
		2.0GL	36AH(5)／46B24L	

※：イリジウムプラグを使用していますので、次のことに注意してください。

- イリジウム合金チップの微粒子膜を損傷するおそれがあるので、ワイヤーブラシ等による清掃は行わないでください。
- プラグギャップは調整できません。基準値をこえているものは交換してください。
（清掃はクリーナーにて20秒以下で行ってください。）

項　目		サービスデータ
電球（バルブ）	W（ワット）数	ヘッドライト（ロービーム）…… 12V－35W ※1 12V－51W ※2、※3 ヘッドライト（ハイビーム）…… 12V－60W ※3 フォグライト………………… 12V－55W ※3 前面方向指示器／前面非常点滅表示灯 …… 12V－21W（橙色） 車幅灯………………………… 12V－5W 側面方向指示器／側面非常点滅表示灯 …… 12V－5W（橙色）※4 LED※5 後面方向指示器／後面非常点滅表示灯 …… 12V－21W（橙色） 番号灯………………………… 12V－5W 制動灯／尾灯………………… 12V－21/5W 尾灯…………………………… 12V－5W ハイマウントストップランプ…… 12V－21W LED※6 後退灯………………………… 12V－18W 室内灯………………………… 12V－8W マップランプ………………… 12V－8W ドア開閉灯…………………… 12V－3.4W バニティミラー照明灯……… 12V－2W トランクルーム照明灯……… 12V－5W

※1：ディスチャージヘッドライト装備車
※2：ハロゲンヘッドライト装備車
※3：ハロゲンバルブ
※4：ドアミラーウィンカー非装備車
※5：ドアミラーウィンカー装備車
※6：TYPE R

⚠注意

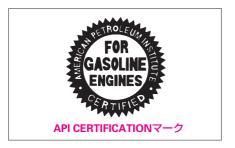
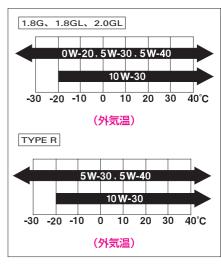
●ディスチャージヘッドライトのバルブを交換する場合は、必ずHonda販売店で行ってください。
ディスチャージヘッドライトは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。

項　　目		サ　ー　ビ　ス　デ　ー　タ		
エアクリーナーエレメント	タ　イ　プ	湿式		
エンジンオイル	推奨オイル	Honda純正オイル（4サイクル四輪車用） ウルトラLEO-SM（API SM/GF-4級SAE 0W-20）※ ウルトラLTD-SM（API SM/GF-4級SAE 5W-30） ウルトラGOLD-SM（API SM級SAE 5W-40） ウルトラMILD-SM（API SM/GF-4級SAE 10W-30）		
	規　定　量	オイル交換時	1.8G 1.8GL	3.5 ℓ
			2.0GL	4.0 ℓ
			TYPE R	4.5 ℓ
		オイル、オイルフィルター同時交換時	1.8G 1.8GL	3.7 ℓ
			2.0GL	4.2 ℓ
			TYPE R	4.7 ℓ

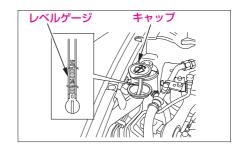
※：0W-20は、最も省燃費性に優れたオイルです。
（但し、TYPE Rには使用しないでください。）

推奨エンジンオイル

Honda純正エンジンオイルまたはAPI SL級以上か、オイル缶にAPI CERTIFICATION（エーピーアイ　サーティフィケーション）マークの入ったエンジンオイルをお使いください。

API CERTIFICATIONマーク

市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。

項目		サービスデータ		
燃料	指定燃料	1.8G 1.8GL、2.0GL	無鉛レギュラーガソリン （無鉛ハイオクも使用可能）	
		TYPE R	無鉛プレミアムガソリン （無鉛ハイオク）	
	タンク容量	50ℓ		
トランスミッションオイル	指定オイル	マニュアル	Honda純正オイルウルトラ MTF-IIまたはMTF-III	
	指定液	オートマチック	Honda純正ウルトラATF-Z1	
	規定量	マニュアル （交換時）	1.8G	1.4ℓ
			TYPE R	1.9ℓ
		オートマチック （交換時）	1.8G、1.8GL	2.4ℓ
			2.0GL	2.9ℓ
冷却水	指定液	Honda純正ウルトラｅクーラント		
	規定濃度	50%		
	規定量 （交換時リザーブタンク0.4ℓ含む）	マニュアル	1.8G	5.2ℓ
			TYPE R	4.5ℓ
		オートマチック （交換時）	1.8G、1.8GL	5.5ℓ
			2.0GL	4.3ℓ
ブレーキ液	指定液	Honda純正ウルトラブレーキフルードDOT 3 またはDOT 4		
クラッチ液	指定液	Honda純正ウルトラブレーキフルードDOT 3 またはDOT 4		
パワーステアリング液 TYPE R	指定液	Honda純正ウルトラパワーステアリングフルード-II		
ウォッシャー液	タンク容量	2.5ℓ		

ウォッシャー液の量の点検

ウォッシャー液の量は、キャップに付いているウォッシャー液レベルゲージにより確認します。

1.8G(VSA非装備車)

タイヤサイズ ＼ 項目		タイヤ空気圧 kPa(kgf/cm²)		リムサイズ※	
		前輪	後輪	スチールホイール	アルミホイール
標準タイヤ	205/55R16 89V	220 (2.2)		16×6½J	
応急用スペアタイヤ	T125/70D15 95M	420 (4.2)		15×4T	

1.8G(VSA装備車)

タイヤサイズ ＼ 項目		タイヤ空気圧 kPa(kgf/cm²)		リムサイズ※	
		前輪	後輪	スチールホイール	アルミホイール
標準タイヤ	205/55R16 89V	220 (2.2)		16×6½J	
応急用スペアタイヤ	T135/80D15 99M	420 (4.2)		15×4T	

1.8GL、2.0GL

タイヤサイズ ＼ 項目		タイヤ空気圧 kPa(kgf/cm²)		リムサイズ※	
		前輪	後輪	スチールホイール	アルミホイール
標準タイヤ	205/55R16 89V	220 (2.2)			16×6½J
応急用スペアタイヤ	T135/80D15 99M	420 (4.2)		15×4T	

TYPE R

タイヤサイズ ＼ 項目		タイヤ空気圧 kPa(kgf/cm²)		リムサイズ※	
		前輪	後輪	スチールホイール	アルミホイール
標準タイヤ	225/40R18 88Y	200 (2.0)	180 (1.8)		18×7½J

タイヤの溝の深さ	1.6 mm 以上
位置交換時期(タイヤローテーション)	5,000 km ごと

※:この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
ホイール交換に際しては、必ずHonda販売店にご相談ください。

名称	排気量（cm^3）	車体形状	乗車定員（人）	タイプ
シビック	1,799	4 ドアセダン	5	1.8G
				1.8GL
	1,998			2.0GL
			4	TYPE R

さくいん

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

オ

カ

キ

ク

ケ

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

サ

ス

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

ソ

タ

チ

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

ヒ

フ

ヘ

ホ

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

マ

ミ

ム

メ

ユ

ヨ

ラ

リ

ル

レ

ワ

A

C

E

H

I

L

赤色文字の項目は、万一のときの処置についてのものです。

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9：00～12：00　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町8－1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①車検証記載事項
　車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
②車種名、タイプ名、走行距離
③ご購入年月日
④販売店名

エアバッグシステム故障診断記録装置について

この車には、エアバッグシステムを制御するためのコンピューターが搭載されており、衝突によりセンサーが一定以上の衝撃を感知したときには次の内容をデータとして記録します。

・エアバッグシステムの故障診断情報
・エアバッグの作動に関する情報
・助手席乗員の有無（サイドエアバッグシステム装備車）
・運転席および助手席のシートベルト着用の有無

これらのデータはお車を所有されるかたのものであり、次の場合を除き、利用されることはありません。

・エアバッグシステムを点検、修理するとき
・お車の所有者または使用者の同意があるとき
・裁判所の命令等、法的強制力を持つ要請があるとき

こんなことでお困りのとき

●キーレスエントリーまたはHondaスマートキーで解錠しても、自動で閉まってしまう

・キーレスエントリーまたはHondaスマートキーで解錠してから、ドアを開けないまま、約30秒たっていませんか。

キーレスエントリーで解錠するとき →46ページ
Hondaスマートキーで施錠・解錠するとき →48ページ

●エンジンスイッチが回せない

“0”から“I”に回らないとき（ハンドルロックの解除）

・ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。

エンジンスイッチ →129ページ

・ Hondaスマートキーシステム装備車
ハンドルを左右に動かしながらエンジンスイッチを回すか、エンジンスイッチノブを押し直してゆっくり回してください。

エンジンスイッチ →133ページ

“I”から“0”に回らないとき オートマチック車

・セレクトレバーがⓅに入っていますか。

エンジンスイッチ →129、134ページ

●エンジンがかからない

・オートマチック車は、セレクトレバーがⓅかⓃに入っていますか。
・イモビライザーシステム表示灯が点滅していませんか。

イモビライザーシステム →68ページ

・ Hondaスマートキーシステム装備車
Hondaスマートキーに異常はありませんか。

エンジン始動の作動範囲 →132ページ

・ガソリンが入っていますか。（メーター内の燃料計で確認してください。）
・バッテリーがあがっていませんか。

バッテリーあがりのとき →294ページ

・マニュアル車はクラッチペダルをいっぱいに踏み込んでいますか。

クラッチ・スタートシステム →150ページ

●セレクトレバーがⓅから動かせない オートマチック車

・ブレーキペダルを踏んでから操作していますか。
（操作できないときは、キーをシフトロック解除穴に差し込み、押しながらセレクトレバーを動かしてください。）

セレクトレバーが動かないとき →173ページ

・エンジンスイッチを“II”にしてから操作していますか。

シフトロック装置の正しい理解を →29ページ

●パワーウィンドーの開閉ができない

・パワーウィンドーのメインスイッチが“OFF”になっていませんか。

パワーウィンドー →64ページ

●ドアを開けるとブザーが鳴る

「ピピピピ」とブザーが繰り返し鳴り続けるときは

・キーをエンジンスイッチに差し込んだままになっていませんか。

キー抜き忘れ警告ブザー →130ページ

・Hondaスマートキーシステム装備車
エンジンスイッチノブを“0”(プッシュオフ)以外にしていませんか。

エンジンスイッチ警告ブザー →135ページ

「ピー」とブザーが鳴り続けるときは

・ライトを消し忘れたままになっていませんか。

ライト消し忘れ警告ブザー →139ページ

●後席ドアが室内から開けられない

・チャイルドプルーフが施錠されていませんか。

チャイルドプルーフ →53ページ

●キーを閉じ込めてしまった

・Honda販売店またはJAFへご連絡ください。

●水温計が“H”のマークまで点灯した
●エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

・オーバーヒートのおそれがあります。
(安全な場所に停車して、エンジンを冷やしてください。)

オーバーヒートしたとき →292ページ

●走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

・ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。
(Honda販売店で点検を行ってください。)

●走行中にブレーキを踏むと、ペダルが振動する

・アンチロックブレーキシステム(ABS)が作動したものと思われます。

ABSのしくみ →210ページ

●走行するとブザーが鳴る

ブザーが鳴り、シートベルト非着用警告灯が点滅しているときは

・運転席シートベルトを着用していますか。
(運転席シートベルトを着用してください。)

シートベルトリマインダー →87ページ

ブザーが鳴り、ブレーキ警告灯が点灯しているときは

・パーキングブレーキを完全に解除していますか。
(パーキングブレーキを完全に解除してください。)

ブレーキ警告灯 →120ページ
パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザー →153ページ

万一、異常や故障などの不具合が生じた場合は、
Honda 販売店で点検整備を受けてください。
各所在地、電話番号については、別冊の「サービス網一覧」
をご覧ください。

インターネットでも取扱説明情報をお伝えしております。
Digital Owner's Manualのホームページ
http://www.honda.co.jp/manual/

30SNB640
00X30-SNB-6401

ⓃⒽⒸ1000.2008.06.8